

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	アジア考古学	前期	水1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	宮城弘樹（8）・上原静（7）	2年	問い合わせ先は E-mail「h.miyagi@oki.u.ac.jp」です。	

学びの準備	ねらい アジアの遺跡や考古学研究について紹介する。広くアジア地域の考古学と南島考古学を比較研究するための基礎知識の習得を目標とする。	メッセージ 【実務経験】遺跡の保存整備などの実務経験を活かし、沖縄の遺跡との比較を中心に、アジアの遺跡や遺物について解説します。
	到達目標 考古学のモノの見方考え方を理解し、自分の言葉で説明できる。 広い地域、長期の時間的変遷という広い視点で、琉球列島の歴史事象について遺跡・遺物から考える事ができる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	アジアの歴史遺産とグローバルヒストリー	シラバスをよく読むこと
	2	アジアの旧石器遺跡と沖縄の更新世人類	テキスト、配布資料をよく読むこと
	3	アジアにおける貨幣製造	テキスト、配布資料をよく読むこと
	4	アジアの水中文化遺産	テキスト、配布資料をよく読むこと
	5	東南アジアの考古学（1）	テキスト、配布資料をよく読むこと
	6	東南アジアの考古学（2）	テキスト、配布資料をよく読むこと
	7	アジアに広がる日本陶磁	テキスト、配布資料をよく読むこと
	8	太平洋戦争と東アジアの戦争遺跡	テキスト、配布資料をよく読むこと
9	日本の先史考古学	テキスト、配布資料をよく読むこと	
10	韓国の先史考古学	テキスト、配布資料をよく読むこと	
11	中国の先史考古学	テキスト、配布資料をよく読むこと	
12	台湾の先史考古学	テキスト、配布資料をよく読むこと	
13	石造文化	テキスト、配布資料をよく読むこと	
14	仏教文化	テキスト、配布資料をよく読むこと	
15	世界遺産	テキスト、配布資料をよく読むこと	
16	テスト・レポート提出	各自課題に取り組むこと	
実践	テキスト・参考文献・資料など テキスト：飯島武次2015年『中国考古学のでびき』同成社。四日市康博（編著）2008年『モノから見た海域アジア史（九大アジア叢書11）』九州大学出版会。江上波夫（編著）1976年『考古学ゼミナール』山川出版。 参考文献：宮本一夫2005年『中国の歴史01 神話から歴史へ 神話時代夏王朝』講談社。坂井隆、新田栄治（編著）1998年『東南アジアの考古学（世界の考古学⑧）』同成社。西谷正2016年『北東アジアの中の弥生文化 私の考古学講義上』梓書院。西谷正2016年『北東アジアの中の古墳文化 私の考古学講義下』梓書院。 基本的に講義形式で行い、関連資料を配付する。		
	学びの手立て 履修上の心構えとして、以下注意していただきたい。 ・出欠確認を毎回厳格に行うので、やむを得ず遅刻・欠席する場合は、必ず事前に連絡すること。 ・提出するレポートと課題は、切厳守の上必ず取り組むこと。 ・「考古学概論」「沖縄の考古学」を事前に受講しているとより理解が早い。		
	評価 レポート（80%）、テーマは東アジアの遺跡や遺物、文化交流等に関するテーマについて担当教員ごとに1題、計2題課す。平常点（20%）。 提出レポートと平常点によって総合的に評価する。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 アジアの考古学研究によって得られた研究成果を広く教養として身につけ、南島考古学をアジアの視点で理解する。 関連科目としては「アジア史」「アジア文化概論」「沖縄の考古学」「南島考古学Ⅰ・Ⅱ」「南島先史学Ⅰ・Ⅱ」。
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	アジア史	前期	月 3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-前田 勇樹	2年	講義終了後に教室で受け付けます。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	本講義では主にアヘン戦争以降、近代への大きな転換期を迎える19世紀末の東アジアの歴史や文化を通して、世界的な大きな流れを掴み、その中で地域社会にどのような変化が生じたのか受講者と共に考えていきます。アヘン戦争や欧米列強の進出、日本帝国の誕生、伝染病などいくつかのトピックを通して東アジア社会の変化を捉え、最終的には現代社会の問題に繋げて考えることが目標です。	高校までの「歴史＝暗記」とは異なり、本講義では歴史事象を通して「考える」ことを受講者に求めます。一つ一つの出来事にはどのような意味があり、どのような繋がりがあるのか、担当教員も含めて受講者全員で考えていきましょう。

到達目標	19世紀末から始まるアジアの近代化について学ぶことで、単純な一国史(例えば日本史や中国史など)を超えた広い視野で歴史を捉える能力の獲得を目指します。何がどのように影響し合っているのか、アジアへの欧米列強の進出と「近代」の流入を通して学んでいきます。その一方で、この大きな歴史の流れが地域社会にどのような影響を与えたのか、講義の後半では琉球(沖縄)の事例を中心に学びます。マクロとミクロ双方の視点を関連させて歴史を考える事は、今後皆さんが各自の研究を進める上でも重要な能力と言えます。また、今私たちが生きている近代国家は、アジアでは本講義で扱う19世紀末から形成されていきます。本講義を通して、自分が生きている現在を考える視点を養うことができるでしょう。
------	--

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	シラバスの熟読
	2	「アジア」とは何か?	配布資料を使った予習・復習
	3	アジア史とは①	配布資料を使った予習・復習
	4	アジア史とは②	配布資料を使った予習・復習
	5	アジア史とは③	配布資料を使った予習・復習
	6	アジア史とは④	配布資料を使った予習・復習
	7	アジア史とは⑤	配布資料を使った予習・復習
	8	中間テスト	2～7の授業資料の見直し
	9	欧米列強のアジア進出①	配布資料を使った予習・復習
	10	欧米列強のアジア進出②	配布資料を使った予習・復習
	11	欧米列強のアジア進出③	配布資料を使った予習・復習
	12	琉球処分とその時代①	配布資料を使った予習・復習
	13	琉球処分とその時代②	配布資料を使った予習・復習
	14	伝染病と東アジアの近代①	配布資料を使った予習・復習
15	伝染病と東アジアの近代②	配布資料を使った予習・復習	
16	期末テスト	9以降を中心に全配布資料の熟読	

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など 講義は配布資料とパワーポイントを中心に、資料は毎回担当教員から配布します。参考文献や読んでおいてほしい文献については、適宜授業中に紹介します。
-------	---

学びの手立て	講義は基本的に配布資料やパワーポイントを用いた座学形式で行います。授業内容で重要だと思った内容に関しては適宜メモをとり、不明な点や疑問的についてはそのまませず、リアクションペーパーに書くか、担当教員に直接質問してください。授業の内容を聞いて特に興味深いと思ったことについて、受講者自ら文献や論文を探して読んでおくことを推奨します。また、出席の確認も兼ねて受講者に意見や考えを聞くことがあります。
--------	---

評価	中間考査20%(穴埋め問題と論述問題)、期末考査40%(穴埋め問題と授業内容に関する論述問題)、平常点40%(毎回の授業態度と授業後のリアクションペーパーの内容) 無断欠席5回以上は不可とします。
----	--

学びの継続	次のステージ・関連科目 このアジア史の講義を通して歴史をみる時に重要なマクロ(アジア)とミクロ(各地域社会の変化)両方の視点が身に付くと思います。これは歴史研究のみに限らず、現代社会が抱える多くの問題を考える上でも重要な能力と言えます。受講者各自の今後の研究や日々の実践の中で生かしてもらいたいです。
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	アジア社会文化論 I	後期	火 4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-大城 博美	2年	講義の後教室で。または学内メールにて。	

学びの準備	ねらい 中国と深い関わりを持ってきた沖縄・日本において、中国の歴史、文化、社会を知ることによって見えてくる世界が変わってくると思います。まずは、中国に興味・関心を持ち、「知ろう！知りたい！！」とする姿勢を育みましょう。	メッセージ 「知りたい！」という思いから、理解への扉が開きます。興味・関心を持ち、自分で調べ、知識を広げ、見識を深め、自分の頭で考えて行く、そのプロセスを大切にしましょう。
	到達目標 世界における現在の中国の在り方、中国と日本の関係などを理解していくために、まずは興味・関心を持つ。どのような歴史的経緯の中、どのような人たちが何を考えて生活しているのか中国文化・社会を知り、さらなる相互理解へとつながる基礎力を身につける。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション (イントロダクション)	なぜ中国について学ぶのか考えよう
	2	中国とは？ 今の「中国」に関心をもつことから、始めよう！	新聞記事から中国について調べよう
	3	中国の歴史①	世界史の中の中国について調べよう
	4	中国の歴史②	沖縄・日本との関係に着目しよう
	5	中国の社会①	配布資料を読み込んでみよう
	6	中国の社会②	自分自身の状況と比較してみよう
	7	中国の社会③	図書館に行って関連する本を探そう
	8	中国の思想・世界観・信仰・宗教①	配付資料を読み込んでみよう
	9	中国の思想・世界観・信仰・宗教②	図書館に行って関連する本を探そう
	10	中国の思想・世界観・信仰・宗教③	気になる事項についてネット検索
	11	中国の思想・世界観・信仰・宗教④	身近な信仰を調べてみよう
	12	中国の人びとの人生と時間①	配付資料を読み込んでみよう
	13	中国の人びとの人生と時間②	図書館で関連する本を探そう
	14	激動する現代中国	ドキュメンタリーなどを見よう
	15	全体のまとめ・ふりかえり	
	16	期末試験 (論述式)	
	テキスト・参考文献・資料など		
	テキストは特に指定しません。講義時に適宜紹介、資料を配布していきます。講義を進める際には、イメージを広げやすいできるだけ映像や写真などの視覚資料も用います。		
	学びの手立て		
	①「履修の心構え」 ・他の受講生の妨げとなるためおしゃべり厳禁。スマホいじり厳禁。 ・講義開始後20分を過ぎた遅刻は正当な理由がない限りは欠席扱いとします。 ②「学びを深めるために」 ・テレビのドキュメンタリー番組などを見て興味・見識の幅を広げてください。歴史的にも深いつながりを持ってきた「中国」について、まずは興味を持つことから始めましょう。新聞記事、ニュースのトピックに出てくる「中国」を意識してみましよう。気になったトピックについて、さらに本を読んだり調べたりして見識を深めていきましょう。		
	評価		
	出席確認および内容理解の確認を兼ねたリアクションペーパー (30%)、学期末テスト (70%)		

学びの継続	次のステージ・関連科目 中国をはじめ、その他のアジア、または世界のその他の地域への関心をもとう。より深く世界の中の沖縄・日本の在り方についても理解を深めるために、「比較民俗学」や「アジア文化概論」、「文化人類学」といった講義でさらなる学びを深化させましょう。
-------	--

※ポリシーとの関連性

本科目は、「フィールドワーク」・「比較文化的観点」を強調する
本学科の教育目標の実現において不可欠なものである。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	アジア社会文化論Ⅱ	後期	月2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-神谷 智昭	2年	授業終了後教室にて受付	

学びの準備	ねらい 近くて遠い国といわれる隣国、韓国の社会と文化について理解することを旨とする。	メッセージ 一見、奇妙に思える異文化の慣習・制度でも、その文化なりの論理や価値観の上に成り立っています。「なぜ異文化の人々はそう考えるのか、自分達の場合はどうなのか」という疑問を常に持ち、受講して下さい。
	到達目標 ①韓国の社会・文化を理解するための基礎的知識を身につけることができる。 ②ある文化の中で、歴史・家族親族・村落・民俗・宗教などが相互に関連しあっていることを理解できる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	講義全体の説明	
	2	韓国の歴史（1）	韓国の古代史について調べる
3	韓国の歴史（2）	韓国の中世史について調べる	
4	韓国の歴史（3）	韓国の近世史について調べる	
5	韓国の言語	韓国（朝鮮）語について調べる	
6	韓国の家族・親族（1）	韓国の家族・親族について調べる	
7	韓国の家族・親族（2）	韓国の家族・親族について調べる	
8	韓国の祖先祭祀	韓国の祖先祭祀について調べる	
9	韓国の村落（1）	韓国の村落について調べる	
10	韓国の村落（2）	韓国の村落について調べる	
11	韓国の村落祭祀	韓国の村落祭祀・年中行事を調べる	
12	韓国のシャーマニズム	シャーマニズムについて調べる	
13	変貌する韓国社会（1）	現代韓国の社会・文化を調べる	
14	変貌する韓国社会（2）	現代韓国の社会・文化を調べる	
15	変貌する韓国社会（3）	現代韓国の社会・文化を調べる	
16	期末試験		
	テキスト・参考文献・資料など 特定の教科書は用いず、毎回配布するレジюмеと資料、映像資料などを使用します。		
	学びの手立て 履修に際しては、通常の出席確認だけでなく、リアクション・ペーパー（感想・質問・意見）の提出を求める場合がある。他の受講生の学習を妨害するような言動があった場合には、退席を要求することもあるので注意すること。		
	評価 期末試験（論述式）80%、授業態度（リアクションペーパーの内容）20%		

学びの継続	次のステージ・関連科目 演習Ⅰ 演習Ⅱ アジア社会文化論Ⅲ 比較民俗学
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	アジア社会文化論Ⅲ	後期	水4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	一ダグラス トライスタッフ	2年	https://bee.okiu.ac.jp/mod/page/view.php?id=7062 / ptt1127@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	In this course students are introduced to Asian culture through the eyes of a particular ethnic group. The social and cultural characteristics are brought into focus through interaction with other cultures. This course is conducted in Japanese, but English text materials are utilized.	Don't be afraid of English. The lecture is conducted in Japanese.
到達目標	このコースは、ラオスとタイ北部に住んでいるモン族中に焦点を合わせ、そのレンズを通して、アジアの文化と社会を論じる。下記の内容について検討する：	

学びの実践	学びのヒント																																		
	<p>授業計画 (テーマ・時間外学習の内容含む)</p> <table border="0"> <tr> <td># Theme Homework</td> <td></td> </tr> <tr> <td>1 オリエンテーション、LMSの登録 LMSの登録</td> <td>時間外学習： WiKiの書き込み、次の章の翻訳</td> </tr> <tr> <td>2 タイ北部の六つの民族</td> <td>時間外学習： WiKiの書き込み、次の章の翻訳</td> </tr> <tr> <td>3 モン族の歴史</td> <td>時間外学習： WiKiの書き込み、次の章の翻訳</td> </tr> <tr> <td>4 神話と伝説</td> <td>時間外学習： WiKiの書き込み、次の章の翻訳</td> </tr> <tr> <td>5 民族衣装</td> <td>時間外学習： WiKiの書き込み、次の章の翻訳</td> </tr> <tr> <td>6 氏族と親族関係</td> <td>時間外学習： WiKiの書き込み、次の章の翻訳</td> </tr> <tr> <td>7 村落組織</td> <td>時間外学習： WiKiの書き込み、次の章の翻訳</td> </tr> <tr> <td>8 年中行事</td> <td>時間外学習： WiKiの書き込み、次の章の翻訳</td> </tr> <tr> <td>9 伝統工芸</td> <td>時間外学習： WiKiの書き込み、次の章の翻訳</td> </tr> <tr> <td>10 宗教と信仰：シャーマン、アニミズム、先祖崇拜</td> <td>時間外学習： WiKiの書き込み、次の章の翻訳</td> </tr> <tr> <td>11 農業と経済</td> <td>時間外学習： WiKiの書き込み、次の章の翻訳</td> </tr> <tr> <td>12 伝統的治療法</td> <td>時間外学習： WiKiの書き込み、次の章の翻訳</td> </tr> <tr> <td>13 秘密の戦争</td> <td>時間外学習： WiKiの書き込み、次の章の翻訳</td> </tr> <tr> <td>14 モン族の離散</td> <td>時間外学習： WiKiの書き込み、次の章の翻訳</td> </tr> <tr> <td>15 移民：異文化接触と文化の変化</td> <td>時間外学習： WiKiの書き込み</td> </tr> <tr> <td>16 期末テスト</td> <td></td> </tr> </table>	# Theme Homework		1 オリエンテーション、LMSの登録 LMSの登録	時間外学習： WiKiの書き込み、次の章の翻訳	2 タイ北部の六つの民族	時間外学習： WiKiの書き込み、次の章の翻訳	3 モン族の歴史	時間外学習： WiKiの書き込み、次の章の翻訳	4 神話と伝説	時間外学習： WiKiの書き込み、次の章の翻訳	5 民族衣装	時間外学習： WiKiの書き込み、次の章の翻訳	6 氏族と親族関係	時間外学習： WiKiの書き込み、次の章の翻訳	7 村落組織	時間外学習： WiKiの書き込み、次の章の翻訳	8 年中行事	時間外学習： WiKiの書き込み、次の章の翻訳	9 伝統工芸	時間外学習： WiKiの書き込み、次の章の翻訳	10 宗教と信仰：シャーマン、アニミズム、先祖崇拜	時間外学習： WiKiの書き込み、次の章の翻訳	11 農業と経済	時間外学習： WiKiの書き込み、次の章の翻訳	12 伝統的治療法	時間外学習： WiKiの書き込み、次の章の翻訳	13 秘密の戦争	時間外学習： WiKiの書き込み、次の章の翻訳	14 モン族の離散	時間外学習： WiKiの書き込み、次の章の翻訳	15 移民：異文化接触と文化の変化	時間外学習： WiKiの書き込み	16 期末テスト	
	# Theme Homework																																		
	1 オリエンテーション、LMSの登録 LMSの登録	時間外学習： WiKiの書き込み、次の章の翻訳																																	
2 タイ北部の六つの民族	時間外学習： WiKiの書き込み、次の章の翻訳																																		
3 モン族の歴史	時間外学習： WiKiの書き込み、次の章の翻訳																																		
4 神話と伝説	時間外学習： WiKiの書き込み、次の章の翻訳																																		
5 民族衣装	時間外学習： WiKiの書き込み、次の章の翻訳																																		
6 氏族と親族関係	時間外学習： WiKiの書き込み、次の章の翻訳																																		
7 村落組織	時間外学習： WiKiの書き込み、次の章の翻訳																																		
8 年中行事	時間外学習： WiKiの書き込み、次の章の翻訳																																		
9 伝統工芸	時間外学習： WiKiの書き込み、次の章の翻訳																																		
10 宗教と信仰：シャーマン、アニミズム、先祖崇拜	時間外学習： WiKiの書き込み、次の章の翻訳																																		
11 農業と経済	時間外学習： WiKiの書き込み、次の章の翻訳																																		
12 伝統的治療法	時間外学習： WiKiの書き込み、次の章の翻訳																																		
13 秘密の戦争	時間外学習： WiKiの書き込み、次の章の翻訳																																		
14 モン族の離散	時間外学習： WiKiの書き込み、次の章の翻訳																																		
15 移民：異文化接触と文化の変化	時間外学習： WiKiの書き込み																																		
16 期末テスト																																			
テキスト・参考文献・資料など	<p>テキスト： Lewis, Paul and Elaine. Peoples of the Golden Triangle</p> <p>参考文献：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・鈴木正嵩. ミャオ族の歴史と文化の動態. 風響社. 2012 ・Fadiman, Anne. The Spirit Catches You and You Fall Down. 1997. Farrar, Straus, and Giroux ・Symonds, Patricia V. Calling in the Soul. 2004. University of Washington Press 																																		
学びの手立て	Keep up with the class readings!																																		
評価	<p>発表・参加度 - 60%</p> <p>テスト・レポート - 40%</p>																																		

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>アジア社会文化論I、アジア社会文化論II、アジア社会文化論IV、卒論</p> <p>外国語で書かれている専門分野の資料・論文を読んで、理解し、発見した問題の分析する力を養成する。</p>
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	アジア社会論	後期	火2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-河村 雅美	2年	mamikw@nifty.com 授業終了後に教室・非常勤講師室で受け付けます	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>アジアの中で展開するグローバリゼーションと、その背景にあるアジア社会の現状をテーマとする授業です。国境を越える人の移動や、生殖ツーリズムなどを題材としていきます。また、他地域を理解するとはどのようなことか、異文化を理解するとはどのようなことなのか考える時に、必要な知識、視点を養っていきます。</p>	<p>担当教師はタイを専門としているので、東南アジアのトピックが多くなります。東南アジアのことはあまりなじみがないかもしれませんが、とても面白い地域なので、皆さんに興味をもってもらえるように映画などの視覚教材等を使ってわかりやすく講義を進めていきます。3-4回ずつのセッションに分け、グループディスカッションの機会も設けます。</p>
到達目標	<p>(1) アジア社会についての基本的な知識を学ぶ (2) アジアのグローバリゼーション現象についての事例を学ぶ (3) 他者や異文化を理解するとはどのようなことが必要かについての視点を持つ</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション・ガイダンス	シラバスや授業の流れの理解
	2	セッション1 アジア社会を理解するとは？(1)背景知識としての東南アジア	補助配布資料の理解
	3	セッション1 アジア社会を理解するとは？(2)「地図」「地名」からみるアジア	リアクションペーパー執筆
	4	セッション1 アジア社会を理解するとは？(3)”文化”が違うとは何か？を考える	補助配布資料の理解
	5	セッション1 アジア社会を理解するとは？(4)イメージ・表象について考える	補助配布資料の理解
	6	セッション1 知っておいてほしい理論の紹介（「オリエンタリズム」「伝統の創造」など）	リアクションペーパー執筆
	7	セッション2 人が国境を越えて移動するということは？映画を通じて考える(1)	補助配布資料の理解
	8	セッション2 人が国境を越えて移動するということは？映画を通じて考える(2)	補助配布資料の理解
	9	セッション2 人が国境を越えて移動するということは？映画を通じて考える(3)	補助配布資料の理解
	10	セッション2 知っておいてほしい国際情勢（日本の「技能実習制度」など）	リアクションペーパー執筆
	11	セッション3 アジアの「いのち」の移動を考える メディカル・ツーリズム	補助配布資料の理解
	12	セッション3 アジアの「いのち」の移動を考える 生殖ツーリズムの歴史と現状	補助配布資料の理解
	13	セッション3 アジアの「いのち」の移動を考える 生殖ツーリズムの歴史と現状	リアクションペーパー執筆
14	1-3 セッションの統括 / 授業ふりかえりディスカッション	レポート準備	
15	予備日・レポートの書き方	レポート準備	
16	レポート提出		
テキスト・参考文献・資料など	<p>・テキストは指定しない。 ・レジュメを配布する。 ・レジュメに参考文献等を記す。</p>		
学びの手立て	<p>[履修の心構え] アジア社会の細かい知識を覚えることは、要求しません。「他者」「他地域」「異文化」を知るとはどのようなことなのか、グローバリゼーションとはどのようなことなのか、を具体的な例を通じて考えることを重視します。 [学びの手立て] 積極的にアジアのニュースに接したり、映画や書籍に触れることを心がけてほしいと思います。</p>		
評価	<p>授業への参加姿勢・平常点(40点)、期末レポート(60点)で評価します。 [授業への参加姿勢]授業に対するリアクションペーパーの提出 [期末レポート]期末にレポートを課します。詳細は講義の中で提示します。 リアクションペーパーが規定提出数の2/3に達していない場合は期末レポートの提出資格はありません(期末レポートのみでの採点はしません。)</p>		

学びの継続	次のステージ・関連科目 外国語資料講読演習Ⅰ・Ⅱ、社会・平和領域の選択科目
-------	--

※ポリシーとの関連性

学科のカリキュラムおよびディプロマ・ポリシーに謳われる「地域理解能力」や「社会的コミュニケーション能力」と関わる。

[/]

科目基本情報	科目名 インターンシップ I	期別	曜日・時限	単位
	担当者 LC 教員 1	対象年次	授業に関する問い合わせ	
		2年	授業終了後に教室で受け付けます	

学びの準備	ねらい 沖縄国際大学インターンシップは各学科の専門教育科目として、県内の企業や公官庁で実施しています。その目的は学生が実社会での体験学修を通して、大学教育では得難い実践的知識と技能の習得、社会人としての適性を見定め、職業観を養うことにあります。参加にあたっては、社会人基礎力を大学生活での取り組みに置き換え、全プログラムを通して意識的に実行することが求められます。	メッセージ 事前ガイダンスではインターンシップに必要な心構えやビジネスマナー、社会人に必要なスキル等を学ぶことで、安心して実習に参加できます。さらに、事後ガイダンスや報告会の参加、報告書作成を通して、自らの学びを言語化することで「働く価値観」をより明確にします。本プログラムを通して、働くとはどういうことか具体的に考える経験にしませんか。
	到達目標 ①社会人としてのマナーを修得する。 ②職業観を養い、自らの適性を見定める。 ③組織の構造と機能を理解する。 ④企業・組織の基本理念と将来ビジョンの理解に努め、効率的な組織の仕組みを考える。 ⑤組織における自らの役割を理解した上で、思考し行動する力を修得する。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	第1回オリエンテーション（募集説明会） ※欠席不可	面接資料作成（申込手続き後）
	2	各学科担当教員による面接および学内選考	面接担当者へ面接日の事前確認
	3	第2回オリエンテーション（実習生の顔合わせ、リーダー決定、今後の説明等） ※欠席不可	実習先に関する情報収集
	4	事前ガイダンス1 インターンシップの意義・目的	ガイダンスの振り返り
	5	事前ガイダンス2 ビジネススキル①	ガイダンスの振り返り
	6	事前ガイダンス3 ビジネススキル②	実習先へ電話によるご挨拶
	7	事前ガイダンス4 社会人に求められるスキル	実習先業界の情報収集（新聞）
	8	事前ガイダンス5 情報収集スキル	ガイダンスの振り返り
	9	事前ガイダンス6 企業と社会の関係性	ガイダンスの振り返り
	10	事前ガイダンス7 インターンシップ体験談発表	ガイダンスの振り返り
	11	事前ガイダンス8 インターンシップガイダンス総集編	ガイダンスの振り返り
	12	第3回オリエンテーション（実習前後の注意事項、学科報告会の実行委員決定等） ※欠席不可	実習と報告会に向けて準備
	13	インターンシップ実習（夏期休業中の2or3週間） ※実習時間数により単位数が異なる	出勤簿・日報へ押印・記入し振返り
	14	事後ガイダンス1 インターンシップを通して考えるキャリア形成	ガイダンス内容を元に報告書作成
	15	事後ガイダンス2 学科報告会での担当別研修（発表者、司会、その他）	学科実習生全員で報告会運営準備
16	学科報告会（実習で得た学びを発表し、全体で共有する）	全体を通して学びの振り返り	

テキスト・参考文献・資料など
 実習生へ実習録を配布しますので、ガイダンス時の記録や実習中の出勤簿・日報などを記載してください。それらの記録をもとに、最終的に報告書作成や報告会の準備を行ってください。
 また、ガイダンス時に資料を配布しますので、あとで振り返りできるように整理してください。

学びの手立て
【応募資格】①各学科で受講可能となっている年次の学生（履修ガイドの学科選択科目を各自で確認すること）
 ②連続して2週間または3週間のインターンシップを意欲的にこなせる者 ③第1回オリエンテーション（募集説明会）から報告会まで、年間スケジュールと内容を理解して意欲的に臨める者
【注意事項】①各学科担当教員による面接を受けること ②全3回のオリエンテーションに参加すること（欠席不可） ③事前・事後ガイダンスを受講すること（他講義と重ならないよう確認すること） ④報告会を運営・参加すること ⑤連絡事項は、沖国大ポータル「学内連絡」、メールアドレス（学籍番号）へ連絡するので見落としがないよう確認すること

評価
【出席について】出席は単位習得の前提条件ですので、各オリエンテーションやガイダンス、報告会への欠席を毎回確認します。アルバイト等による欠席は認められません。出席状況が著しく悪い場合は、実習取り消しや不可となります。**【評価方法・割合】**①実習先による学生評価調査20% ②インターンシップ実習録（各ガイダンスの記録や課題、勤務状況、日報などから学びの状況を確認）60% ③インターンシップ報告書（実習先に関する理解度、インターンシップを通して得られたこと等について確認）20%

学びの継続
 次のステージ・関連科目
 “本インターンシッププログラムを通して気づいた自身の強みはさらに伸ばし、足りないと感じた部分は残りの学生生活で改善できるように取り組んでほしい。
 また、得られた職業観は今後のキャリアを考える際に役立ててほしい。”

※ポリシーとの関連性

学科のカリキュラムおよびディプロマ・ポリシーに謳われる「地域理解能力」や「社会的コミュニケーション能力」と関わる。

[/]

科目基本情報	科目名 インターンシップⅡ	期別	曜日・時限	単位
	担当者 LC 教員1	対象年次	授業に関する問い合わせ	
		2年	授業終了後に教室で受け付けます	

学びの準備	ねらい 沖縄国際大学インターンシップは各学科の専門教育科目として、県内の企業や公官庁で実施しています。その目的は学生が実社会での体験学修を通して、大学教育では得難い実践的知識と技能の習得、社会人としての適性を見定め、職業観を養うことにあります。参加にあたっては、社会人基礎力を大学生活での取り組みに置き換え、全プログラムを通して意識的に実行することが求められます。	メッセージ 事前ガイダンスではインターンシップに必要な心構えやビジネスマナー、社会人に必要なスキル等を学ぶことで、安心して実習に参加できます。さらに、事後ガイダンスや報告会の参加、報告書作成を通して、自らの学びを言語化することで「働く価値観」をより明確にします。本プログラムを通して、働くとはどういうことか具体的に考える経験にしませんか。
	到達目標 ①社会人としてのマナーを修得する。 ②職業観を養い、自らの適性を見定める。 ③組織の構造と機能を理解する。 ④企業・組織の基本理念と将来ビジョンの理解に努め、効率的な組織の仕組みを考える。 ⑤組織における自らの役割を理解した上で、思考し行動する力を修得する。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	第1回オリエンテーション（募集説明会） ※欠席不可	面接資料作成（申込手続き後）
	2	各学科担当教員による面接および学内選考	面接担当者へ面接日の事前確認
	3	第2回オリエンテーション（実習生の顔合わせ、リーダー決定、今後の説明等） ※欠席不可	実習先に関する情報収集
	4	事前ガイダンス1 インターンシップの意義・目的	ガイダンスの振り返り
	5	事前ガイダンス2 ビジネススキル①	ガイダンスの振り返り
	6	事前ガイダンス3 ビジネススキル②	実習先へ電話によるご挨拶
	7	事前ガイダンス4 社会人に求められるスキル	実習先業界の情報収集（新聞）
	8	事前ガイダンス5 情報収集スキル	ガイダンスの振り返り
	9	事前ガイダンス6 企業と社会の関係性	ガイダンスの振り返り
	10	事前ガイダンス7 インターンシップ体験談発表	ガイダンスの振り返り
	11	事前ガイダンス8 インターンシップガイダンス総集編	ガイダンスの振り返り
	12	第3回オリエンテーション（実習前後の注意事項、学科報告会の実行委員決定等） ※欠席不可	実習と報告会に向けて準備
	13	インターンシップ実習（夏期休業中の2or3週間） ※実習時間数により単位数が異なる	出勤簿・日報へ押印・記入し振返り
	14	事後ガイダンス1 インターンシップを通して考えるキャリア形成	ガイダンス内容を元に報告書作成
	15	事後ガイダンス2 学科報告会での担当別研修（発表者、司会、その他）	学科実習生全員で報告会運営準備
16	学科報告会（実習で得た学びを発表し、全体で共有する）	全体を通して学びの振り返り	

テキスト・参考文献・資料など
 実習生へ実習録を配布しますので、ガイダンス時の記録や実習中の出勤簿・日報などを記載してください。それらの記録をもとに、最終的に報告書作成や報告会の準備を行ってください。
 また、ガイダンス時に資料を配布しますので、あとで振り返りできるように整理してください。

学びの手立て
【応募資格】
 ①各学科で受講可能となっている年次の学生（履修ガイドの学科選択科目を各自で確認すること） ②連続して2週間または3週間のインターンシップを意欲的に行える者 ③第1回オリエンテーション（募集説明会）から報告会まで、年間スケジュールと内容を理解して意欲的に臨める者
【注意事項】 ①各学科担当教員による面接を受けること ②全3回のオリエンテーションに参加すること（欠席不可） ③事前・事後ガイダンスを受講すること（他講義と重ならないよう確認すること） ④報告会を運営・参加すること ⑤連絡事項は、沖国大ポータルの「学内連絡」、メールアドレス（学籍番号）へ連絡するので見落としがないよう確認すること

評価
【出席について】 出席は単位習得の前提条件ですので、各オリエンテーションやガイダンス、報告会への出欠を毎回確認します。アルバイト等による欠席は認められません。出席状況が著しく悪い場合は、実習取り消しや不可となります。**【評価方法・割合】** ①実習先による学生評価調査20% ②インターンシップ実習録（各ガイダンスの記録や課題、勤務状況、日報などから学びの状況を確認）60% ③インターンシップ報告書（実習先に関する理解度、インターンシップを通して得られたこと等について確認）20%

学びの継続
 次のステージ・関連科目
 本インターンシッププログラムを通して気づいた自身の強みはさらに伸ばし、足りないと感じた部分は残りの学生生活で改善できるように取り組んでほしい。
 また、得られた職業観は今後のキャリアを考える際に役立ててほしい。

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	演習 I	通年	月 2	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-城間 義勝	3年	講義終了後に教室で受け付けます。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>本演習の目的は、沖縄の一村落を社会学・文化人類学・民俗学的手法を用いて現地調査し、その成果を報告書にまとめることにある。前期は、調査項目を決定したうえで、調査地に関する文献資料の収集や整理を行い、フィールドワークに備える。後期は、夏休みの調査で得た資料を整理・発表し、報告書にまとめる。これら一連の作業を通して、現地調査と論文作成の基礎を学修する。</p>	<p>文化人類学や民俗学は、フィールドワークを中心とする学問です。調査地では、カルチャーショックを感じる場面もあると思いますが、伝統的な生活様式を知るうえで大切な経験となります。また、ゼミの仲間たちと協力しながら調査し、報告書をまとめるという作業は、今後の人生においても役立つものと思います。このゼミを通して、沖縄の民俗事象と一緒に考えていきましょう。</p>
到達目標	<p>(1) 調査の事前準備の方法を身につけることができる。 (2) フィールドワークの基礎を修得することができる。 (3) 資料整理と報告書編集を実践することができる。 (4) 卒業論文作成に向けて、自身の興味・関心のあるテーマを設定することができる。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画	テーマ	時間外学習の内容
	回		
	1	ガイダンス	
	2	調査のテーマ・設定方法 (1)	市町村史 (民俗編) や字誌を読む
	3	調査のテーマ・設定方法 (2)	市町村史 (民俗編) や字誌を読む
	4	調査テーマの決定、班編成	市町村史 (民俗編) や字誌を読む
	5	文献資料の収集、整理の方法	文献リストの作成
	6	文献リストの確認と整理	文献リストの作成
	7	先行研究のレジュメ作成と発表 (1)	先行研究のレジュメ作成
	8	先行研究のレジュメ作成と発表 (2)	先行研究のレジュメ作成
	9	先行研究のレジュメ作成と発表 (3)	先行研究のレジュメ作成
	10	調査テーマの精査、仮設の設定	調査テーマの再検討
	11	フィールドワークの方法論	調査計画の作成
	12	調査計画の作成 (1)	調査計画の作成
	13	調査計画の作成 (2)	調査計画の作成
	14	調査項目の設定、調査資料の作成 (1)	調査計画の作成
	15	調査項目の見直し、調査資料の作成 (2)	調査計画の作成
	16	予備日	
	17	夏季調査実習の反省、データ整理の方法	実習の活動報告作成
	18	班ごとの調査成果の発表 (1)	ノート整理、レジュメ作成
	19	班ごとの調査成果の発表 (2)	ノート整理、レジュメ作成
	20	班ごとの調査成果の発表 (3)	ノート整理、レジュメ作成
	21	班ごとの調査成果の発表 (4)	報告書の下書き作成
	22	調査報告書 下書き案の発表 (1)	報告書の下書き作成
	23	調査報告書 下書き案の発表 (2)	報告書の下書き作成
	24	調査報告書 下書き案の発表 (3)	報告書の下書き作成
	25	調査報告書 下書き案の発表 (4)	報告書の下書き、推敲
	26	調査報告書の作成 (1)	報告書の下書き、推敲
	27	調査報告書の作成 (2)	報告書の下書き、推敲
	28	調査報告書の作成 (3)	報告書の下書き、推敲
	29	調査報告書の印刷・製本	報告書の印刷、製本準備
30	調査報告書の印刷・製本	報告書の印刷、製本準備	
31	予備日		

学 び の 実 践	<p>テキスト・参考文献・資料など 適宜紹介する。</p>
	<p>学びの手立て</p> <p>①新聞やテレビ、ウェブなどで沖縄や奄美に関する民俗事象の情報を集める。 ②日常の生活を送るなかで、家庭・門中・村落に関する民俗事象に目を向ける。 ③各市町村にある博物館などに行き、地域の民俗文化に触れる。 ④普段は通り過ぎるような集落に入り、ゆっくり歩いてみる。</p>
	<p>評価</p> <p>出席・授業への参加姿勢（50％）、報告書の内容・成果（50％）。出席および演習カリキュラムへの参加姿勢を重視する。その上で、報告書の内容を検討し、総合的に評価する。</p>
学 び の 継 続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>演習Ⅱなど</p>

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	演習 I	通年	木 2	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	及川 高	3年	t.oikawa@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 卒業論文を構成し執筆する力を養うことを目的とする。前期には卒業論文に向けた先行研究のレビューを、後期には研究報告を行う。各回に報告者を立て、自分で作成したレジュメに基づいてプレゼンを実施し、出席者との討論を行う。後期の研究報告はそれに基づいた事例報告を行い、文献調査から自分自身によるデータの収集へと結び付けていく。	メッセージ 卒業論文を書くことを前提に、フィールドワーク方法論、情報の収集と論点の整理、ゼミ論文までの作業を高い密度で行う。よく準備すること。
	到達目標 自分の調査データを整理し、読者に伝わるように表現できるようになる。また自分の議論のためにはどのようなデータをどのように提示する必要があるのかを考えることが出来るようになる。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス このゼミの進め方・到達目標	配付する論文を読んてくる
	2	論文レビュー (1)	論文のレジュメを作成
	3	論文レビュー (2)	論文のレジュメを作成
	4	論文レビュー (3)	論文のレジュメを作成
	5	論文レビュー (4)	調査計画 (案) を作成
	6	調査計画の検討 (1)	調査計画 (案) をバージョンアップ
	7	調査計画の検討 (2)	調査計画 (案) をバージョンアップ
	8	調査計画の検討 (3)	予備調査を実施 (予定)
	9	調査項目の作成 (1)	調査項目案のバージョンアップ
	10	調査項目の作成 (2)	調査項目案のバージョンアップ
	11	調査項目の作成 (3)	調査地図素案の作成
	12	地図の作成 (1)	調査地図素案のバージョンアップ
	13	地図の作成 (2)	卒論計画書の作成
	14	卒論構想 (1)	卒論計画書の作成
	15	卒論構想 (2)	実習準備
	16	(予備日)	
	17	後期ガイダンス 後期の進め方	報告書の執筆と提出
	18	報告書の作成 (1)	報告書原稿のバージョンアップ
	19	報告書の作成 (2)	報告書原稿のバージョンアップ
	20	報告書の作成 (3)	報告書原稿のバージョンアップ
	21	報告書の校正	卒論の文献リスト作成
	22	卒論構想 先行研究のレビュー (1)	卒論計画書のバージョンアップ
	23	卒論構想 先行研究のレビュー (2)	卒論計画書のバージョンアップ
	24	卒論構想 先行研究のレビュー (3)	卒論に着手
	25	卒論構想 先行研究のレビュー (4)	卒論の「問い」を文章化する
	26	卒論構想 リサーチクエッションの文章化 (1)	卒論序章を執筆・バージョンアップ
	27	卒論構想 リサーチクエッションの文章化 (2)	卒論序章を執筆・バージョンアップ
	28	卒論構想 リサーチクエッションの文章化 (3)	卒論序章を執筆・バージョンアップ
	29	卒論構想 リサーチクエッションの文章化 (4)	卒論の序章を完成
30	卒論序章の完成とレビュー	レビューのフィードバック	
31	後期まとめ		

学 び の 実 践	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <ul style="list-style-type: none"> ・レジュメ及び論文のコピーを用いる ・上野和男・高桑守史・福田アジオ・宮田登（編）1987『新版 民俗調査ハンドブック』吉川弘文館
	<p>学びの手立て</p> <p>ある程度の長さのある意味の通る文章を書けることが前提となる。甘く考えずに、機会をみて文章を書くトレーニングを積むこと。文章力に関しては一般の啓発書にも教わる場所があるので利用すること。</p>
	<p>評価</p> <p>①議論への参加（30%）、②生産的な問題提起・批判および応答能力（20%）、③資料およびプレゼンの準備と内容（30%）、④報告書およびゼミ論文（20%）を勘案し、総合的に評価する。積極的な議論への参加（①）と丁寧な事前準備（③）を特に求める。</p>
学 び の 継 続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>実習 演習Ⅱ</p>

※ポリシーとの関連性 社会文化学科における沖縄を中心にした学びで、とくに文字の存在しない時代を対象とする考古先史領域である。

[/演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	演習 I	通年	火 2	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	上原 静	3年	研究室5-417 E-mail sizuka@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 遺跡の発掘調査に参加し、調査技術のマスターに努めるとともに、前年発掘した遺跡の調査報告書を作成し、発掘調査の学術的意義について認識を深める。報告書の作成に際し、琉球諸島の先史文化を熟知する必要がある、そのため分担して県内各地の先史文化を調査研究し、それに基づいて各自が調査成果を発表、参加者全員で討論、先史文化に関する知識を深める。	メッセージ 大学生活で最も本を読むことになり、また、次のステップになる一番大事な年度になります。
	到達目標 まず、南西諸島の各島嶼群（トカラ列島、奄美諸島、沖縄諸島、宮古・八重山諸島）における詳細な考古学の調査研究状況を知ることができる。物言わぬ遺物や遺構をどの様に整理して、歴史や文化を語らすのかという方法を学ぶことができる。次年度の卒業論文の素材を得る機会になることと、その基本的な構成を学ぶことになる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む） 全員が遺物の整理（図表等の作成）を行う。遺跡の概況、調査経過等のほかの遺物の記述を行う。 上記を通して報告書の作成を実地に学ぶ。各自分担して県内各地の先史文化を調査研究し、発表を行う。 時間外学習としては、テキスト、参考文献を精読してもらう。
	テキスト・参考文献・資料など 1、宮城栄昌・高宮廣衛『沖縄歴史地図（考古編）』柏書房 1983年 2、富元政秀・安里嗣淳『日本の古代遺跡（沖縄）』保育社 1993年 3、ほか基礎文献および沖縄・九州関係の発掘報告書は随時紹介する。
	学びの手立て 授業の殆どがグループによる調査、検討、発表になるため、常に互いに連絡をとり、コミュニケーションをはかること。数人で勉強会を立ち上げるのもいい。
評価	試験・レポート（90%）、平常点（遅刻、出席状況、受講姿勢等）（10%）

学びの継続	次のステージ・関連科目 関連科目として「南島先史学」「南島考古学Ⅰ・Ⅱ」「考古学特講Ⅰ・Ⅱ」「アジア考古学」「考古学概論2」がある。 先史古代の環境と社会文化の関わりについて、多様な視点でみる必要から社会文化学科提供科目を広く受講する。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	演習 I	通年	木 2	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	藤波 潔	3年	研究室 (5434)、またはfujinami@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>本講義は3年次を対象とし、近現代史研究を専攻とするゼミである。前期には南島地域に関する近現代史の専門知識の修得を前提として、夏期休業期間に実施する実習の準備をおこなう。実習を通じて史料収集と読解の技能を学んだうえで、後期には収集した資料の翻刻を基軸とする報告書を作成する一方で、卒業論文作成に向けた各自の調査テーマの設定をおこなう。</p>	<p>歴史研究は、史料の読解が中心となるため、地道な作業が多くなります。そうした作業に集中して取り組む根気強さが必要となります。その一方で、歴史的事象が発生した現場へのフィールドワークも、積極的に取り組んで、五感をフル活用して歴史理解を深めましょう。</p>
到達目標	<p>(1) 南島地域に関する近現代史の専門的な知識を修得することができる。 (2) 近現代史に関する史料の読解に、積極的に取り組むことができる。 (3) 自らの研究課題に関する先行研究を調査し、まとめることができる。 (4) 自らの卒業論文作成に向けて、研究課題を設定し、研究計画を作成することができる。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	シラバス内容の理解
	2	実習調査の概要確認、役割分担/要旨報告の担当決め	事前配布資料の精読
	3	フィールドワーク①：宜野湾市立博物館	リフレクションペーパー提出
	4	文献の要旨報告①	報告準備/該当箇所の精読
	5	文献の要旨報告②	報告準備/該当箇所の精読
	6	文献の要旨報告③	報告準備/該当箇所の精読
	7	文献の要旨報告④	報告準備/該当箇所の精読
	8	文献の要旨報告⑤	報告準備/該当箇所の精読
	9	文献の要旨報告⑥	報告準備/該当箇所の精読
	10	フィールドワーク②：沖縄県公文書館	リフレクションペーパーの提出
	11	史料読解演習①	史料読解の予習
	12	史料読解演習②	史料読解の予習
	13	史料読解演習③	史料読解の予習
	14	資料読解演習④	資料読解の予習
	15	前期振り返り、実習の確認	
	16	後期ガイダンス、卒論仮テーマの設定	仮テーマの選定
	17	予備調査①：先行研究の調査、収集、文献リストの作成	先行研究の収集、読み込み
	18	予備調査②：先行研究の読解	先行研究の収集、読み込み
	19	第1回報告：先行研究について①	報告準備/先行研究調査
	20	第1回報告：先行研究について②	報告準備/先行研究調査
	21	第1回報告：先行研究について③	報告準備/先行研究調査
	22	第1回報告：研究研究について④	報告準備/先行研究調査
	23	第1回報告：研究研究について⑤	報告準備/先行研究調査
	24	第1回報告：研究研究について⑥	報告準備/先行研究調査
	25	第2回報告：研究史の整理と研究課題について①	報告準備/先行研究調査
	26	第2回報告：研究史の整理と研究課題について②	報告準備/先行研究調査
	27	第2回報告：研究史の整理と研究課題について③	報告準備/先行研究調査
	28	第2回報告：研究史の整理と研究課題について④	報告準備/先行研究調査
	29	研究課題の確定、調査計画書の作成①	調査計画書の検討
30	調査計画書の作成②	調査計画書の検討	
31	まとめ、春季休業の過ごし方		

学	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>特定のテキストは使用しない。 要旨報告に用いる文献については、講義の最初に提示する。 読解する史料は、複写して配布する。</p>
び の 実 践	<p>学びの手立て</p> <p>① 2年次対象の領域演習の単位を修得済みで、演習Ⅰの振り分けで近現代史ゼミに配属されていること。 ② 夏期休業中に実施する実習の計画、準備、実習後の報告書作成も併行して実施する。 ③ 南島地域の近現代史に関する文献を、積極的に読み込むこと。 ④ 日本、中国、台湾といった周辺地域の歴史にも、関心をもって学ぶこと。</p>
	<p>評価</p> <p>到達目標（1）の評価：文献の要旨報告（20%） 到達目標（2）の評価：史料読解演習（20%） 到達目標（3）の評価：予備調査および報告（50%） 到達目標（4）の評価：調査計画書の作成（10%）</p>
学 び の 継 続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>演習Ⅰおよび実習の成果を踏まえて、演習Ⅱで卒業研究に取り組んでもらう。 また、歴史領域の発展科目はもちろんのこと、社会・平和領域、民俗・人類学領域の発展科目や異文化理解科目のなかで、自らの研究課題に隣接するものは、積極的に履修することを勧める。</p>

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	演習 I	通年	木 2	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	深澤 秋人	3年	水曜日 2限のオフィスアワーに研究室（5 4 2 2）で受け付けます。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>本演習のねらいは、琉球・沖縄の前近代史の先行研究（文献）を把握し、引用史料を丁寧に確認しながら、卒業論文の課題を設定するところにあります。前期は『沖縄県史』各論編第3・4巻の論考を読み、先行研究・引用史料・論点に関する報告をしてもらいます。後期では、各自が卒業論文のテーマを決め、先行研究を踏まえ、関連史料を確認したうえで卒業論文の課題を文章化してもらいます。</p> <p>到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・琉球・沖縄の前近代史をめぐる先行研究（文献）と引用史料を把握することができるようになる。 ・卒業論文のテーマを決定し、先行研究を踏まえ、関連史料を確認したうえで、卒業論文の課題を的確に設定できるようになる。 	<p>学内外の研究会やシンポジウムに参加して雰囲気や議論に触れてください。県内の博物館や発掘調査現地説明会に足を運んで琉球・沖縄の前近代史をめぐるモノに接してください。</p>

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	イントロダクション、前期の授業計画および関心があるテーマの確認	到達目標を理解する
	2	『沖縄県史』各論編第3巻・第4巻で担当する論考の割り当て、レジユメの作成要領の確認など	報告のポイントを理解する
	3	同書各論編第4巻「総論」の読み合わせ	同書「総論」の参考文献にあたる
	4	同書各論編第3巻「総論」の読み合わせ	同書「総論」の参考文献にあたる
	5	先行研究に関する報告と質疑応答①	報告の準備をする
	6	同上②	報告の準備をする
	7	同上③	報告の準備をする
	8	引用史料に関する報告と質疑応答①	報告の準備をする
	9	同上②	報告の準備をする
	10	同上③	報告の準備をする
	11	論点に関する報告と質疑応答①	報告の準備をする
	12	同上②	報告の準備をする
	13	同上③	報告の準備をする
	14	卒業論文のテーマ（仮）の提出	事前に卒論のテーマを設定する
	15	「実習」の内容・計画の確認	「実習」の内容を理解する
	16	那覇港周辺のフィールドワーク（仮）	問題意識を持って参加する
	17	後期の授業計画の確認、卒論の課題設定に向けた準備報告レジユメの作成要領の確認など	報告のポイントを理解する
	18	先行研究の論点について	研究と史料の関係を理解する
	19	先行研究の引用史料について	史料と研究の関係を理解する
	20	卒業論文の先行研究に関する報告と質疑応答①	報告の準備をする
	21	同上②	報告の準備をする
	22	同上③	報告の準備をする
	23	卒業論文の関連史料に関する報告と質疑応答①	報告の準備をする
	24	同上②	報告の準備をする
	25	同上③	報告の準備をする
	26	卒業論文の課題に関する報告と質疑応答①	報告の準備をする
	27	同上②	報告の準備をする
	28	同上③	報告の準備をする
29	同上④	報告の準備をする	
30	同上⑤	報告の準備をする	
31	「卒業論文の課題」の提出	報告を文章化する	

学	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>【テキスト】教科書は使用しません。レジュメと図表などの参考資料を必要に応じて配布します。『沖縄県史』各論編第3・4巻の「総論」は2回目の講義で配布します。</p> <p>【参考文献】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・『沖縄県史』各論編第3巻 古琉球（沖縄県教育委員会、2010年） ・『沖縄県史』各論編第4巻 近世（沖縄県教育委員会、2005年）
び の 実 践	<p>学びの手立て</p> <ul style="list-style-type: none"> ・『沖縄県史』各論編第3・4巻の担当する論考や各自が決めたテーマの先行研究をあきらめずに最後まで読み切ってください。 ・先行研究（文献）と史料の区別がつかなければ理解できるまで質問してください。
	<p>評価</p> <p>報告・質疑応答・卒業論文の課題設定に取り組む姿勢（60%）、「卒業論文の課題」の的確性と完成度（40%）によって総合的に評価する。</p>
学 び の 継 続	<p>次のステージ・関連科目</p> <ul style="list-style-type: none"> ・【重要】「古文書講読Ⅰ・Ⅱ」を確実に履修してください。 ・4年次の「演習Ⅱ」では卒業論文の作成に取り組みますが、「演習Ⅰ」にどのような姿勢で取り組んだかが学生生活の集大成である卒業論文のスタートラインにつながることを自覚してください。

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	演習 I	通年	木 2	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	鳥山 淳	3年	オフィスアワーおよび学内メールで対応する。	

学びの準備	ねらい この講義は、2年次の領域演習での学習内容をふまえつつ、調査研究の実践を通してより深く学びつつ、各自が深く考えるテーマを発見するための演習である。	メッセージ 専門的な学びを深めるなかで、各自の問題意識に即したテーマをしっかりと探してほしい。
	到達目標 自ら設定したテーマにとって必要とされる調査方法を実践・習得し、調査内容を的確にまとめて資料を作成できるようになる。またその課題に取り組むことを通して、卒業論文で取り組むテーマを発見する。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	1年間の課題の説明	配布資料の精読
	2	調査実習のテーマ案についての報告①	報告の準備
	3	調査実習のテーマ案についての報告②	報告の準備
	4	調査実習のテーマ案についての報告③	報告の準備
	5	調査実習のテーマに関するディスカッション	配布資料の精読
	6	調査実習のテーマに関する文献報告①	文献調査と報告の準備
	7	調査実習のテーマに関する文献報告②	文献調査と報告の準備
	8	調査実習のテーマに関する文献報告③	文献調査と報告の準備
	9	調査計画案の報告とディスカッション①	関連情報の調査と報告の準備
	10	調査計画案の報告とディスカッション②	関連情報の調査と報告の準備
	11	調査計画案の報告とディスカッション③	関連情報の調査と報告の準備
	12	事前調査の概要報告①	調査内容の確認と報告の準備
	13	事前調査の概要報告②	調査内容の確認と報告の準備
	14	事前調査の概要報告③	調査内容の確認と報告の準備
	15	調査実習に向けた諸準備の確認	配布資料の精読
	16	調査実習の概要報告と報告書作成に向けたディスカッション①	報告の準備
	17	調査実習の概要報告と報告書作成に向けたディスカッション②	報告の準備
	18	調査実習の概要報告と報告書作成に向けたディスカッション③	報告の準備
	19	報告書の構成案の報告とディスカッション①	報告の準備
	20	報告書の構成案の報告とディスカッション①	報告の準備
	21	報告書の構成案の報告とディスカッション①	報告の準備
	22	報告書作成に関する統一事項の確認	配布資料の精読
	23	卒論に向けたテーマ案の報告とディスカッション①	報告の準備
	24	卒論に向けたテーマ案の報告とディスカッション②	報告の準備
	25	卒論に向けたテーマ案の報告とディスカッション③	報告の準備
	26	卒論に向けたテーマ案の報告とディスカッション④	報告の準備
	27	卒論に向けたテーマに関する概要報告とディスカッション①	報告の準備
	28	卒論に向けたテーマに関する概要報告とディスカッション②	報告の準備
	29	卒論に向けたテーマに関する概要報告とディスカッション③	報告の準備
30	卒論に向けたテーマに関する概要報告とディスカッション④	報告の準備	
31			

学	<p>テキスト・参考文献・資料など 指定しない。 必要に応じて紹介する。</p>
び の 実 践	<p>学びの手立て 取り組むべき課題を主体的に設定し、それに関する疑問点を積極的に提示して、グループやゼミ全体で検討するという習性を身に付けてほしい。</p>
学 び の 継 続	<p>評価 報告課題の内容70%、参加姿勢30%</p>
学 び の 継 続	<p>次のステージ・関連科目 4年次の演習Ⅱにつながる</p>

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	演習 I	通年	木 2	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	崎濱 佳代	3年	講義終了後に教室で受け付けます	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>本演習では、社会現象としてのグローバル化をめぐる現代的課題を中心テーマに、現代社会が直面する様々な課題を発見し、社会階層・エスニシティ・移民といった分析軸からその課題を実証的・論理的に分析、広い視野と多角的視点にたち解決策を考察していきます。</p> <p>到達目標</p> <p>①社会科学的思考を身につけながら、社会学の各領域についての見識を深める。 ②社会調査の基礎をふまえ、ゼミで共有する研究テーマを、データに基づいて追究することができる。 ③現代世界のさまざまな社会的課題・社会現象に関心を広くもつことができる。 ④個人の研究テーマを探求・設定することができる。</p>	<p>会科学の考え方（ものの見方）と方法を学びながら、ゼミで共有する調査テーマを追究していきます。 同時に、4年次の卒業研究に向けて、個人の研究テーマも探求していきましょう。フィールドで見たり考えたりしたこと、本や資料を見て考えたことを、ゼミの仲間とじっくり議論し、新しい知性を生みだす、そんなゼミのあり方目指します。</p>

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	イントロダクション	授業内で指示する
	2	ゼミで共有する研究テーマの選定	授業内で指示する
	3	ゼミで共有する研究テーマの展開	授業内で指示する
	4	受講生による報告と討論（文献報告）	授業内で指示する
	5	受講生による報告と討論（文献報告）	授業内で指示する
	6	受講生による報告と討論（文献報告）	授業内で指示する
	7	受講生による報告と討論（文献報告）	授業内で指示する
	8	受講生による報告と討論（文献報告）	授業内で指示する
	9	受講生による報告と討論（プレ調査報告）	授業内で指示する
	10	受講生による報告と討論（プレ調査報告）	授業内で指示する
	11	受講生による報告と討論（プレ調査報告）	授業内で指示する
	12	受講生による報告と討論（プレ調査報告）	授業内で指示する
	13	受講生による報告と討論（プレ調査報告）	授業内で指示する
	14	調査実習の準備	授業内で指示する
	15	調査実習の準備	授業内で指示する
	16	後期ガイダンス	授業内で指示する
	17	受講生による報告と討論（実習中間報告）	授業内で指示する
	18	受講生による報告と討論（実習中間報告）	授業内で指示する
	19	受講生による報告と討論（実習中間報告）	授業内で指示する
	20	受講生による報告と討論（実習中間報告）	授業内で指示する
	21	受講生による報告と討論（実習中間報告）	授業内で指示する
	22	調査報告書草稿の提出	授業内で指示する
	23	調査報告書の校正・推敲	授業内で指示する
	24	調査報告書の校正・推敲	授業内で指示する
	25	受講生による報告と討論（個人の研究テーマ発表）	授業内で指示する
	26	受講生による報告と討論（個人の研究テーマ発表）	授業内で指示する
	27	受講生による報告と討論（個人の研究テーマ発表）	授業内で指示する
	28	受講生による報告と討論（個人の研究テーマ発表）	授業内で指示する
	29	受講生による報告と討論（個人の研究テーマ発表）	授業内で指示する
30	調査報告書の完成・提出	授業内で指示する	
31	1年間のふりかえり	授業内で指示する	

学	<p>テキスト・参考文献・資料など 授業で適宜紹介します。</p>
び の 実 践	<p>学びの手立て ①共通の研究テーマに関する知識・情報を増やし理解・思考を深めるために、文献調査や読解、事前調査を授業に合わせて主体的に行うこと。 ②本演習で共有するテーマとは一見関係ないと思われる、沖縄や世界の社会的課題について、各自で主体的に知識を得ること。 ③調査実習はグループワークを軸とする。受講生は、調査の企画設計から実査、報告書作成までの社会調査の全過程に主体的・協力的に取り組むこと。他のゼミ生との共同作業であることを自覚し、協同性を磨くこと。調査倫理に則った節度のある行動を行うこと。</p>
	<p>評価 平常点および報告・討論への参加姿勢（30%）、グループでの調査と報告（実習）および実習報告書（ゼミレポート）（40%）、個人研究レポートの内容（30%）に基づいて総合的に評価する。</p>
学 び の 継 続	<p>次のステージ・関連科目 （次のステージ）演習Ⅱ （関連する科目）領域演習・社会平和領域、ジェンダー論、国際社会学、社会学理論、マスコミ論、家族社会学、都市社会学、南島社会学、アジア社会論、社会調査法Ⅰ・Ⅱ、社会統計学Ⅰ・Ⅱ</p>

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	演習Ⅱ	通年	木1	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	比嘉 理麻	4年	r.higa@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>本演習の目的は、基礎演習・実習・演習で学んできた成果を踏まえ、ゼミ生自らが設定する研究テーマにそって、文献収集、調査計画の策定、実地調査、調査・研究成果の整理・分析をへて、卒業論文を作成することにある。夏休みなどを利用して各自で現地調査を実施し、後期には調査・研究成果の発表・議論をへて卒業論文の作成を目指す。</p> <p>到達目標 自ら問題意識をもち、人間・社会・文化について調査を行い、その成果をまとめることができるようになる。</p>	<p>【履修上の注意事項】 本科目は一般講義とは異なり、受講者に対して能動的・意欲的な取り組みを求める。</p>

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	授業時に指示した文献の講読
	2	人類学関連文献の輪読(1)	授業時に指示した文献の講読
	3	人類学関連文献の輪読(2)	授業時に指示した文献の講読
	4	人類学関連文献の輪読(3)	授業時に指示した文献の講読
	5	学術論文執筆の方法論	学術論文執筆の方法論の文献の講読
	6	テーマ設定(1)	研究テーマのブラッシュアップ
	7	テーマ設定(2)	研究テーマのブラッシュアップ
	8	文献研究(1)	テーマに関連する文献の講読
	9	文献研究(2)	テーマに関連する文献の講読
	10	文献研究(3)	テーマに関連する文献の講読
	11	文献研究(4)	テーマに関連する文献の講読
	12	文献研究(5)	テーマに関連する文献の講読
	13	文献研究(6)	テーマに関連する文献の講読
	14	調査計画、質問事項等の作成(1)	調査計画の調整
	15	調査計画、質問事項等の作成(2)	調査計画の調整
	16	復習	調査計画の調整
	17	ガイダンス	授業時に指示した文献の講読
	18	調査成果発表と質疑応答(1)	授業時に指示した文献の講読
	19	調査成果発表と質疑応答(2)	授業時に指示した文献の講読
	20	調査成果発表と質疑応答(3)	授業時に指示した文献の講読
	21	調査成果発表と質疑応答(4)	授業時に指示した文献の講読
	22	中間発表(1)	テーマに関連する文献の講読
	23	中間発表(2)	テーマに関連する文献の講読
	24	論文作成・指導(1)	論文執筆
	25	論文作成・指導(2)	論文執筆
	26	卒業論文仮提出	論文執筆
	27	論文作成・指導(3)	論文執筆
	28	論文作成・指導(4)	論文執筆
	29	論文作成・指導(5)	論文執筆
30	論文作成・指導(6)	論文執筆	
31	完成卒業論文へのコメント	復習	

学	<p>テキスト・参考文献・資料など 演習のなかで適宜紹介。</p>
び の 実 践	<p>学びの手立て 文化人類学の著作・論文を積極的に読む。</p>
	<p>評価 原則として、授業への参加度(40%)、調査成果・論文評価(60%)によって、総合的に評価する。</p>
学 び の 継 続	<p>次のステージ・関連科目 基礎演習・実習・演習 I</p>

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	演習Ⅱ	通年	月 3	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	鳥山 淳	4年	オフィスアワーおよび学内メール等で随時対応する。	

学びの準備	ねらい 各自が選択したテーマに沿って考察と調査を進め、その成果を卒業論文としてまとめることができるように、継続的に作業を進める。そのために必要とされる研究方法の修得・資料の収集・調査の実践について、ゼミの場で報告・議論しながら進めていく。	メッセージ 自身が設定した卒論テーマに関して、知的好奇心を最大限に発揮してほしい。
	到達目標 卒業論文を作成するために必要とされる情報収集を自分自身の判断に基づいて行い、その成果を論文としてまとめ上げる思考力を身に着ける。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	課題とスケジュールの確認	配布資料の精読
	2	卒論テーマ案の報告とディスカッション①	報告の準備
	3	卒論テーマ案の報告とディスカッション②	報告の準備
	4	卒論テーマ案の報告とディスカッション③	報告の準備
	5	卒論テーマに関する文献調査の報告①	文献調査と報告の準備
	6	卒論テーマに関する文献調査の報告②	文献調査と報告の準備
	7	卒論テーマに関する文献調査の報告③	文献調査と報告の準備
	8	卒論テーマに関する調査内容の報告とディスカッション①	文献調査と報告の準備
	9	卒論テーマに関する調査内容の報告とディスカッション②	文献調査と報告の準備
	10	卒論テーマに関する調査内容の報告とディスカッション③	文献調査と報告の準備
	11	卒論テーマに関する調査内容の報告とディスカッション④	文献調査と報告の準備
	12	卒論テーマに関する調査計画の報告とディスカッション①	調査計画の検討と報告の準備
	13	卒論テーマに関する調査計画の報告とディスカッション②	調査計画の検討と報告の準備
	14	卒論テーマに関する調査計画の報告とディスカッション③	調査計画の検討と報告の準備
	15	卒論テーマに関する調査計画の報告とディスカッション④	調査計画の検討と報告の準備
	16	夏季休暇中の調査内容の報告とディスカッション①	調査内容の確認と報告の準備
	17	夏季休暇中の調査内容の報告とディスカッション②	調査内容の確認と報告の準備
	18	夏季休暇中の調査内容の報告とディスカッション③	調査内容の確認と報告の準備
	19	卒論の構成案の報告とディスカッション①	構成案の検討と報告の準備
	20	卒論の構成案の報告とディスカッション②	構成案の検討と報告の準備
	21	卒論の構成案の報告とディスカッション③	構成案の検討と報告の準備
	22	卒論作成の進捗状況の報告とディスカッション①	報告の準備
	23	卒論作成の進捗状況の報告とディスカッション②	報告の準備
	24	卒論作成の進捗状況の報告とディスカッション③	報告の準備
	25	卒論作成の進捗状況の報告とディスカッション④	報告の準備
	26	卒論提出に向けた課題確認①	報告の準備
	27	卒論提出に向けた課題確認②	報告の準備
	28	卒論概要の報告①	報告の準備
29	卒論概要の報告②	報告の準備	
30	卒論概要の報告③	報告の準備	
31			

学	<p>テキスト・参考文献・資料など 指定しない。(各自で積極的に情報を集めること)</p>
び の 実 践	<p>学びの手立て 関連する文献や資料を主体的に調査・収集しながら卒論の方向性を定めていく作業が最も重要である。</p>
	<p>評価 参加姿勢30%、卒論作成の取り組みと報告内容70%</p>
学 び の 継 続	<p>次のステージ・関連科目 卒業論文</p>

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	演習Ⅱ	通年	水1	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	深澤 秋人	4年	水曜日2限のオフィスアワーに研究室(5422)で受け付けます。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>本演習のねらいは、大学生活の集大成である卒業論文を、先行研究を丁寧に踏まえ、関連史料を適切・効果的に用いたうえで説得力のある結論を導き出せるよう指導するところにあります。前期では主に関連史料の解釈、後期では論点および結論について報告してもらいます。</p>	<p>卒業論文のテーマに関わる報告がある学内外の研究会やシンポジウムに積極的に参加してください。アンテナの感度を高めておけば、報告や議論からヒントをつかめることもありますよ。</p>
到達目標	<p>先行研究を丁寧に踏まえ、関連史料を適切・効果的に用いた説得力のある卒業論文を作成できるようになる。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	イントロダクション、前期の授業計画の確認、『回顧と展望』の紹介	到達目標を理解する
	2	前期の報告日程の決定、報告レジュメ作成要領の確認	報告のポイントを理解する
	3	論文の構成について一序論(課題)・本論・結論の関係一	論文とはなにかを理解する
	4	卒業論文準備報告と質疑応答一先行研究における引用史料の読解と解釈一①	報告の準備をする
	5	同上②	報告の準備をする
	6	同上③	報告の準備をする
	7	同上④	報告の準備をする
	8	同上⑤	報告の準備をする
	9	報告レジュメ作成要領の確認	報告のポイントを理解する
	10	卒業論文準備報告と質疑応答一先行研究における指摘と論点一①	報告の準備をする
	11	同上②	報告の準備をする
	12	同上③	報告の準備をする
	13	同上④	報告の準備をする
	14	同上⑤	報告の準備をする
	15	章立てについて	報告の準備をする
	16	卒業論文タイトル(仮)と章立て(仮)の提出	事前にタイトルと章立てを考える
	17	後期の授業計画の確認、後期の報告日程の決定、報告レジュメ作成要領の確認	報告のポイントを理解する
	18	論文の構成について一課題と結論の整合性一	論文とはなにかを再確認する
	19	卒業論文準備報告と質疑応答一論点の提示と課題の設定一①	報告の準備をする
	20	同上②	報告の準備をする
	21	同上③	報告の準備をする
	22	同上④	報告の準備をする
	23	同上⑤	報告の準備をする
	24	報告レジュメ作成要領の確認	報告のポイントを理解する
	25	卒業論文準備報告と質疑応答一課題と結論について一①	報告の準備と卒論を執筆する
	26	同上②	報告の準備と卒論を執筆する
	27	同上③	報告の準備と卒論を執筆する
	28	同上④	報告の準備と卒論を執筆する
	29	同上⑤	報告の準備と卒論を執筆する
30	まとめ	卒論の課題と結論を再確認する	
31	卒業論文発表会と『卒業論文集』刊行に向けて	卒論発表会での報告の準備をする	

学	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>【テキスト】教科書は使用しません。参考資料は必要に応じて配布します。 【参考文献】各自のテーマに関する参考文献の紹介は個別に対応します。</p>
び の 実 践	<p>学びの手立て</p> <ul style="list-style-type: none"> ・先行研究と関連史料の把握に寸暇を惜しまず励んでください。 ・「古文書講読Ⅰ・Ⅱ」をまだ履修していなければ半期でも受講してください。 ・卒業論文の作成と提出だけでなく、卒論発表会での報告および『卒業論文集』の刊行までが「演習Ⅱ」だと心得てください。
	<p>評価</p> <p>卒業論文準備報告および質疑応答に取り組む姿勢（60%）と報告レジュメの内容および完成度（40%）によって総合的に評価します。</p>
学 び の 継 続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>「古文書講読Ⅰ・Ⅱ」および「沖縄前近代史Ⅰ・Ⅱ」の受講を求めます。</p>

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	演習Ⅱ	通年	水1	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	及川 高	4年	t.oikawa@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 各自が定めた卒論のテーマ、フィールド、方法、資料に基づいて卒業論文の構想と執筆を進める。前期と後期に1回ずつ中間報告を行い、より高い水準での論文の完成を目指す。	メッセージ 民俗学の論文はその議論の内容のみならず、そこに記された民俗誌自体が後世へのかけがえのない記録となる。丁寧に取り組むこと。
	到達目標 論文の完成を目標とする。そのためには、先行研究を踏まえた適切な問題設定、十分な資料の収集と整理・記述、論理的な分析と明晰な表現、の実現が求められる。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	イントロダクション このゼミの進め方と評価の仕方	文献リストおよびレビューの作成
	2	卒論構想報告① 文献リストの検討と先行研究レビュー	文献リスト・レビューの修正
	3	卒論構想報告② 文献リストの検討と先行研究レビュー	文献リスト・レビューの修正
	4	卒論構想報告③ 文献リストの検討と先行研究レビュー	文献リスト・レビューの修正
	5	卒論構想報告④ 先行研究レビュー・フィードバック	文献リスト・レビューの完成
	6	卒論構想報告⑤ 先行研究レビュー・フィードバック	文献リスト・レビューの完成
	7	卒論構想報告⑥ 先行研究レビュー・フィードバック	調査項目の作成
	8	卒論構想報告⑦ 調査項目の検討	調査項目の作成
	9	卒論構想報告⑧ 調査項目の検討	調査項目の作成
	10	卒論構想報告⑨ 調査項目の検討	調査項目の修正
	11	卒論構想報告⑩ 調査項目のフィードバック	調査項目の修正
	12	卒論構想報告⑪ 調査項目のフィードバック	調査項目の修正
	13	卒論構想報告⑫ 調査項目のフィードバック	調査項目の修正
	14	全体進捗確認	調査計画書の作成
	15	全体進捗確認 後期まとめ	卒論に向けた各自の調査
	16	予備日	
	17	後期ガイダンス	民族誌を提出する
	18	卒論進捗報告① 民族誌のチェック	民族誌叙述のフィードバック
	19	卒論進捗報告② 民族誌のチェック	民族誌叙述のフィードバック
	20	卒論進捗報告③ 民族誌のチェック	民族誌叙述のフィードバック
	21	卒論進捗報告④ 民族誌のチェック	考察パートを提出する
	22	卒論進捗報告⑤ 分析・論理のチェック	考察内容へのフィードバック
	23	卒論進捗報告⑥ 分析・論理のチェック	考察内容へのフィードバック
	24	卒論進捗報告⑦ 分析・論理のチェック	考察内容へのフィードバック
	25	卒論進捗報告⑧ 分析・論理のチェック	考察内容へのフィードバック
	26	卒論進捗報告⑨ 分析・論理のチェック 2	考察内容へのフィードバック
	27	卒論進捗報告⑩ 分析・論理のチェック 2	考察内容へのフィードバック
	28	卒論最終指導① 形式と倫理のチェック	記述を整えて論文を完成させる
29	卒論最終指導② 形式と倫理のチェック	記述を整えて論文を完成させる	
30	卒業研究のプレゼンテーション	報告会のプレゼンを作成する	
31	卒論報告会		

学 び の 実 践	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>卒業論文の先行研究にあたる文献等は各自で収集し、リストにまとめることが求められる。教員と相談しながら作業を進めること。</p>
	<p>学びの手立て</p> <p>卒業論文の進捗を定期的にチェックし、文章化したものの提出を求めていく。具体的には①文献リストの作成とレビュー、②調査項目案、③調査計画書、④民族誌パート、⑤考察パート、を学期中に提出してもらう。無為に時間を過ごすことのないように、少しずつでも確実に作業を進めること。ゼミの間ではこれらについて議論し、それらを各自でフィードバックして卒論のかたちに近づけていく。</p>
	<p>評価</p> <p>卒業論文への取り組みに対して評価を与える。具体的には、①適切な研究プログラムの構想と進行（20%）、②密度ある中間報告の作成とプレゼンテーション（30%）、③先行研究を踏まえた適切な問いの提示（10%）、④十分なリサーチに基づいたデータの収集と記述（30%）、⑤論理的かつ説得性をもった新規性ある結論の提示（10%）、の5点より評価する。先行研究の消化（③）と斬新な結論（⑤）に期待するが、まずはしっかり研究計画を立てて遂行し（①）、密度ある中間報告（②）と丁寧な調査データの収集（④）を求める。</p>
学 び の 継 続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>世界</p>

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	演習Ⅱ	通年	月1	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	上原 静	4年	研究室5-417 E-mail sizuka@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 各自、関心のあるテーマを設定する。遺跡の報告書をもって卒業論文にかえることもある。	メッセージ 大学で学問をした証しであり、専門の集大成です。
	到達目標 自ら考古学資料を分析をし、報告書や論文化を書くことができる。先史原史時代の文化を復元することができる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む） 関心のあるテーマについて、学史を調べレポートを作成する。夏期休暇までに、卒論の骨子をまとめ、簡単な肉付けをする。後期に不備な点を補い、本格的な執筆にはいる。 時間外にはテキスト、参考文献を精読してもらう。
	テキスト・参考文献・資料など 個別テーマに応じて随時推薦する。

学びの実践	学びの手立て 論文の書き方に関する図書を読む。 資料は具体的なものに接し、先輩、同輩と積極的に情報交換をする。
	評価 課題の提出資料・レポート（90%）、平常点（遅刻、出席状況、受講姿勢等）（10%）

学びの継続	次のステージ・関連科目 提出論文のテーマを弱い部分を補完し、発展させてほしい。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	演習Ⅱ	通年	水1	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	藤波 潔	4年	研究室(5434)、もしくはfujinami@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	本講義は4年次を対象とした、近現代史研究を専攻とするゼミである。演習Ⅰで修得した知識、技能を前提として、卒業論文作成に向けた調査と報告を中心とし、後期には実際に卒業論文の執筆活動をおこなう。	卒業論文作成の道のりは、とても大変です。また、就職活動や各種実習もあり、大変忙しい1年になります。計画的に取り組み、早めに作業を進めるようにしてください。

到達目標
<ul style="list-style-type: none"> (1) 自らの卒論テーマに関する専門的な知識を十分修得することができる。 (2) 自らの卒論テーマに関する歴史資料を収集し、正確に読解できる。 (3) 自らの卒論テーマに関する調査を行い、その内容について論理的に報告できる。 (4) 他者の報告に対して、建設的な意見を述べるることができる。 (5) 歴史学の作法に基づき、論理的かつ実証的な卒業論文を作成できる。

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	シラバスの精読
	2	史料調査と精読	史料の収集と内容把握
	3	史料内容に関する1次報告①	報告準備/史料の内容把握
	4	史料内容に関する1次報告②	報告準備/史料の内容把握
	5	史料内容に関する1次報告③	報告準備/史料の内容把握
	6	史料内容に関する1次報告④	報告準備/史料の内容把握
	7	史料内容に関する1次報告⑤	報告準備/史料の内容把握
	8	史料補充調査と精読①	史料の収集と内容把握
	9	史料補充調査と精読②	史料の収集と内容把握
	10	史料補充調査と精読③	史料の収集と内容把握
	11	史料内容に関する2次報告①	報告準備/史料の内容把握
	12	史料内容に関する2次報告②	報告準備/史料の内容把握
	13	史料内容に関する2次報告③	報告準備/史料の内容把握
	14	史料内容に関する2次報告④	報告準備/史料の内容把握
	15	史料内容に関する2次報告⑤	報告準備/史料の内容把握
	16	前期振り返り、夏季休業中の取り組みの確認	卒論執筆の作業計画作成
	17	後期ガイダンス	報告準備
	18	報告準備	報告準備/補充調査
	19	卒論中間発表①	報告準備/補充調査
	20	卒論中間発表②	報告準備/補充調査
	21	卒論中間発表③	報告準備/補充調査
	22	卒論中間発表④	報告準備/補充調査
	23	卒論中間発表⑤	報告準備/補充調査
	24	卒論最終発表①	報告準備/卒論の執筆
	25	卒論最終発表②	報告準備/卒論の執筆
	26	卒論最終発表③	報告準備/卒論の執筆
	27	卒論最終発表④	報告準備/卒論の執筆
	28	卒論最終発表⑤	報告準備/卒論の執筆
	29	卒業論文の執筆と添削①	卒論の執筆
30	卒業論文の執筆と添削②	卒論の執筆	
31	卒業論文の最終確認	卒論の執筆/最終点検	

学 び の 実 践	<p>テキスト・参考文献・資料など 特定のテキストは使用しません。 参考文献については、個別に紹介します。</p>
	<p>学びの手立て</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 特別の場合を除いて、藤波担当の演習Ⅰの単位を修得済みの者が履修できる。 ② 卒論テーマに応じた史料の収集を自ら積極的にこなうこと。 ③ 史料の精読は地道で時間のかかる作業なので、早めに取り組むこと。 ④ 報告が中心となるので、準備をきちんと整えた上でゼミに参加すること。
	<p>評価</p> <ul style="list-style-type: none"> 到達目標（1）の評価：卒論中間報告の内容（20%） 到達目標（2）の評価：史料内容に関する2回の報告（20%） 到達目標（3）の評価：卒論最終報告の内容（20%） 到達目標（4）の評価：ゼミでの発言内容（10%） 到達目標（5）の評価：卒業論文の提出（30%）
学 び の 継 続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>卒業論文作成を目指すこのゼミは、社会文化学科での4年間の学びの最終段階です。ゼミにしっかり取り組んだことを自信として、社会に羽ばたいてください。</p>

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	演習Ⅱ	通年	木1	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	崎濱 佳代	4年	講義終了後に教室で受け付けます	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	本演習では、学生各自の関心にもとづいて研究テーマを設定し、主体的に調査・分析を行い、先行研究の知見にも目を配りながら、論理的・実証的記述により、卒業論文作成を行うことを目指します。	現代社会が直面するさまざまな課題を発見し、移民・エスニシティ・社会階層といった分析軸をすえながら、その課題を実証的・論理的に分析しましょう。フィールドで見たり考えたりしたこと、本や資料を見て考えたことを、ゼミの仲間とじっくり議論し、卒業研究につながる知性を生みだす、そんなゼミのあり方を目指します。
到達目標	①個人の研究テーマを設定し、主体的に調査研究を行うことができる。 ②自分の研究課題について、実証的・論理的に説明できる。 ③ゼミで研究報告を行い、学生同士で意見交換を行うことができる。 ④学術的ルールに則って、自分の研究課題を追究した卒業論文を書くことができる。 ⑤卒論発表会（口頭試問）における質疑に適切に応答できる。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	イントロダクション	授業内で指示する
	2	講義:卒論作成までのプロセス	授業内で指示する
	3	講義:卒論の書き方	授業内で指示する
	4	受講生による報告と討論(論文概要)	授業内で指示する
	5	受講生による報告と討論(論文概要)	授業内で指示する
	6	受講生による報告と討論(論文概要)	授業内で指示する
	7	受講生による報告と討論(論文概要)	授業内で指示する
	8	受講生による報告と討論(論文概要)	授業内で指示する
	9	受講生による報告と討論(論文概要)	授業内で指示する
	10	受講生による報告と討論(論文概要)	授業内で指示する
	11	受講生による報告と討論(論文概要)	授業内で指示する
	12	受講生による報告と討論(論文概要)	授業内で指示する
	13	受講生による報告と討論(論文概要)	授業内で指示する
	14	受講生による報告と討論(論文概要)	授業内で指示する
	15	前期のふりかえりと夏期休暇中の研究計画報告	授業内で指示する
	16	講義:卒論の形式と決まり	授業内で指示する
	17	受講生による報告と討論(中間報告)	授業内で指示する
	18	受講生による報告と討論(中間報告)	授業内で指示する
	19	受講生による報告と討論(中間報告)	授業内で指示する
	20	受講生による報告と討論(中間報告)	授業内で指示する
	21	受講生による報告と討論(中間報告)	授業内で指示する
	22	受講生による報告と討論(中間報告)	授業内で指示する
	23	受講生による報告と討論(中間報告)	授業内で指示する
	24	卒業論文仮提出	授業内で指示する
	25	卒業論文校正・推敲(原稿指導)	授業内で指示する
	26	卒業論文校正・推敲(原稿指導)	授業内で指示する
	27	卒業論文校正・推敲(原稿指導)	授業内で指示する
	28	卒業論文校正・推敲(原稿指導)	授業内で指示する
	29	卒業論文提出	授業内で指示する
30	卒業論文発表会	授業内で指示する	
31	卒業論文集完成	授業内で指示する	

学	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>①授業で配布する「卒論作成までのプロセス」「卒論の書き方」「卒論のしおり（改訂版）」および『社会学評論スタイルガイド』を共通テキストとする。</p> <p>②参考文献は、木下是雄『理科系の作文技術』（中央公論社, 1981）、榎木伸明『卒論を書こう（第2版）』（三修社, 2006）、早稲田大学出版部編『卒論・ゼミ論の書き方（第2版）』（早稲田大学出版部, 2002）など。</p> <p>③個人の研究テーマに関する参考文献は、授業で適宜紹介する。</p>
び の 実 践	<p>学びの手立て</p> <p>①各自の研究テーマに関する知識・情報を増やし理解・思考を深めるために、指示された課題に積極的に対応し、文献精読および社会調査を、授業に合わせて主体的に行っていくこと。</p> <p>②他のゼミ生の研究テーマについて、自分の研究テーマや関心にひきつけて、意見が述べられるようにすること。</p> <p>③新聞と文献を継続してしっかり読むこと。</p>
	<p>評価</p> <p>平常点（30%）、研究報告の内容・討論への参加姿勢（30%）、卒業論文への取組みと内容（40%）で総合的に評価する。</p>
学 び の 継 続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>（関連する演習科目）演習 I</p> <p>（関連する講義科目）ジェンダー論、国際社会学、社会学理論、マスコミ論、家族社会学、都市社会学、南島社会学、アジア社会論</p>

科目基本情報	科目名 沖縄近現代史 I	期別	曜日・時限	単位
	担当者 -宮城 晴美	前期	金 1	2
		対象年次	授業に関する問い合わせ	
		2年	リアクションペーパーに書くか自宅メール (h-unai@nifty.com) に連絡ください。	

学びの準備	ねらい かつて王国だった沖縄。明治政府による「琉球処分」によって、ことばをはじめ独自の文化を排除させられ、「日本人」に同化されていった。さらに沖縄戦後の米軍支配によって日本から分断され、広大な基地建設によって人権のない生活を強いられることになる。本講義では、沖縄の社会・政治・経済等、歴史的に検証することによって、日本における沖縄の位置づけについて考えていく。	メッセージ おそらく、中高生時代に学ぶことがなかったであろう沖縄の歴史について、特定のテキストは使わず、できるだけ時代のイメージができるよう、毎回、パワーポイントの画像、映像を使ったビジュアルな講義を進めていきます。
	到達目標 1. 琉球・沖縄の歴史を学ぶことで自分の住む沖縄への知的好奇心を高め、自身が社会の構成員の一人であることを自覚し、政治・社会情勢を敏感にとらえて自らのポリシーを確立できるようにする。 2. ネット社会に翻弄されることなく、多様な情報・資料を収集、分析して適正に判断し行動する力を身につけるようにする。 3. 沖縄社会の現状を、歴史的背景に基づいて理解することにより、真の平和とは何かを追究し、国際社会の平和に貢献できるようにする。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	イントロダクション (本授業のねらいと全体像の説明)	シラバスを事前に読んでくること
	2	【映像】「歴史は眠らない 沖縄・日本400年」(NHK制作)鑑賞	参考文献③の第5章
	3	琉球処分前後の動乱	〃
	4	「旧慣温存」期の沖縄の統治機構—県令政治の実相—	参考文献①第二部、三部
	5	教育の普及と「同化」政策—風俗改良運動	参考文献②四。プリントをよく読む
	6	沖縄の貧困と移民・出稼ぎ—差別との遭遇、「内なる日本化」	参考文献②の四、五
	7	社会運動の台頭	〃
	8	「内なる日本化」—15年戦争とファシズム体制下の沖縄民衆	プリントを読んでくること
	9	アジア・太平洋戦争下の沖縄	〃
	10	【映像】沖縄戦の基礎学習「ドキュメント沖縄戦」 講義「沖縄戦の特徴」	身近な戦争体験を聞く
	11	敗戦後の住民生活—米軍による統治機構	〃
	12	日本から切り離された沖縄—琉球政府の設置とサンフランシスコ講和条約	プリントを読んでくること
	13	銃剣とブルドーザー—米軍基地への抵抗・「島ぐるみ」土地闘争	〃
	14	復帰前後の民衆の動向	〃
	15	沖縄の基地問題と日米地位協定	〃
16	期末テスト	プリントを元に半期間の総復習	

テキスト・参考文献・資料など	<p>テキストはパワーポイントで作成し、そのプリントを毎回配付します。</p> <p>【参考文献】①沖縄県文化振興会史料編集室『沖縄県史 各論編 第5巻 近代』沖縄県教育委員会、2011 ②金城正篤・上原兼善・秋山勝・仲地哲夫・大城将保『沖縄県の百年』山川出版社、2005 ③安里進・高良倉吉・田名真之・豊見山和行・西里喜行・真栄平房昭『沖縄県の歴史』山川出版社、2004 ④那覇市歴史博物館編『戦後をたどる—「アメリカ世」から「ヤマトの世」へ』琉球新報社、2010 ⑤その他、随時紹介します。</p>
----------------	---

学びの手立て	<p>①「履修の心構え」・出席を重視します。やむを得ず遅刻した場合は講義終了後に申し出、欠席した場合は、必ず届けを出してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・欠席した日のプリントは、必ず要求して受け取ってください。 ・やむを得ず途中退席するときは授業前に届け出、リアクションペーパーを自身で提出してください。 <p>②「学を深めるために」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・プリントは前の週に配付します。事前に読んでくること。講義には忘れずに持参し、授業の内容をメモして復習に役立ててください。 ・「時間外学習の内容」を参考に、提示した文献で予習するよう心がけてください。
--------	--

評価	<p>・評価は、テスト50%、レポート35%、リアクションペーパー(授業参加度)15%で配分します。・テストは授業で使用したプリントを持ち込みますが、内容を理解しなければ解けないようになっていきますのでしっかり学習してください。・レポートは、授業を振り返って最も関心のあるテーマか、課題図書を選んで書いてもらいますが、「到達目標」を評価基準にしますので、自身の言葉で書いてください。・リアクションペーパーは、授業に対する感想、意見、質問等を書いていただきますが、的外れの感想、質問は減点の対象になります。</p>
----	--

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>(1)関連科目 後期の沖縄近代史Ⅱでは、ジェンダーの視点を入れた講義をします。より幅広い沖縄近現代史の知識が習得できます。(2)次のステージ 私たちが現在生活している場所がどういった所なのか、父母、祖父母の経験を通してその歴史を学び、あるいは沖縄の現状をメディア等で学ぶことによって将来像を描き、自分にできることは何かを模索し続けてほしいと思います。</p>
-------	---

科目基本情報	科目名 沖縄近現代史Ⅱ	期別	曜日・時限	単位
	担当者 -宮城 晴美	後期	金 1	2
		対象年次	授業に関する問い合わせ	
		2年	授業終了後か、自宅メール (h-unai@nifty.com) に連絡ください。	

学びの準備	ねらい 長年文字を学ぶ機会がなかった沖縄の女性たちは「良妻賢母」教育を身につけ、天皇制国家を支える一員として「日本人化」されていきます。沖縄戦で多くの犠牲をうみながらも、敗戦後は選挙権を手にし、形ばかりの男女平等が実現しました。しかし米軍支配では辛酸をなめつくし、復帰を前後して、女性たちは立ち上がりました。本講義では、ジェンダーの視点で沖縄の歴史を学びます。	メッセージ 本講義では、沖縄近現代史Ⅰをベースに、ジェンダーの視点から講義を進めていきます。祖母や母の生きた時代を学ぶことによって、真の男女平等とは何かを考えるきっかけにしてほしいと思います。
	到達目標 1. 琉球・沖縄の歴史を女性の視点で学ぶことによって差別の本質を学び、自律性を身につけることができるようにする。 2. 自身が社会構成員の一人として、ジェンダー偏見を排除し、他者の意見を傾聴することができるようにする。 3. 就職したとき、あるいは家庭生活を営むなかで性別による問題に直面したとき、その解決にむけた「アイテム」を講義の中から見出すことができるようにする。 4. ジェンダー平等を学ぶことで、沖縄社会の文化的ひずみ（たとえばトートナー問題を正し、差別のない社会づくりに貢献できるようにする。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画	
	回	テーマ
	1	イントロダクション（本授業のねらいと全体像の説明）
	2	琉球王国時代の女性の地位－神女（ノロ）組織・御内原
	3	ジェンダーと性－公娼制度下の辻遊廓
	4	【映像】娼婦から画家へー「Born Again」（今帰仁村出身・正子さんの生涯）
	5	家父長制の確立とジェンダー役割の形成
	6	抗する女たちと「日本化」への道
	7	戦争と性－日本軍「慰安婦」制度
	8	日本国憲法と女性の政治参加－世界的潮流のなかで
	9	婦人会の結成と男女平等意識の高まり
	10	米軍基地と売買春－公衆衛生看護婦の誕生
	11	女たちの文化活動と土地闘争
	12	【映像】イザイホー
	13	沖縄のフェミニズム運動－起ち上がった女たち
	14	日米の政治のはざまで－軍隊の構造的暴力を考える
	15	「トートナー」継承問題とジェンダー
16	期末テスト	
		時間外学習の内容
		シラバスを事前に読んでくること
		参考文献①第6章
		参考文献②第Ⅷ章
		〃
		参考文献④Ⅱ部
		プリントを事前に読んでくること
		〃
		〃
		参考文献③第二章
		参考文献④第6部
		プリントを事前に読んでくること
		身近な行事を調べてみる
		プリントを事前に読んでくること
		〃
		〃
		プリントを元に半期間の総復習

実践	テキスト・参考文献・資料など テキストはパワーポイントで作成し、そのプリントを毎回配付します。 【参考文献】①那覇市総務部女性室『なは・女のあしあと 那覇女性史（前近代編）』琉球新報社、2001 ②那覇市総務部女性室・那覇女性史編集委員会編『なは・女のあしあと 那覇女性史（近代編）』ドメス出版、1998 ③那覇市総務部女性室編『なは・女のあしあと 那覇女性史（戦後編）』琉球新報社、2001 ④沖縄県教育委員会文化財課史料編集班編『沖縄県史 各論編 第8巻 女性史』沖縄県教育委員会、2016 ⑤その他、随時紹介します。
----	---

学びの手立て	①「履修の心構え」・出席を重視します。やむを得ず遅刻した場合は講義終了後に申し出、欠席した場合は、必ず届けを出してください。 ・欠席した日のプリントは、必ず要求して受け取ってください。 ・やむを得ず途中退席するときは授業前に届け出、リアクションペーパーを自身で提出してください。 ②「学びを深めるために」 ・プリントは前の週に配付します。事前に読んでくること。講義には忘れずに持参し、授業の内容をメモして復習に役立ててください。 ・「時間外学習の内容」を参考に、提示した文献で予習するよう心がけてください。
--------	--

評価	・評価は、テスト50%、レポート35%、リアクションペーパー（授業参加度）15%で配分します。・テストは授業で使用したプリントを持ち込みますが内容を理解しないと解けませんので、しっかり学習してください。・レポートの課題は改めて指定しますが、「到達目標」を評価基準にしますので、自身の言葉で書いてください。・リアクションペーパーは、授業に対する感想、意見、質問等を書いていただきますが、的外れの感想、質問は減点の対象になります。
----	---

学びの継続	次のステージ・関連科目 (1)関連科目 沖縄近現代史Ⅰで、女性史の背景となる歴史が学べます。(2)次のステージ 法的には、ほぼ「男女平等」の社会になりましたが、女性を取り巻く環境はまだまだ厳しいものがあります。日常生活のなかで、それに気づき、その根源は何かを、講義を思い出しながら解決方法を考えてみてください。また、母・祖母の経験を通して、沖縄女性の足跡を学ぶことも良いですね。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	沖縄社会入門	前期	金 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	崎濱 佳代	1年	講義終了後に教室で受け付けます	

学びの準備	ねらい この講義は、今日の沖縄社会が直面している様々な課題に目を向けて、その背景にある構造的な問題について考察することをテーマとする。前期の講義では、権力作用によって把握しにくくなっている、沖縄の様々な社会現象と問題群、その現代的課題を理解することを目的とする。	メッセージ 沖縄社会に関する知的関心が不可欠な講義である。
	到達目標 沖縄社会にかかわる問題について学術的に思考する方法を具体的に理解し、そこから多様なテーマについて考察するための手がかりを引き出すことができるようにする。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス。前半のテーマと概要説明	授業内で指示する
	2	沖縄といえば？：沖縄イメージとアイデンティティ	授業内で指示する
	3	沖縄の家族：伝統、ジェンダー、子ども（1）	授業内で指示する
	4	沖縄の家族：伝統、ジェンダー、子ども（2）	授業内で指示する
	5	沖縄の家族：伝統、ジェンダー、子ども（3）	授業内で指示する
	6	沖縄の開発・発展（1）	授業内で指示する
	7	沖縄の開発・発展（2）	授業内で指示する
	8	沖縄と地域社会（1）	授業内で指示する
9	沖縄と地域社会（2）	授業内で指示する	
10	沖縄県民の社会参加活動（1）	授業内で指示する	
11	沖縄県民の社会参加活動（2）	授業内で指示する	
12	沖縄県民の社会参加活動（3）	授業内で指示する	
13	国際社会学から見た沖縄：移民、ウチナーンチュ・ネットワーク（1）	授業内で指示する	
14	国際社会学から見た沖縄：移民、ウチナーンチュ・ネットワーク（2）	授業内で指示する	
15	国際社会学から見た沖縄：移民、ウチナーンチュ・ネットワーク（3）	授業内で指示する	
16	レポート提出	授業内で指示する	
実践	テキスト・参考文献・資料など 特定のテキストは指定しない。必要に応じて資料を配付する。各回の講義で必要に応じて参考文献を提示する。		
	学びの手立て 新聞等を通して、日々の出来事やそこに含まれている問題を発見しようと意識することが重要である。		
	評価 小レポート(40%)、学期末レポート(あるいはテスト)(60%)で総合的に評価する。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 1年次後期の基礎科目（学科必修科目）である社会学概論と平和学概論につながる
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	沖縄ジャーナリズム論	後期	金 3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	謝花直美、_山城紀子、_安里努、_崎濱秀光、_福元大輔、_大野享恭、_具志堅学、_下地広也、_照屋剛志、_森田美奈子、_與那原良彦、_山城響、_赤嶺由紀子、_黒島美奈子	1年	times-okikoku@okinawatimes.co.jp(講師共用)、098(860)3538	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>沖縄の現在社会を知る上で必須の時事問題を中心に、沖縄ジャーナリズムの歩み、米軍基地問題、沖縄戦などを現役のデスク、記者、論説委員が解説する。報道を通して、ニュースの読み方、現代沖縄の問題を多様な視点から考える姿勢を学ぶ。</p>	<p>沖縄タイムスの一線で活躍する記者、日々の紙面づくりに取り組むデスクが、米軍基地問題から社会福祉まで幅広い視点で現代沖縄を解説します。ニュース一般の読み解き方も紹介します。</p>
到達目標	<p>報道の現場の一線で活躍する記者の解説を通して、現代沖縄の社会を知るため、ニュースがつくりだされる過程から、その情報の読み解き方までを学ぶ。多様な視点から考える態度を習得する。</p>	

学びの実践	<p>学びのヒント</p> <p>授業計画</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>テーマ</th> <th>時間外学習の内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>イントロダクション (謝花直美)</td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td>ジャーナリズムの役割とは (山城紀子、ジャーナリスト、早稲田大学Jスクール講師)</td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td>大学生のためのNIE (安里努)</td><td></td></tr> <tr><td>4</td><td>縦軸、横軸からみる新聞 (崎濱秀光)</td><td></td></tr> <tr><td>5</td><td>米軍基地問題の歴史 (福元大輔)</td><td></td></tr> <tr><td>6</td><td>米軍基地問題の現在 (大野享恭)</td><td></td></tr> <tr><td>7</td><td>心をつかむ整理術 (具志堅学)</td><td></td></tr> <tr><td>8</td><td>人を繋ぐ報道写真 (下地広也)</td><td></td></tr> <tr><td>9</td><td>元気がでる企業と沖縄経済 (照屋剛)</td><td></td></tr> <tr><td>10</td><td>社説・論を伝える (森田美奈子)</td><td></td></tr> <tr><td>11</td><td>若者と政治 (与那原良彦)</td><td></td></tr> <tr><td>12</td><td>事件はいかに報道されるか (山城響)</td><td></td></tr> <tr><td>13</td><td>地域ニュース喜怒哀楽 (赤嶺由紀子)</td><td></td></tr> <tr><td>14</td><td>新聞の中のマイノリティ (黒島美奈子)</td><td></td></tr> <tr><td>15</td><td>新聞が沖縄戦を伝えること (謝花直美)</td><td></td></tr> <tr><td>16</td><td>学期末テスト (謝花直美)</td><td></td></tr> </tbody> </table>	回	テーマ	時間外学習の内容	1	イントロダクション (謝花直美)		2	ジャーナリズムの役割とは (山城紀子、ジャーナリスト、早稲田大学Jスクール講師)		3	大学生のためのNIE (安里努)		4	縦軸、横軸からみる新聞 (崎濱秀光)		5	米軍基地問題の歴史 (福元大輔)		6	米軍基地問題の現在 (大野享恭)		7	心をつかむ整理術 (具志堅学)		8	人を繋ぐ報道写真 (下地広也)		9	元気がでる企業と沖縄経済 (照屋剛)		10	社説・論を伝える (森田美奈子)		11	若者と政治 (与那原良彦)		12	事件はいかに報道されるか (山城響)		13	地域ニュース喜怒哀楽 (赤嶺由紀子)		14	新聞の中のマイノリティ (黒島美奈子)		15	新聞が沖縄戦を伝えること (謝花直美)		16	学期末テスト (謝花直美)		
	回	テーマ	時間外学習の内容																																																		
	1	イントロダクション (謝花直美)																																																			
	2	ジャーナリズムの役割とは (山城紀子、ジャーナリスト、早稲田大学Jスクール講師)																																																			
3	大学生のためのNIE (安里努)																																																				
4	縦軸、横軸からみる新聞 (崎濱秀光)																																																				
5	米軍基地問題の歴史 (福元大輔)																																																				
6	米軍基地問題の現在 (大野享恭)																																																				
7	心をつかむ整理術 (具志堅学)																																																				
8	人を繋ぐ報道写真 (下地広也)																																																				
9	元気がでる企業と沖縄経済 (照屋剛)																																																				
10	社説・論を伝える (森田美奈子)																																																				
11	若者と政治 (与那原良彦)																																																				
12	事件はいかに報道されるか (山城響)																																																				
13	地域ニュース喜怒哀楽 (赤嶺由紀子)																																																				
14	新聞の中のマイノリティ (黒島美奈子)																																																				
15	新聞が沖縄戦を伝えること (謝花直美)																																																				
16	学期末テスト (謝花直美)																																																				
テキスト・参考文献・資料など	適宜レジュメを配布する																																																				
学びの手立て	<p>講義では時事問題に毎回言及します。そのため事前の1週間の新聞を読んで講義に参加することが求められます。ネットニュースの形ではなく、紙の新聞を1面から社会面までを通して読む習慣を身につけて下さい。朝刊には新書1冊分の活字が記載されています。その中から必要なニュースを自在に読むことが出来る力を身につけることは、社会人としても必要なスキルです。特に地域紙は地域の問題に密着し、政治、経済、社会と学生のみなさんが住んでいる地域の視点からニュースを発信します。地域紙と全国紙を読むことを、大学生のころから心掛けてほしいと思います。</p>																																																				
評価	出席、論文																																																				

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>社会・平和領域の選択科目</p>
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	沖縄前近代史 I	前期	月 4	2
	担当者 深澤 秋人	対象年次	授業に関する問い合わせ	
		2年	水曜日 2限のオフィスアワーに研究室（5422）で受け付けます。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>琉球・沖縄の前近代史は先史時代、古琉球、近世琉球に区分されています。古琉球では琉球王国が成立する一方、近世琉球では薩摩藩による支配が固定化され、最終的には明治政府による琉球併合で終焉を迎えます。本講義では、日本史および琉球史研究の論点を踏まえ、それぞれの時期の日本との関係を意識しながら、琉球の国家のありかたを考えます。</p>	<p>本学図書館は沖縄県内の市町村史を多く所蔵しています。学外でも、博物館では沖縄前近代史に関わる常設展や企画展、また、県や市町村による発掘調査現地説明会が催されることがあります。身近な市町村史をめぐってみることで、博物館や説明会に足を運んでモノに接することをおすすめします。</p>
	到達目標	
	<ul style="list-style-type: none"> 先史時代から近世琉球にわたるそれぞれの時期の琉球と日本の関係を理解できるようになる。 古琉球と近世琉球における国家のありかたを理解できるようになる。 	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	イントロダクション、沖縄前近代史 I を始める前に	到達目標を理解する
	2	琉球・沖縄の前近代史と向き合う前に	レジュメの基本文献にあたる
	3	律令制国家と南島—奈良時代の南の「境界」—	レジュメの参考文献にあたる
	4	平安時代の南の「境界」—八郎の真人・キカイガシマ・落ち武者伝説—	レジュメの参考文献にあたる
	5	琉球の国家形成—グスク時代の沖縄島—	レジュメの参考文献にあたる
	6	第一尚氏政権と足利政権—室町時代の南の「境界」—	レジュメの参考文献にあたる
	7	第二尚氏政権と豊臣政権—尚寧の冊封と朝鮮出兵—	レジュメの参考文献にあたる
	8	島津氏の琉球侵攻—歴史の変動期のなかで—	レジュメの参考文献にあたる
	9	講義の折り返し地点を過ぎて	到達目標を確認する
	10	徳川政権と琉球王国—「鎖国」と琉球王権—	レジュメの参考文献にあたる
	11	近世琉球の国家と社会—琉球支配と乾隆検地—	レジュメの参考文献にあたる
	12	異国船の琉球来航—アジアの近代との接点—	レジュメの参考文献にあたる
	13	明治政府による琉球併合—東アジアのなかの「琉球処分」—	レジュメの参考文献にあたる
14	沖縄前近代史 I をまとめる前に	到達目標を再確認する	
15	まとめ	関心を持ったテーマを設定する	
16	期末試験	到達目標を意識して解答する	
	テキスト・参考文献・資料など		
	<p>【テキスト】教科書は使用しません。毎回レジュメと図表などの参考資料を配布します。</p> <p>【参考文献】</p> <ul style="list-style-type: none"> 『沖縄県史』各論編第3巻 古琉球（沖縄県教育委員会、2010年） 『沖縄県史』各論編第4巻 近世（沖縄県教育委員会、2005年） 桃木至朗編『海域アジア史研究入門』（岩波書店、2008年） 		
	学びの手立て		
	<ul style="list-style-type: none"> 授業計画に示した各回のテーマのなかで、関心がある、関心が持てそうなものをあらかじめいくつかピックアップすることをおすすめします。 		
	評価		
	<p>期末試験もしくはレポート（80%）、授業参加度（20%）によって総合的に評価します。</p>		

学びの継続	次のステージ・関連科目
	「アジア史」「沖縄前近代史Ⅱ」「古文書講読Ⅰ・Ⅱ」の受講を希望します。

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	沖縄前近代史Ⅱ	後期	月4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	深澤 秋人	2年	水曜日2限のオフィスアワーに研究室(5422)で受け付けます。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>琉球王国にとって重要な港であった那覇港はアジアの歴史の変動がいち早く反映する場でした。本講義では、15世紀から19世紀にいたる那覇港の変遷、時期ごとの特徴を中国船と日本船に注目して考えます。また、琉球の王権や政権ではなく、近世の琉球社会にとっての対外関係史を考えます。</p>	<p>本学の図書館は沖縄県内の市町村史を多く所蔵しています。学外でも、博物館では沖縄前近代史に関わる常設展や企画展、また、県や市町村による発掘調査現地説明会が開催されることもあります。身近な市町村史をめぐってみることで、博物館や説明会に足を運んでモノに接することをおすすめします。</p>
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・那覇港の変遷および時期ごとの特徴を理解できるようになる。 ・近世の琉球社会にとって対外関係史が持つ意味を理解できるようになる。 	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	イントロダクション、沖縄前近代史Ⅱを始める前に	到達目標を理解する
	2	「琉球貿易図屏風」(滋賀大学経済学部附属史料館蔵)を歩く	レジュメの参考文献にあたる
	3	「大交易時代」の那覇港—中国船と日本船—	レジュメの参考文献にあたる
	4	16世紀末の那覇港—那覇の日本人町—	レジュメの参考文献にあたる
	5	「鎖国」と那覇港—17世紀前半の状況—	レジュメの参考文献にあたる
	6	琉球史のなかの久米村—チャイナタウンから諮問機関へ—	レジュメの参考文献にあたる
	7	講義の折り返し地点で	到達目標を確認する
	8	琉球社会と対外関係史①—黒砂糖・貿易銀・海産物・中国商品—	レジュメの参考文献にあたる
	9	琉球社会と対外関係史②—久米島の場合—	レジュメの参考文献にあたる
	10	琉球社会と対外関係史③—宜野湾間切我如古村の場合—	レジュメの参考文献にあたる
	11	琉球社会と対外関係史④—那覇港を抱えた地域の場合—	レジュメの参考文献にあたる
	12	異国船の琉球来航—1840～50年代の那覇—	レジュメの参考文献にあたる
	13	琉球王国最末期の那覇港—1870年代の状況—	レジュメの参考文献にあたる
14	沖縄前近代史Ⅱをまとめる前に	到達目標を再確認する	
15	まとめ	関心を持ったテーマを設定する	
16	期末試験	到達目標を意識して解答する	
テキスト・参考文献・資料など	<p>【テキスト】教科書は使用しません。毎回レジュメと図表などの参考資料を配布します。</p> <p>【参考文献】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・『沖縄県史』各論編第3巻 古琉球(沖縄県教育委員会、2010年) ・『沖縄県史』各論編第4巻 近世(沖縄県教育委員会、2005年) ・豊見山和行編『日本の時代史18 琉球・沖縄史の世界』(吉川弘文館、2003年) 		
学びの手立て	<p>授業計画に示した各回のテーマのなかで、関心がある、関心が持てそうなものをあらかじめいくつかピックアップしておくことをおすすめします。</p>		
評価	<p>期末試験もしくはレポート(80%)、授業参加度(20%)によって総合的に評価する。</p>		

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>「アジア史」「沖縄前近代史Ⅰ」「古文書講読Ⅰ・Ⅱ」を受講することを希望します。</p>
-------	---

※ポリシーとの関連性

社会文化学科の導入科目にあたる。以降の学びに向け、基礎となる知識を幅広く身につけることが目的である。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	沖縄文化入門	前期	火3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	及川 高	1年	t.oikawa@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 本講義の主眼は、沖縄の民俗文化に関する基礎的な理解を深めることにある。具体的には、地理・歴史、生業、衣・食・住、村落、家族・親族、誕生・成長儀礼、婚姻、葬送儀礼と墓、祭り・年中行事などの諸トピックを取り上げる。	メッセージ 沖縄文化に関する基本的な知識を身につけるための科目です。
	到達目標 琉球弧の島々で歴史的に作り上げられてきた文化の概要を理解し、空間的（周辺地域との交流）・時間的（文化の歴史的変化）広がりの中で「沖縄文化」を捉える。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス この講義の進め方・成績評価の方法	課題とそのフィードバック
	2	沖縄のおまつり——エイサーと綱引き	課題とそのフィードバック
	3	農耕——米と芋、民族起源論、生業複合	課題とそのフィードバック
	4	海——海人と交易、ニライカナイ	課題とそのフィードバック
	5	村の景観——建築・風水・石敢当	課題とそのフィードバック
	6	被服と装い——色彩、素材、形態	課題とそのフィードバック
	7	沖縄料理——肉食、沖縄そば、チャンプルー	課題とそのフィードバック
	8	都市と王権——那覇と首里	課題とそのフィードバック
	9	人生儀礼——誕生、成長、死	課題とそのフィードバック
	10	琉球の神話——神観念、中世神話	課題とそのフィードバック
	11	シャマニズム——ユタ、ノロ、憑依	課題とそのフィードバック
	12	仮面神——若者集団と地下他界	課題とそのフィードバック
	13	先祖祭祀——清明祭、亀甲墓、洗骨	課題とそのフィードバック
	14	東アジアの中の沖縄	課題とそのフィードバック
	15	講義のまとめ	レポートを提出
	16	(予備日)	
	テキスト・参考文献・資料など 講義の中で定義資料を配付する。綴じるためのファイル等を用意しておくことが望ましい。		
	学びの手立て 日常的知識を学術的・専門的な知識と結び付けていく講義である。自分自身の経験を意識し、授業内容と積極的に結び付けて考えていく姿勢が求められる。なお各回において理解度チェックの課題と、その解説にもとづいた復習を実施する。		
	評価 各回において課題を出題する（40%）。これに期末に実施するレポート（60%）を勘案し評価を与える。なお評価は、①講義内容の正確な理解（50%）、および、②内容を適切に要約する表現力（50%）、の2点を規準として行う。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 沖縄の文化だけでなく、歴史や言語、さらには周辺諸地域に対する理解を深めることが望ましい。次の諸科目の履修を勧めたい。e.g. 民俗学概論、文化人類学概論、南島民俗学史Ⅰ・Ⅱ、比較民俗学、アジア文化概論、アジア社会文化論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、etc.
-------	--

※ポリシーとの関連性 社会文化学科は、問題解決型の人材の養成を教育目標としているが、本授業は社会問題を発見し、分析する力をつけるのに貢献する。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	沖繩平和学	前期	月3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-玉城 福子	2年	授業後に教室で受け付けます。	

学びの準備	ねらい この授業では、ジェンダー、セクシュアリティ、植民地主義の視点を学び、社会の様々な事象を分析することを通じて、これまで「当たり前」だと思っていた身近な出来事の中にある差別や暴力に気づき考える力を身につけることを目的とする。題材として、沖縄の歴史や暴力の問題（具体的には、DV、沖縄戦時の日本軍「慰安所」制度、戦後の米兵による性暴力など）を取り上げる。	メッセージ 身近な事象を取り上げたり、ドキュメンタリー映画などを用いることで、暴力そして平和の問題を自分のこととして考えることができるように工夫しています。また、少人数でのグループディスカッションを取り入れており、考え自分の意見を言うこと、相手の意見に耳を傾ける力も身につきます。
	到達目標 ・ジェンダー、セクシュアリティ、植民地主義に関わる基礎的な概念について説明できるようになる ・平和学的な視点から特定の社会問題や歴史を掘り下げ、問題の所在や解決のための具体策について自分の意見が言えるようになる	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	イントロダクション	事前にシラバスに目を通してくる
	2	ジェンダー：基礎	第2～4週：参考文献⑥を読む
	3	ジェンダー：歴史と発展	第2～4週：参考文献⑥を読む
	4	ジェンダー：応用	第2～4週：参考文献⑥を読む
	5	事例を通じて考える①：沖縄社会とDV	参考文献④を事前に読む
	6	セクシュアリティ：基礎	第6～8週：参考文献③を読む
	7	セクシュアリティ：歴史と発展	第6～8週：参考文献③を読む
	8	セクシュアリティ：応用	第6～8週：参考文献③を読む
9	事例を通じて考える②：沖縄戦と日本軍「慰安所」制度	参考文献①を事前に読む	
10	ゲストスピーカーによる講演会（詳細は授業内で指示する）	前の週に配布の資料を事前に読む	
11	植民地主義：基礎	第11～13週：参考文献②を読む	
12	植民地主義：歴史と発展	第11～13週：参考文献②を読む	
13	植民地主義：応用	第11～13週：参考文献②を読む	
14	事例を通じて考える③：沖縄における米兵による性暴力	参考文献①を事前に読む	
15	講義のまとめ	これまでのレジュメで復習してくる	
16	学期末試験	テスト勉強	
実践	テキスト・参考文献・資料など ・教科書は指定しない ・参考文献として、以下の文献を推薦する ①アクティブ・ミュージアム「女たちの戦争と平和資料館」編、2012年、『軍隊は女性を守らない—沖縄の日本軍慰安所と米軍の性暴力』アクティブ・ミュージアム「女たちの戦争と平和資料館」。②本橋哲也、2005年、『ポストコロニアリズム入門』岩波書店。③河口和也、2003年、『クイア・スタディーズ』岩波書店。④関口久志、2009年、『性の“幸せ”ガイド—若者たちのリアルストーリー』エイデル研究所。⑤竹村和子、2000年、『フェミニズム』岩波書店		
	学びの手立て 履修の心構え ・出欠確認は毎回厳格に行うので、欠席・遅刻に注意してください。 ・沖縄の現代史や現在の時事問題についての基本的な知識を持っていると理解がしやすいと思います。関連科目を取ったり、新聞に目を通す習慣をつけましょう。		
	評価 ・平常点30%…毎回コメントペーパーを書いてもらう。 ・試験70%…基礎概念の用語説明と小論文とする。 ※無断欠席5回以上は「不可」とする。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 関連科目・次のステージ 関連科目として「沖縄近代史Ⅰ」「沖縄近代史Ⅱ」 平和学や社会学に関心を持った学生は、平和学ゼミや社会学ゼミの「演習」で自身のテーマを深めてください。
-------	---

※ポリシーとの関連性

「家族」を通して人間・社会・文化を考察していき、複眼的にものをみる知性・感性を養い、問題解決能力をつける。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	家族社会学	前期	木3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-具志堅 邦子	2年	講義終了後に教室で受け付けます。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	①家族とは何かを考え、②どのようにして現在の家族が生成されたのかを考える。家族とは何かという問いは、家族という構造を明らかにすることである。どのようにして家族が生成されてきたのかをたどることは、家族を生成してきたものの構造を明らかにすることである。二つの構造を明らかにすることによって、これからの家族と社会の可能性を探る。	学生時代に、家族とは何か、家族するということはどういうことかを考察してみましょう。そのことによって、これからの家族と社会の可能性がみえてきます。
到達目標	近代・宗教・経済・ジェンダー・国民国家・アディクションなどの視点から家族と社会を読み解くことができるようになる。そのうえで、これからの社会と家族のありようをイメージすることができる。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス、家族とは	初回から講義します
	2	家族の構造	配布資料を熟読すること
	3	ヘアー・インディアンの家族	配布資料を熟読すること
	4	生と死と老い	配布資料を熟読すること
	5	子どもの誕生と子ども文化	配布資料を熟読すること
	6	恋愛・性愛・結婚	配布資料を熟読すること
	7	母親の社会史	配布資料を熟読すること
	8	家族に関する統計を読む	配布資料を熟読すること
	9	日本における近代家族の生成	配布資料を熟読すること
	10	戦後の日本の社会変動と家族	配布資料を熟読すること
	11	沖縄の家族(1)	配布資料を熟読すること
	12	沖縄の家族(2)	配布資料を熟読すること
	13	近代家族とアディクション(1)	配布資料を熟読すること
14	近代家族とアディクション(2)	配布資料を熟読すること	
15	現代家族の何が問題なのか	配布資料を熟読すること	
16	課題	半期間の総復習	
テキスト・参考文献・資料など	<p>テキストは特に指定しない。講義に関連する文献は適宜講義内で紹介する。また、授業に関連する資料を配布するので、それを参考にすること。講義の理論となっている主な参考文献は次のとおり。①フィリップ・アリエス『「子供」の誕生』（1980年、みすず書房）②エリザベート・バダンテール『母性という神話』（1998年、ちくま学芸文庫）③グレゴリー・ベイトソン『精神の生態学』（2000年、新思案社）</p>		
学びの手立て	<p>現代社会は「大きな物語」が終焉したという前提で講義をすすめていく。毎回の受講の積み重ねが力になる。</p>		
評価	<p>発見だったこと、感じたことなどをリアクション・ペーパー（授業参加度とする）に書いて提出。授業参加度（80%）と課題（20%）で評価する。</p>		

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>多様な家族のあり方を支援する家族政策・社会政策へ提言できる。そのような活動・研究・臨床の場につながることをのぞむ。</p>
-------	---

※ポリシーとの関連性

「家族」を通して人間・社会・文化を考察していき、複眼的にもの
をみる知性・感性を養い、問題解決能力をつける。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	家族社会学 I	前期	木 3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-具志堅 邦子	3年	講義終了後に教室で受け付けます。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	①家族とは何かを考え、②どのようにして現在の家族が生成されたのかを考える。家族とは何かという問いは、家族という構造を明らかにすることである。どのようにして家族が生成されてきたのかをたどることは、家族を生成してきたものの構造を明らかにすることである。二つの構造を明らかにすることによって、これからの家族と社会の可能性を探る。	学生時代に、家族とは何か、家族するということはどういうことかを考察してみましょう。そのことによって、これからの家族と社会の可能性がみえてきます。
到達目標	近代・宗教・経済・ジェンダー・国民国家・アディクションなどの視点から家族と社会を読み解くことができるようになる。そのうえで、これからの社会と家族のありようをイメージすることができる。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス、家族とは	初回から講義します
	2	家族の構造	配布資料を熟読すること
	3	ヘアー・インディアンの家族	配布資料を熟読すること
	4	生と死と老い	配布資料を熟読すること
	5	子どもの誕生と子ども文化	配布資料を熟読すること
	6	恋愛・性愛・結婚	配布資料を熟読すること
	7	母親の社会史	配布資料を熟読すること
	8	家族に関する統計を読む	配布資料を熟読すること
	9	日本における近代家族の生成	配布資料を熟読すること
	10	戦後の日本の社会変動と家族	配布資料を熟読すること
	11	沖縄の家族(1)	配布資料を熟読すること
	12	沖縄の家族(2)	配布資料を熟読すること
	13	近代家族とアディクション(1)	配布資料を熟読すること
14	近代家族とアディクション(2)	配布資料を熟読すること	
15	現代家族の何が問題なのか	配布資料を熟読すること	
16	課題	半期間の総復習	
テキスト・参考文献・資料など	<p>テキストは特に指定しない。講義に関連する文献は適宜講義内で紹介する。また、授業に関連する資料を配布するので、それを参考にすること。講義の理論となっている主な参考文献は次のとおり。①フィリップ・アリエス『「子供」の誕生』（1980年、みすず書房）②エリザベート・バダンテール『母性という神話』（1998年、ちくま学芸文庫）③グレゴリー・ベイトソン『精神の生態学』（2000年、新思案社）</p>		
学びの手立て	<p>現代社会は「大きな物語」が終焉したという前提で講義をすすめていく。毎回の受講の積み重ねが力になる。</p>		
評価	<p>発見だったこと、感じたことなどをリアクション・ペーパー（授業参加度とする）に書いて提出。授業参加度（80%）と課題（20%）で評価する。</p>		

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>多様な家族のあり方を支援する家族政策・社会政策へ提言できる。そのような活動・研究・臨床の場につながることをのぞむ。</p>
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	環境開発論	前期	水4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	比嘉 理麻	2年	r.higa@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	本講義では、環境と開発を捉える視点と方法を学び、あらためて私たちにとって「環境」とは何か、「開発」とは何かを問うていく。	大規模破壊を前提としない生き方は、いかにして可能か。一緒に考えましょう。

到達目標	自らの衣食住にかかわる多種多様な選択がいかに環境の変化に直結しているかを具体的な事例を通して理解できるようになる。人間社会の外部に環境が在るのではなく、人間社会は否応なく環境の一部である、という新たな社会-環境観を習得する。
------	--

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	授業時に指示した文献の講読
	2	環境問題と現代社会	授業時に指示した文献の講読
	3	私たちの衣食住に直結する環境問題	授業時に指示した文献の講読
	4	映像鑑賞	映像に関連する文献の講読
	5	私たちは何を食べてきたのか：現代社会の食の問題	授業時に指示した文献の講読
	6	ファスト・フード	授業時に指示した文献の講読
	7	食べることの倫理	授業時に指示した文献の講読
	8	肉食と飢餓問題	授業時に指示した文献の講読
	9	映像鑑賞	映像に関連する文献の講読
	10	私たちの来ている服はどこからくるの？	授業時に指示した文献の講読
	11	ファスト・ファッション：安さの代価	授業時に指示した文献の講読
	12	世界第2位の衣料品輸出国の労働問題	授業時に指示した文献の講読
	13	エシカル・ファッション9つの方法：着ることから始まる倫理のかたち	授業時に指示した文献の講読
	14	ファスト・フード/ファスト・ファッション：私たちの社会が抱える問題の構造	授業時に指示した文献の講読
15	総括	総合的な復習	
16	試験	試験問題のおさらい	

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など テキストはとくに指定しない。 参考文献： 鬼頭秀一・福永真弓編 2009 『環境倫理学』東京大学出版会。
-------	---

学びの手立て	環境問題に関するニュースに日常的に触れる。
--------	-----------------------

評価	原則として、リアクションペーパーの内容（10%）と試験（90%）によって総合的に評価する。
----	---

学びの継続	次のステージ・関連科目 自然環境課題研究Ⅰ、自然環境課題研究Ⅱ
-------	------------------------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	外国語資料講読演習Ⅰ	前期	月2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-前原 直子	2年	ptt756@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	本演習では、3つのテーマ（エスニック・アイデンティティ、「人種」、グローバル化）に焦点を当て、関連する英文記事のリーディング活動をとおり、英文を読む力や、文化/社会人類学の見方・考え方を鍛えていきます。	ペア・グループ、クラス内での学び合いをとおり、全員が安心して学べるようにサポートします。

到達目標	社会的な話題について、(辞書を含め)支援を活用すれば、英文で必要な情報を読み取り、概要や要点を捉えることができる。社会的な話題について、英文で読み取ったことを踏まえて、その内容を自分の言葉で言い換えたり、感想や意見を伝え合うことができる。いくつかの社会的な現象や課題について、文化/社会人類学の見方・考え方ができる。
------	--

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス・配布資料の説明	今回の英文を読み、和訳メモを作る
	2	"An American Okinawan Identity" 各段落の要点を読み取る練習	サイトラ音読練習
	3	"An American Okinawan Identity" サイト・トランスレーション&ディスカッション	今回の英文を読み、和訳メモを作る
	4	"How do anthropologists understand identification?" 各段落の要点を読み取る練習	サイトラ音読練習
	5	"How do anthropologists understand identification?" サイトラ&ディスカッション	小レポート作成
	6	【小レポート提出】 "I'm raising a biracial daughter in Japan,..." 要点を読み取る練習	サイトラ音読練習
	7	"I'm raising a biracial daughter in Japan,..." サイトラ&ディスカッション	今回の英文を読み、和訳メモを作る
	8	"Face the reality of racism in Japan" 各段落の要点を読み取る練習	サイトラ音読練習
	9	"Face the reality of racism in Japan" サイトラ&ディスカッション	小レポート作成
	10	【小レポート提出】 "The Okinawa Way" 各段落の要点を読み取る練習	サイトラ音読練習
	11	"The Okinawa Way" サイトラ&ディスカッション	今回の英文を読み、和訳メモを作る
	12	"Born in the USA, eaten in Okinawa" 各段落の要点を読み取る練習	サイトラ音読練習
	13	"Born in the USA, eaten in Okinawa" サイトラ&ディスカッション	今回の英文を読み、和訳メモを作る
	14	"The history of globalization" 要点を読み取る練習	サイトラ音読練習
15	"The history of globalization" サイトラ&ディスカッション	小レポート作成	
16	【小レポート提出】		

テキスト・参考文献・資料など	初回到新聞記事や文献抜き刷りコピーをまとめて配布します。各自、ファイルで保管して授業の際に持ってきてください。
----------------	---

学びの手立て	2週間に一本ずつ読んでいきます。 ●1週目は、英文をざっと読み、細かいところは気にせず、各段落の要点を読み取る練習です。 ●2週目は、サイト・トランスレーションで内容確認・音読後、内容に関する話し合い活動があります。 ●3つのテーマに関する小レポートを計3本書いてもらいます。読んだ英文の内容を関連付けたり、発展的に考えたりしたことを、小レポートとしてまとめて、次週の最初にクラス内で共有します。
--------	---

評価	振り返りシート(学びの過程を把握するため)・・・10% 小レポート(各テーマへの理解度・思考力・表現力を把握するため)・・・90%(3本×30%) ※レポートは、ルーブリックを基準にして評価します。 ※無断欠席、遅刻は厳禁です。(遅刻3回で欠席1回とカウントされます。欠席5回以上は「不可」となりますので、気を付けてください。)
----	---

学びの継続	次のステージ・関連科目 「外国語資料講読演習Ⅱ」
-------	-----------------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	外国語資料講読演習 I	前期	火 3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	比嘉 理麻	2年	r.higa@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 本演習は、社会文化学科の2年次を対象とした必修科目であり、とくに歴史領域と考古・先史領域の学生を対象としている。本演習では、歴史と考古・先史に関する文献の基礎用語を学びながら、英文の読解能力を高めることを目的とする。最終的には、英文の専門資料を正確に読解する能力を獲得することを旨とする。	メッセージ 英語専門資料の読解に必要な不可欠な英語文法を身につけましょう。
	到達目標 歴史と考古・先史に関する基礎的な概念を理解し、英語と日本語で正確に翻訳・読解できるようになる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション	授業の予習
	2	基礎テキストの講読 (1)	授業の予習・復習
	3	基礎テキストの講読 (2)	授業の予習・復習
	4	基礎テキストの講読 (3)	授業の予習・復習
	5	基礎テキストの講読 (4)	授業の予習・復習
	6	基礎テキストの講読 (5)	授業の予習・復習
	7	基礎テキストの講読 (6)	授業の予習・復習
	8	復習	授業の予習・復習
9	基礎テキストの講読 (1)	授業の予習・復習	
10	基礎テキストの講読 (2)	授業の予習・復習	
11	基礎テキストの講読 (3)	授業の予習・復習	
12	基礎テキストの講読 (4)	授業の予習・復習	
13	基礎テキストの講読 (5)	授業の予習・復習	
14	基礎テキストの講読 (6)	授業の予習・復習	
15	復習	授業の総合的な復習	
16	試験	授業の総合的な復習	
	テキスト・参考文献・資料など テキストは、必要な部分を印刷して配布する。 関連する重要な文献は、適宜紹介する。		
	学びの手立て 研究領域に関わる英語論文や英字新聞を日常的に読む。		
	評価 原則として、授業参加度 (30%) と試験 (70%) を総合し評価する。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 外国語資料講読演習 II
-------	-----------------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	外国語資料講読演習 I	前期	火 3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-末吉 重人	2年	学内LAN メールアドへ	

学びの準備	ねらい 社会学専攻の学生を対象とした本講義では、欧米の社会学理論史を英語で学ぶ。社会学の父コントから主要な社会学者の論点を、現代に至るまで触れる。学生が訳を発表し、それにコメントする形で授業を進行する。おおいにディスカッションを歓迎する。	メッセージ 基本的な社会学理論を理解する学生になって欲しい。
	到達目標 社会を見る際に、ある程度 of 社会的視点を持って分析出来るようになることを目指す。	

学びの準備	到達目標 社会を見る際に、ある程度 of 社会的視点を持って分析出来るようになることを目指す。
-------	--

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	シラバスの説明と発表順の決定	配布資料を熟読すること
	2	オーギュスト・コントとフランス革命について(末吉)	配布資料を熟読すること
	3	エミール・デュルケム「社会分業論」	『社会学講義』PP279-282
	4	「自殺論」	配布資料を熟読すること
	5	カール・マルクスの生涯と史的唯物論	『社会学の名著30』PP48-54
	6	資本論と疎外論	配布資料を熟読すること
	7	マックス・ウェーバー「プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神」	『社会学のあゆみ』PP20-38
	8	支配の社会学	配布資料を熟読すること
	9	ユダヤ・キリスト教史概略	配布資料を熟読すること
	10	タルコット・パーソンズの構造・機能分析	『社会学のあゆみ』PP157-167
	11	AGIL	配布資料を熟読すること
	12	マハトマ・ガンジーの生涯と非暴力主義	配布資料を熟読すること
	13	ロバート・マートンの逆機能概念	『社会学のあゆみ』P150-156
	14	逸脱理論	配布資料を熟読すること
	15	ヨハン・ガルトウングの構造的暴力	配布資料を熟読すること
16	期末試験		

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など 印刷物を配布し、テキストとする。参考文献は『社会学講義』富永健一・中公新書1999年6版、『社会学のあゆみ』新睦人他・有斐閣新書・1993年22版、『社会学の名著30』竹内均・ちくま新書2008年3刷
-------	--

学びの実践	学びの手立て どのタイミングでの質問も可。ディスカッションを通じて学び合いたい。
-------	---

学びの実践	評価 前期は個人発表の(40点)、期末テスト(40点)を行う。授業参加度を20点とし、合計で評価する。
-------	--

学びの継続	次のステージ・関連科目 関連科目は、社会学理論史関連の科目。次のステージは、自分の好む社会学理論を模索すること。
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	外国語資料講読演習Ⅱ	後期	月 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-前原 直子	2年	ptt756@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 本演習では、文化/社会人類学に関わるニュース記事や文献から選りすぐった3つのテーマに焦点を当て、関連する英文記事のリーディング活動をとおり、英文を読む力や、文化/社会人類学の見方・考え方を鍛えます。	メッセージ 前期での学生の皆さんの様子や、関心、希望なども踏まえたうえで、興味深い英文から選りすぐって読んでいきます。
	到達目標 社会的な話題について、(辞書を含め)支援を活用すれば、英文で必要な情報を読み取り、概要や要点を捉えることができる。社会的な話題について、英文で読み取ったことを踏まえて、その内容を自分の言葉で言い換えたり、感想や意見を伝え合うことができる。いくつかの社会的な現象や課題について、文化/社会人類学の見方・考え方ができる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス・配布資料の説明	今回の英文を読み、和訳メモを作る
	2	各段落の要点を読み取る練習	サイトラ音読練習
	3	サイト・トランスレーション&ディスカッション	今回の英文を読み、和訳メモを作る
	4	各段落の要点を読み取る練習	サイトラ音読練習
	5	サイト・トランスレーション&ディスカッション	小レポート作成
	6	【小レポート提出】各段落の要点を読み取る練習	サイトラ音読練習
	7	サイト・トランスレーション&ディスカッション	今回の英文を読み、和訳メモを作る
	8	各段落の要点を読み取る練習	サイトラ音読練習
9	サイト・トランスレーション&ディスカッション	小レポート作成	
10	【小レポート提出】各段落の要点を読み取る練習	サイトラ音読練習	
11	サイト・トランスレーション&ディスカッション	今回の英文を読み、和訳メモを作る	
12	各段落の要点を読み取る練習	サイトラ音読練習	
13	サイト・トランスレーション&ディスカッション	今回の英文を読み、和訳メモを作る	
14	各段落の要点を読み取る練習	サイトラ音読練習	
15	サイト・トランスレーション&ディスカッション	小レポート準備	
16	【小レポート提出】		
実践	テキスト・参考文献・資料など 初回到新聞記事や文献抜き刷りコピーをまとめて配布します。各自、ファイルで保管して授業の際に持ってきてください。		
	学びの手立て 2週間に一本ずつ読んでいきます。 ●1週目は、英文をざっと読み、細かいところは気にせず、各段落の要点を読み取る練習です。 ●2週目は、サイト・トランスレーションで内容確認・音読後、内容に関する話し合い活動があります。 ●3つのテーマに関する小レポートを計3本書いてもらいます。読んだ英文の内容を関連付けたり、発展的に考えたりしたことを、小レポートとしてまとめて、次週の最初にクラス内で共有します。		
	評価 振り返りシート(学びの過程を把握するため)・・・10% 小レポート(各テーマへの理解度・思考力・表現力を把握するため)・・・90%(3本×30%) ※レポートは、ルーブリックを基準にして評価します。 ※無断欠席、遅刻は厳禁です。(遅刻3回で欠席1回とカウントされます。欠席5回以上は「不可」となりますので、気を付けてください。)		

学びの継続	次のステージ・関連科目 専門科目の授業や大学内外で、自分が興味深いと思ったテーマについて、図書館やインターネットで、日本語だけでなく、英語で誰がどんなことを書いているのか調べてみると、視界がぐんと広がるかもしれません。お勧めです。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	外国語資料講読演習Ⅱ	後期	火3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	比嘉 理麻	2年	r.higa@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 本演習は、社会文化学科の2年次を対象とした必修科目であり、とくに歴史領域と考古・先史領域の学生を対象としている。本演習では、歴史と考古・先史に関する文献の基礎用語を学びながら、英文の読解能力を高めることを目的とする。最終的には、英文の専門資料を正確に読解する能力を獲得することを旨とする。	メッセージ 英語専門資料の読解に必要な不可欠な英語文法を身につけましょう。
	到達目標 歴史と考古・先史に関する基礎的な概念を理解し、英語と日本語で正確に翻訳・読解できるようになったうえで、さらに専門的な英文テキストを正確に翻訳・読解できるようになる。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション	授業の予習
	2	専門テキストの講読（1）	授業の予習・復習
	3	専門テキストの講読（2）	授業の予習・復習
	4	専門テキストの講読（3）	授業の予習・復習
	5	専門テキストの講読（4）	授業の予習・復習
	6	専門テキストの講読（5）	授業の予習・復習
	7	専門テキストの講読（6）	授業の予習・復習
8	復習	授業の予習・復習	
9	専門テキストの講読（1）	授業の予習・復習	
10	専門テキストの講読（2）	授業の予習・復習	
11	専門テキストの講読（3）	授業の予習・復習	
12	専門テキストの講読（4）	授業の予習・復習	
13	専門テキストの講読（5）	授業の予習・復習	
14	専門テキストの講読（6）	授業の予習・復習	
15	復習	授業の総合的な復習	
16	試験	授業の総合的な復習	
	テキスト・参考文献・資料など テキストは、必要な部分を印刷して配布する。 関連する重要な文献は、適宜紹介する。		
	学びの手立て 研究領域に関わる英語論文や英字新聞を日常的に読む。		
	評価 原則として、授業参加度（30%）と試験（70%）を総合し評価する。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 外国語資料講読演習Ⅰ
-------	---------------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	外国語資料講読演習Ⅱ	後期	火3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-末吉 重人	2年	学内LAN メールアドへ	

学びの準備	ねらい 後期は、前期に学んだ社会学理論を前提として社会問題を学ぶ。アメリカの学部生がよく使うテキストを使用するが、日本とは異なる視点に注目し、米国の文化についても触れることを目的とする。このテキストは家庭問題から政府の問題まで数多くの社会問題を扱っている。それを学生が担当して翻訳発表し、コメントを混ぜながら授業を進める。	メッセージ 社会問題をなるべく冷静に見ることができることを目指したい。
	到達目標 様々な社会問題を四つの社会学的視点から分析する。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	分担ページの決定	配布資料を熟読すること
	2	四つの社会学的視点（機能主義、ファミニズム、紛争主義、相互行為主義）の説明（末吉）	配布資料を熟読すること
	3	以下、担当者による発表と末吉によるコメント：例：家族の問題	配布資料を熟読すること
	4	教育の問題	配布資料を熟読すること
	5	政府の問題	配布資料を熟読すること
	6	貧困の問題	配布資料を熟読すること
	7	高齢者の問題	配布資料を熟読すること
	8	性行動に関する問題	配布資料を熟読すること
	9	ドラッグの問題	配布資料を熟読すること
	10	犯罪の問題	配布資料を熟読すること
	11	都市化の問題	配布資料を熟読すること
	12	人口問題	配布資料を熟読すること
	13	環境問題	配布資料を熟読すること
	14	格差社会	配布資料を熟読すること
15	戦争の問題	配布資料を熟読すること	
16	期末試験	配布資料を熟読すること	
	テキスト・参考文献・資料など テキストJames W Coleman & Donald Clessey, 'SOCIAL PROBLEMS' (New York, Harper & Roe, Publications, 1999)-を図書館に指定文献として置いておくので、自分の担当範囲を各自でコピーして使用すること。		
	学びの手立て どのタイミングでの質問も可。ディスカッションしながらの授業を行いたい。		
	評価 発表（40点）、期末試験（40点）を課す。 授業参加度を20点とし、合計で評価する。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 関連科目は理論社会学関連の科目。次のステージはとして、自分の好みの社会学者を探してもらいたい。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	考古学概論	後期	木2	2
	担当者 宮城 弘樹	対象年次	授業に関する問い合わせ	
		1年	問い合わせ先は E-mail「h.miyagi@oki.u.ac.jp」です。	

学びの準備	ねらい 考古学の学問的特質について理解し、考古学におけるモノの見方・考え方を学ぶ。授業では、考古学の歴史、基礎理論および研究素材となる対象物と研究方法について紹介する。あわせて、考古学研究成果について代表的な事例を幾つか紹介する。考古学の学問的特質について基礎知識の習得を目標とする。	メッセージ 【実務経験】行政における発掘調査経験を活かして、初学者にもわかりやすく考古学について解説します。受講後は5号館ロビーにある土器が輝いて見えるはずですよ。
	到達目標 考古学のモノの見方・考え方を理解し、自分の言葉で説明できる。 ニュースで取り上げられる発掘調査の成果について、関心を持ち内容を理解できるようになる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	シラバスをよく読むこと
	2	考古学の定義と研究領域	関連資料を配布するので読むこと
	3	考古学の歴史（1）欧米における考古学の歩み	関連資料を配布するので読むこと
	4	考古学の歴史（2）日本における考古学の歩み	関連資料を配布するので読むこと
	5	考古学の歴史（3）沖縄における考古学の歩み	関連資料を配布するので読むこと
	6	型式学について	関連資料を配布するので読むこと
	7	層位学について	関連資料を配布するので読むこと
	8	絶対年代と相対年代と編年	関連資料を配布するので読むこと
	9	発掘調査について	関連資料を配布するので読むこと
	10	遺跡、遺物、遺構	関連資料を配布するので読むこと
	11	文化、社会、分布	関連資料を配布するので読むこと
	12	考古学の諸分野と関連科学	関連資料を配布するので読むこと
	13	世界・日本の遺跡調査の実例	関連資料を配布するので読むこと
	14	沖縄の遺跡調査の実例	関連資料を配布するので読むこと
15	まとめ	関連資料を配布するので読むこと	
16	テスト		
	テキスト・参考文献・資料など テキストは指定しない。基本的に講義形式で行う。 参考文献：①鈴木公雄1988年『考古学入門』東京大学出版会。②佐々木憲一・ほか2010年『はじめて学ぶ考古学（有斐閣アルマ）』有斐閣。③小林達雄2007年『考古学ハンドブック』新書館。④菊池徹夫2013年『はじめての考古学（あさかく選書4）』朝日出版社。⑤菊池徹夫2007年『考古学の教室—ゼロからわかるQ&A65（平凡社新書）』平凡社。⑥藤本強2000年『考古学の方法—調査と分析』東京大学出版会。		
	学びの手立て 履修上の心構えとして、以下注意していただきたい。 ・出欠確認を毎回厳格に行う。やむを得ず遅刻・欠席する際は欠席届を提出すること。 ・考古学を最初に学ぶ基礎的な単元として、平易な授業内容になるよう配慮する。		
	評価 期末テスト（80%）。遺跡見学課題（10%）。平常点（10%）。 ※出欠状況については、無断欠席5回以上になると「不可」とする。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 考古学研究の基礎を身につけ自身の研究計画に考古学研究の成果についても活かすこと。 関連科目としては「考古学概論2」「沖縄の考古学」。 上位科目としては「南島先史学Ⅰ・Ⅱ」「南島考古学Ⅰ・Ⅱ」「考古学特講Ⅰ・Ⅱ」「アジア考古学」
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	考古学特殊講義 I	集中	集中	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-村上 恭通	2年	授業終了後に教室で受け付けます。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	本授業では鉄器そのものや鉄・鉄器の生産遺構に関する観察法を出発点として、それらに対する評価の筋道を示しながら、東アジア、日本列島における原始、古代の鉄と社会との関係史を講ずることを目的とする。	土の中から錆に包まれて現れる鉄製品に触れたり、溶岩のような鉄滓に囲まれた鍛冶炉を見たりして、これが研究の対象になるの不思議に思う人もいるでしょう。なります。彼らは少し手を加えてやれば雄弁な歴史の語り部になるのです。まずは基本的な知識を身につけて、東アジア、日本列島、そして南西諸島の鉄と社会との関係を考えてみましょう。
到達目標	考古遺物として出土する鉄器の種類、鉄器生産関連遺物・遺構の種類について、判別できるようになる。鉄器の生産技術や鉄の生産技術に関して基本的な説明ができるようになる。鉄器やその生産技術のにも土器や石器と同じような地域差があり、また時代に応じて変化することを理解し、説明できるようになる。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	世界の鉄文化研究の動向	
	2	鉄文化研究のための基礎知識－用語解説－	前授業の復習とテキストの予習。
	3	中国の鉄技術と文化－鉄器出現～戦国時代－	前授業の復習とテキストの予習。
	4	中国の鉄技術と文化－漢代～南北朝時代－	前授業の復習とテキストの予習。
	5	韓半島の鉄技術と文化	前授業の復習とテキストの予習。
	6	弥生時代の鉄技術と文化1－鉄器とその変化－	前授業の復習とテキストの予習。
	7	弥生時代の鉄技術と文化2－鉄器生産とその限界－	前授業の復習とテキストの予習。
	8	弥生時代の鉄技術と文化3－完全なる鉄器普及とその背景－	前授業の復習とテキストの予習。
	9	古墳時代の鉄技術と文化1－前方後円墳の出現と鉄－	前授業の復習とテキストの予習。
	10	古墳時代の鉄技術と文化2－渡来系的鉄技術の本質－	前授業の復習とテキストの予習。
	11	古墳時代の鉄技術と文化3－製鉄開始の背景－	前授業の復習とテキストの予習。
	12	製鉄技術を通じた古代の日中韓関係	前授業の復習とテキストの予習。
	13	南西諸島における鉄技術と文化	前授業の復習とテキストの予習。
14	ユーラシア大陸規模での鉄器文化研究	前授業の復習とテキストの予習。	
15	授業の振り返り	前授業の復習。	
16	試験		
テキスト・参考文献・資料など	教科書は使用せず、講師が作成したテキスト(資料集)を使用する。ただし次の文献を挙げておくので、関心があれば事前に読んでみてください。『古代国家成立過程と鉄器生産』村上恭通、青木書店、2007年		
学びの手立て	内容としては日本古代史、東アジア史にも関連するが、遺物、遺構といった考古学の対象を一次資料とするため、考古学概論など、考古学の基礎的な科目を受講しておくことが望ましい。また、学びを深めるために、受講までに自分が関心のある地域、時代で鉄器を出土した遺跡の発掘調査報告書に目を通し、鉄器に関する記述と評価を読み、それに対する意見や疑問を講師に投げかけてください。本授業内容の実践となるでしょう。		
評価	平常点20%、最終試験80%で評価します。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 関連科目としては「沖縄の考古学」。類似科目としては「南島考古学Ⅰ・Ⅱ」「南島先史学Ⅰ・Ⅱ」「アジア考古学」
-------	--

※ポリシーとの関連性 考古学をより深く学ぶための「発展科目」として位置付ける。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	考古学特講Ⅰ	前期	木3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	宮城 弘樹	2年	問い合わせ先は E-mail「h.miyagi@oki.u.ac.jp」です。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	考古学はモノから歴史を復元する学問である。授業では、前半は、遺構、遺物からどのように歴史復元を行うかについて一緒に考える。後半は、遺跡調査に必要な技術と、行政の実際について紹介する。	【実務経験】 地方行政における実務経験を活かして、考古遺跡の調査方法や、文化財保護法などについて解説する。地域で遺跡を活かすことを一緒に考えましょう。
到達目標	報告書を読んで遺物や遺構が具体的にイメージできるようになる。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	シラバスをよく読むこと
	2	考古学的発見と研究について	関連資料を配付するので読むこと
	3	遺跡発掘の実際	関連資料を配付するので読むこと
	4	遺構の理解と分析	関連資料を配付するので読むこと
	5	遺物の研究方法	関連資料を配付するので読むこと
	6	遺物の報告書掲載内容	関連資料を配付するので読むこと
	7	土器製作と実見（1）	関連資料を配付するので読むこと
	8	土器製作と実験（2）	関連資料を配付するので読むこと
	9	文化財保護法と埋蔵文化財行政	課題に取り組むこと
	10	行政による発掘調査	関連資料を配布するので読むこと
	11	デジタルトレース実習（1）	関連資料を配付するので読むこと
	12	デジタルトレース実習（2）	関連資料を配付するので読むこと
	13	報告書の作成と印刷（印刷所の見学）	関連資料を配付するので読むこと
14	遺跡と遺物の公開と活用	関連資料を配付するので読むこと	
15	遺跡調査を取り巻く社会環境と支援組織	関連資料を配付するので読むこと	
16	レポート提出	課題に取り組むこと	
テキスト・参考文献・資料など	テキストは指定しない。出席確認を毎回厳格に行う。基本的に講義形式で行い、毎回資料を配付予定。		
学びの手立て	履修上の心構えとして、以下に注意していただきたい。 ・ 出欠確認を毎回厳格に行うので、やむを得ず遅刻・欠席する場合は、必ず事前に連絡すること。 ・ 提出するレポートと課題は、厳格に厳守の上必ず取り組むこと。 ・ 各自関心のある考古資料について、博物館等へ出かけ実見するとともに、報告書を適宜読むこと。 ・ 考古学に関する報告書を事前に読んで、予習復習を怠らないようにすること。		
評価	課題（80%）。平常点（20%）。 ※出欠状況については無断欠席5回以上になると「不可」とする。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 考古学研究の実践的授業として位置づける。関連科目としては「考古学特講Ⅱ」「南島考古学Ⅰ・Ⅱ」「南島史学Ⅰ・Ⅱ」「アジア考古学」
-------	--

※ポリシーとの関連性 考古学をより深く学ぶための「発展科目」として位置付ける。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	考古学特講Ⅱ	後期	木3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-後藤 雅彦	2年	授業終了後に教室で受け付けます。	

学びの準備	ねらい 琉球列島の先史文化の系譜や特徴はどこにあるか？福建・広東を中心とした東南中国、台湾、そして琉球列島を東アジア亜熱帯沿海地域と設定し、東アジア世界における先史文化の中で、その共通性と異質性を整理する。新石器文化を中心に、土器、貝塚、稲作を主な検討項目としてあげる。	メッセージ 琉球列島のすぐ南に台湾があり、その対岸には東南中国がある。これらの地域の考古学研究は、琉球列島の先史文化の形成を考える上で重要な地域である。最新の調査研究の動向をふまえながら、これらの地域の研究成果を紹介する。
	到達目標 東アジア亜熱帯沿海地域を対象とし、主に先史時代を扱う考古学資料の分析や解釈の方法を理解し、本人の関心のある時代地域の研究に反映させる思考を養う。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	はじめに一東アジア亜熱帯沿海地域の先史文化	配付資料の整理
	2	中国の考古学史	配付資料の整理
	3	中国の考古学史と基礎知識	配付資料の整理
	4	東南中国の考古学史	配付資料の整理
	5	台湾の考古学史	配付資料の整理
	6	中国先史文化の概要	配付資料の整理
	7	東南中国先史文化の概要	配付資料の整理
	8	東アジア亜熱帯地域の土器文化の形成と展開	配付資料の整理
9	中国における稲作文化の展開	配付資料の整理	
10	東アジア亜熱帯沿海地域の稲作文化の展開と貝塚	配付資料の整理	
11	中国新石器時代の交流	配付資料の整理	
12	東アジア亜熱帯沿海地域の交流	配付資料の整理	
13	東アジア亜熱帯沿海地域と琉球列島①	レポート作成	
14	東アジア亜熱帯沿海地域と琉球列島②	レポート作成	
15	まとめ	レポート作成	
16	期末試験・レポート提出		
	テキスト・参考文献・資料など 特定のテキストは使用しない。授業時に参考文献などは紹介する。		
	学びの手立て 琉球列島の先史文化に関する研究状況を十分、理解しておく。それによって、台湾や東南中国と比較してみる。		
	評価 平常点20%、期末試験40%、レポート40%で評価します。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 関連科目としては「沖縄の考古学」。類似科目としては「南島考古学Ⅱ」「南島先史学Ⅰ・Ⅱ」「アジア考古学」
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	国際関係論	前期	火4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-河村 雅美	2年	mamikw@nifty.com 授業終了後に教室・非常勤講師室で受け付けます。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	国際関係を、環境問題という国境を越えるグローバルな問題を通して学びます。国連や国際環境機関のシステム、環境に関する国際条約などの枠組みや、環境問題のための国際的な運動を通じて、国際関係を理解していくことが目的です。また、環境問題が民主主義や人権の問題と深く関わることや、地域と国際社会との関係についても、沖縄からひきつけて考える機会を設けて学んでいきます。	担当講師は、地元沖縄の環境調査団体「インフォームド・パブリック・プロジェクト」で活動しているため、沖縄の環境問題のホットな実践の話をおりませながら、授業を展開していきます。現在は、沖縄の米軍基地の環境問題、汚染問題を中心とした活動をしており、そこから見える日本・米国・沖縄の関係の問題も考えていきたいと思っています。映像なども用いて理解を助ける予定です。
到達目標	(1) 国際的な環境関係の基礎知識（代表的な国際会議や国際機関、条約、枠組み）を身につけること。 (2) 環境問題と人権、民主主義などの関係について理解し、論じることができるようにすること。 (3) 地域と国家、国際社会との関係について論じることができるようにすること。	

学びの実践	学びのヒント	授業計画	
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション・ガイダンス	シラバスや授業の流れの理解
	2	環境問題が持つ射程(1)環境問題の「国際化」の歴史的経緯	配布補助資料の理解
	3	環境問題が持つ射程(2)環境問題と国際機関・会議・条約	配布補助資料の理解
	4	環境問題が持つ射程(3)「公害」「環境」「地球環境」問題	配布補助資料の理解
	5	環境問題が持つ射程(4)「人権」「民主主義」と環境	リアクション・ペーパー執筆
	6	国際条約の枠組みから(1)「生物多様性」という概念	配布補助資料の理解
	7	国際条約の枠組みから(2)生物多様性条約：「保護」「保全」「再生」	配布補助資料の理解
	8	国際条約の枠組みから(3)生物多様性条約：資源をめぐる南北問題	配布補助資料の理解
	9	地域と国際社会：沖縄と国際環境運動 国際環境機関と沖縄 新石垣空港建設問題	リアクション・ペーパー執筆
	10	地域と国際社会：沖縄と国際環境運動 国際環境機関と沖縄 基地問題の環境問題化	配布補助資料の理解
	11	地域と国際社会：沖縄の国際環境運動 国際環境機関と沖縄 やんばるの世界自然遺産登録	配布補助資料の理解
	12	地域と国際社会：沖縄の国際環境運動 国際裁判という手段 ジュゴン訴訟	リアクション・ペーパー執筆
	13	地域と国際社会：沖縄の国際環境運動 基地環境汚染問題 枯れ葉剤問題・土壌汚染	配布補助資料の理解
	14	地域と国際社会：沖縄の国際環境運動 基地環境汚染問題 水質汚染（嘉手納基地・普天間基地）	リアクション・ペーパー執筆
15	予備日（レポートの書き方指導等）		
16	レポート提出		
テキスト・参考文献・資料など	<ul style="list-style-type: none"> ・テキストは指定しない。 ・レジュメを配布する。 ・レジュメに参考文献等を記す 		
学びの手立て	<p>オリエンテーションでの説明が最終的なシラバスになります。 [履修の心構え] 暗記で知識を詰め込むのではなく、自ら学んだことを一定量の文章に書いていくことを重視します。 [学びの手立て] 現在進行中の問題に触れながら講義を進めていくので、日常でも、積極的に新聞を読んだり、インターネット等で国際的な時事問題を追ってほしいと思います。</p>		
評価	<ul style="list-style-type: none"> ・授業への参加姿勢（平常点） 授業参加度を評価するリアクションペーパー等の提出 40点 40% ・レポート 60点 到達目標(1)(2)(3)を評価できるようにする。60% レポート提出のみでは採点対象とならない。リアクションペーパーの提出規定数2/3に達していない場合は不可とする。 詳細は授業時に発表する。 		

学びの継続	次のステージ・関連科目 社会・平和領域の選択科目
-------	-----------------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	国際平和論	後期	木1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	一ダグラス トライスタット	2年	https://bee.okiu.ac.jp/mod/page/view.php?id=7062 / ptt1127@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 世界各国の様々な戦争や紛争は米ソの冷戦に密接に結びつけられていると思われていたが、冷戦が終わっても、新しい平和の時代は実現されなかった。かえって、戦争や民族紛争が増える傾向がある。この授業では海外の研究者が様々な観点から見た戦争や民族紛争を分析、主な学説、理論を検討する。	メッセージ レポートにはウィキペディアの引用は認めません。他のオン・オフライン情報源を活用すること。
	到達目標 ひとつの紛争地域に関してマッピング・プロジェクトを完成させること。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画 (テーマ・時間外学習の内容含む) <table border="0"> <thead> <tr> <th>#</th> <th>Theme</th> <th>Homework</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>オリエンテーション、LMSの登録</td> <td>テーマを検討・設定する</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>世界の民族紛争、グループテーマの選定</td> <td>フォーラムの書き込み、次のテーマについて調べる</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>紛争マッピングの概要</td> <td>フォーラムの書き込み、次のテーマについて調べる</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>民族紛争の事例紹介</td> <td>フォーラムの書き込み、次のテーマについて調べる</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>地理的概要</td> <td>フォーラムの書き込み、次のテーマについて調べる</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>歴史的概要</td> <td>フォーラムの書き込み、次のテーマについて調べる</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>当事者の特定</td> <td>フォーラムの書き込み、次のテーマについて調べる</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>当事者の動機・真意・立場・最終目標</td> <td>フォーラムの書き込み、次のテーマについて調べる</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>原因と結果</td> <td>フォーラムの書き込み、次のテーマについて調べる</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>ナショナリズムとエスニシティ</td> <td>フォーラムの書き込み、次のテーマについて調べる</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>思想と信仰</td> <td>フォーラムの書き込み、次のテーマについて調べる</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>目的と目標</td> <td>フォーラムの書き込み、次のテーマについて調べる</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>最近の動き</td> <td>フォーラムの書き込み、次のテーマについて調べる</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>争点と選択肢</td> <td>フォーラムの書き込み、次のテーマについて調べる</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>問題解決の可能性</td> <td>フォーラムの書き込み、次のテーマについて調べる</td> </tr> <tr> <td>16</td> <td>まとめ</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	#	Theme	Homework	1	オリエンテーション、LMSの登録	テーマを検討・設定する	2	世界の民族紛争、グループテーマの選定	フォーラムの書き込み、次のテーマについて調べる	3	紛争マッピングの概要	フォーラムの書き込み、次のテーマについて調べる	4	民族紛争の事例紹介	フォーラムの書き込み、次のテーマについて調べる	5	地理的概要	フォーラムの書き込み、次のテーマについて調べる	6	歴史的概要	フォーラムの書き込み、次のテーマについて調べる	7	当事者の特定	フォーラムの書き込み、次のテーマについて調べる	8	当事者の動機・真意・立場・最終目標	フォーラムの書き込み、次のテーマについて調べる	9	原因と結果	フォーラムの書き込み、次のテーマについて調べる	10	ナショナリズムとエスニシティ	フォーラムの書き込み、次のテーマについて調べる	11	思想と信仰	フォーラムの書き込み、次のテーマについて調べる	12	目的と目標	フォーラムの書き込み、次のテーマについて調べる	13	最近の動き	フォーラムの書き込み、次のテーマについて調べる	14	争点と選択肢	フォーラムの書き込み、次のテーマについて調べる	15	問題解決の可能性	フォーラムの書き込み、次のテーマについて調べる	16	まとめ	
	#	Theme	Homework																																																	
	1	オリエンテーション、LMSの登録	テーマを検討・設定する																																																	
	2	世界の民族紛争、グループテーマの選定	フォーラムの書き込み、次のテーマについて調べる																																																	
3	紛争マッピングの概要	フォーラムの書き込み、次のテーマについて調べる																																																		
4	民族紛争の事例紹介	フォーラムの書き込み、次のテーマについて調べる																																																		
5	地理的概要	フォーラムの書き込み、次のテーマについて調べる																																																		
6	歴史的概要	フォーラムの書き込み、次のテーマについて調べる																																																		
7	当事者の特定	フォーラムの書き込み、次のテーマについて調べる																																																		
8	当事者の動機・真意・立場・最終目標	フォーラムの書き込み、次のテーマについて調べる																																																		
9	原因と結果	フォーラムの書き込み、次のテーマについて調べる																																																		
10	ナショナリズムとエスニシティ	フォーラムの書き込み、次のテーマについて調べる																																																		
11	思想と信仰	フォーラムの書き込み、次のテーマについて調べる																																																		
12	目的と目標	フォーラムの書き込み、次のテーマについて調べる																																																		
13	最近の動き	フォーラムの書き込み、次のテーマについて調べる																																																		
14	争点と選択肢	フォーラムの書き込み、次のテーマについて調べる																																																		
15	問題解決の可能性	フォーラムの書き込み、次のテーマについて調べる																																																		
16	まとめ																																																			
テキスト・参考文献・資料など ・岡本三夫・横山正樹 編、平和学の現在、1999、法律文化社。 ・新聞、雑誌、インターネットから収集した資料。LMSコースページ参照のこと																																																				
学びの手立て このコースではグループの協働作業によって最大の結果を出すプロセスを学ぶ。それぞれがグループとメンバー貢献する姿勢を養う。																																																				
評価 レポート - 20% 発表と授業参加度 - 80%																																																				

学びの継続	次のステージ・関連科目 平和運動史、平和教育学、平和・社会学特殊講義 専門分野の資料・論文を読んで、理解し、発見した問題の分析する力を養成する。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	古文書講読Ⅰ	前期	月2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	深澤 秋人	2年	水曜日2限のオフィスアワーに研究室(5422)で受け付けます。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>文献史料は文書、記録、編纂物や典籍に分類されます。なかでも一次史料である文書と記録は、意味内容とともに形態・様式・機能・伝来など豊富な歴史情報を持っています。よって、文字(くずし字)と文章(候文)が読めなければ、内容や背景の世界に入っていきません。本講義のねらいは、くずし字を判読し、候文(和様漢文)を読み下し、文章の主旨をつかむ訓練をすることにあります。</p>	<p>本学図書館は沖縄県内の市町村史を多く収蔵しますが、それぞれの地域に伝わる文書や記録を収録しています。身近な市町村史をめぐってみてください。また、県内の博物館の常設展や企画展でも貴重な史料が展示されます。足を運んで現物の迫力に接することをおすすめします。</p>
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> くずし字を判読・翻刻し、候文(和様漢文)を読み下すことができるようになる。 文書や記録(日記)の文章の主旨を理解できるようになる。 	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	イントロダクション、文書と記録の違い、文書と古文書の違い	到達目標を理解する
	2	「在勤中日記」の解題	テキストの構成を理解する
	3	活字化された関連史料を読むー候文に慣れるー	活字の候文を音読する
	4	「在勤中日記」を読んでみましょうーくずし字に慣れるー	くずし字の候文を音読する
	5	「在勤中日記」の講読①(受講生へ翻刻と読み下しを割り当て)	テキストを音読する
	6	「在勤中日記」の講読②(同上)	テキストを音読する
	7	「在勤中日記」の講読③(同上)	テキストを音読する
8	「在勤中日記」の講読④(同上)	テキストを音読する	
9	「在勤中日記」の講読⑤(同上)	テキストを音読する	
10	「在勤中日記」の講読⑥(同上)	テキストを音読する	
11	「在勤中日記」の講読⑦(同上)	テキストを音読する	
12	「在勤中日記」の講読⑧(同上)	テキストを音読する	
13	「在勤中日記」の講読⑨(同上)	テキストを音読する	
14	「在勤中日記」の講読⑩(同上)	テキストを音読する	
15	まとめ	到達目標を確認する	
16	期末試験	正答を音読する	
テキスト・参考文献・資料など	<p>【テキスト】皆さんと講読するテキストは、尚家文書343号「在勤中日記」(那覇市歴史博物館蔵)です。1871年、首里王府が鹿児島に派遣した在番親方である池城親方の公務日記です。鹿児島での活動の様子を詳しく知ることができます。二回目の講義でコピーを配布します。教科書は使用しません。</p> <p>【参考文献】林英夫・若尾俊平編『増訂 近世古文書解説辞典』(柏書房、1972年)</p>		
学びの手立て	<p>くずし字と候文をはじめからスラスラ読める人はいません。外国語と同じです。慣れ親しむためには、声を出して量を読むことが大切です。少しずつ読めるようになると自信がつかますよ。あきらめないでください。</p>		
評価	<p>テキストの講読に取り組む姿勢(30%)と期末試験の結果(70%)によって総合的に評価します。特に前者では、担当箇所だけでなく、くずし字と候文を読めるようになりたいという意欲や態度を重視します。</p>		

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>「古文書講読Ⅱ」「沖縄前近代史Ⅰ・Ⅱ」の受講を希望します。</p>
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	古文書講読Ⅱ	後期	月 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	深澤 秋人	2年	水曜日 2限のオフィスアワーに研究室（5 4 2 2）で受け付けます。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>文献史料は文書、記録、編纂物や典籍に分類されます。なかでも一次史料である文書と記録は、意味内容とともに形態・様式・機能・伝来など豊富な歴史情報を持っています。よって、文字（くずし字）と文章（候文）が読めなければ、内容や背景の世界に入っていくことができません。本講義のねらいは、くずし字を判読し、候文（和様漢文）を読み下し、文章の主旨をつかむ訓練を積むところにあります。</p>	<p>本学図書館は沖縄県内の市町村史を多く所蔵しますが、それぞれの地域に伝わる文書や記録を収録しています。身近な市町村史をめぐってみましょう。また、県内の博物館の常設展や企画展でも貴重な史料が展示されます。実際に足を運んで現物の迫りに接することをおすすめします。</p>
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・くずし字を判読し、候文（和様漢文）を読み下すことができるようになる。 ・文書や記録（日記）の文章の主旨を理解できるようになる。 	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	イントロダクション、文書と記録の違い、文書と古文書の違い	到達目標を理解する
	2	「在勤中日記」の解題	テキストの構成を理解する
	3	活字化された関連史料を読むー候文に慣れるー	活字化された候文を音読する
	4	「在勤中日記」を読んでみましょうーくずし字に慣れるー	くずし字の候文を音読する
	5	「在勤中日記」の講読①（受講生へ翻刻と読み下しを割り当て）	テキストを音読する
	6	「在勤中日記」の講読②（同上）	テキストを音読する
	7	「在勤中日記」の講読③（同上）	テキストを音読する
	8	「在勤中日記」の講読④（同上）	テキストを音読する
	9	「在勤中日記」の講読⑤（同上）	テキストを音読する
	10	「在勤中日記」の講読⑥（同上）	テキストを音読する
	11	「在勤中日記」の講読⑦（同上）	テキストを音読する
	12	「在勤中日記」の講読⑧（同上）	テキストを音読する
	13	「在勤中日記」の講読⑨（同上）	テキストを音読する
14	「在勤中日記」の講読⑩（同上）	テキストを音読する	
15	まとめ	到達目標を確認する	
16	期末試験	正答を音読する	
実践	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>【テキスト】前期の「古文書講読Ⅰ」に引き続き、尚家文書343号「在勤中日記」（那覇市歴史博物館蔵）を講読します。1871年、首里王府が鹿児島に派遣した在番親方である池城親方の公務日記です。鹿児島での活動の様子を具体的に知ることができます。2回目の講義で前期の続きの部分からコピーを配布します。教科書は使用しません。</p> <p>【参考文献】林英夫・若尾俊平編『増訂 近世古文書解読辞典』（柏書房、1972年）</p>		
学びの手立て	<p>史料は声を出して量を読むことで身体になじんできます。その日読んだテキストの箇所を繰り返し音読することをおすすめします。</p>		
評価	<p>テキストの講読に取り組む姿勢（30%）と期末試験の結果（70%）によって総合的に評価します。特に前者では、担当箇所だけでなく、くずし字と候文を読めるようになりたいという意欲や態度を重視します。</p>		

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>「古文書講読Ⅰ」「沖縄前近代史Ⅰ・Ⅱ」の受講を希望します。</p>
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	社会学概論	集中	集中	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-澤田 佳世	1年	授業終了時に受け付けます。	

学びの準備	ねらい 本講義は、社会学の基本的な概念や思考枠組（考え方、ものの見方）を学習することからスタートし、現代社会を分析的に読み解く社会学的思想力と歴史的想像力を習得、他者の発見・理解を通して、社会の仕組み（構造）を解明することをめざします。「あたりまえ」を相対化し、個人的なことがらを社会全体との関わりの中で捉え、人間社会の様々な問題群とその現代的課題を考えます。	メッセージ 社会学は「人間」と「社会」との関係を様々な角度から検証する学問です。近代社会の様々な問題群とその現代的課題を、実証的・学術的に探究していきましょう。
	到達目標 ①社会学の基本的な概念を理解する。 ②現代社会を批判的（分析的）に読み解くための社会学の思考枠組み（ものの見方）を習得する。 ③他者の発見・理解を通じて社会の仕組み（構造）を捉える。 ④「あたりまえ」を相対化し、その歴史的・社会的構築性を理解する。 ⑤個人的なことがらと社会的なことがらとの関係を捉える。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	イントロダクション	配布資料を読み直す
	2	社会学への誘いー「社会」とは何か、「社会学」とは何か？	理解度テストに向けた復習
	3	自己と相互行為ー「私」って何だろう？	理解度テストに向けた復習
	4	社会秩序と権力を考える (理解度テスト・予定変更あり)	理解度テストに向けた復習
	5	組織と現代社会	理解度テストに向けた復習
	6	メディアとコミュニケーション	理解度テストに向けた復習
	7	グローバリゼーションと国民国家	理解度テストに向けた復習
	8	前半ふりかえり (理解度テスト・予定変更あり)	理解度テストに向けた復習
	9	格差と階級・階層ー変貌する労働の世界	理解度テストに向けた復習
	10	エスニシティと境界	理解度テストに向けた復習
	11	性をめぐる現象とその構築性・多様性ージェンダーとセクシュアリティ	理解度テストに向けた復習
	12	家族をめぐる社会学 (理解度テスト・予定変更あり)	理解度テストに向けた復習
	13	人口変動と現代世界	理解度テストに向けた復習
	14	文化と再生産	理解度テストに向けた復習
15	社会運動と社会構想～後半ふりかえり (理解度テスト・予定変更あり)	理解度テストに向けた復習	
16			

実践	テキスト・参考文献・資料など 【テキストは指定しません】 【参考文献】 長谷川公一・浜日出夫・藤村正之・町村敬志, 2007『社会学』有斐閣。 宇都宮京子編, 2009『よくわかる社会学』（第2版）ミネルヴァ書房。 このほか、毎回の講義でテーマに応じた参考文献を紹介します。 【資料】毎回の授業でパワーポイント資料を配布します。
----	--

学びの手立て	①本講義は、受講生による「復習」を重視する科目です。各回の講義終了後、配布資料を見直し、テキストの該当章と参考文献を読み、理解を深めてください。 ②基本的に担当教員による講義形式で授業を進めますが、学生への問いかけを随所に取り入れ、双方向的な授業展開を目指します。 ③授業終了時に講義内容に関して学んだこと・考えたことを、コメントシートに記入してもらうこともあります。重要な考察や問いかけは、翌日の講義開始時に受講生全員に紹介し共有します。 ④授業内容は、受講生数と理解度に応じて、適宜変更することもあります。
--------	--

評価	理解度テスト（100%、25点×4回）の結果に基づいて総合的に評価します。理解度テストの実施日については、第1回目の講義でお知らせします。
----	---

学びの継続	次のステージ・関連科目 社会学理論、ジェンダー論、国際社会学、都市社会学、南島社会学、家族社会学、マスコミ論、アジア社会論
-------	--

科目基本情報	科目名	社会学理論	期別	曜日・時限	単位
	担当者	鳥山 淳	前期	木3	2
			対象年次	授業に関する問い合わせ	
			2年	講義終了直後およびオフィスアワーに随時対応する	

学びの準備	ねらい	社会的存在としての〈わたし〉を見せる視点を確認したうえで社会構造・社会問題へと視野を広げるために、必要とされる理論を紹介し、それぞれの位置づけや相互の関連性を把握できるようにする。	メッセージ	具体的な事象を想像しながら概念を用いるという思考方法に挑戦してもらいたい。
	到達目標	社会学で用いられる重要な理論を知ることを通して、社会学の問題意識と認識方法を習得し、それによって日常的な出来事を読み解く思考を身につける。		

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	講義内容と課題についてのガイダンス	配布資料の精読
	2	自己と他者の認識① アイデンティティ	配布資料の精読と文献の参照
	3	自己と他者の認識② スティグマとラベリング	配布資料の精読と文献の参照
	4	自己と他者の認識③ ジェンダーとセクシュアリティ	配布資料の精読と文献の参照
	5	近代を論じる視点① 近代化と個人化	配布資料の精読と文献の参照
	6	近代を論じる視点② 規律訓練	配布資料の精読と文献の参照
	7	近代を論じる視点③ 想像の共同体	配布資料の精読と文献の参照
	8	近代を論じる視点④ 世界システムとグローバリゼーション	配布資料の精読と文献の参照
	9	労働と社会① 賃金労働と階級	配布資料の精読と文献の参照
	10	労働と社会② 身体の規律化とフォーディズム	配布資料の精読と文献の参照
	11	労働と社会③ 脱工業化と感情労働	配布資料の精読と文献の参照
	12	労働と社会④ 性別分業と家族	配布資料の精読と文献の参照
	13	社会の絆を考える① 貧困とセーフティーネット	配布資料の精読と文献の参照
14	社会の絆を考える② 福祉国家と新自由主義	配布資料の精読と文献の参照	
15	社会の絆を考える③ ベーシックインカムの視点	配布資料の精読と文献の参照	
16	学期末テスト	講義内容の復習と要約	
	テキスト・参考文献・資料など 特定のテキストは指定せず、必要な資料を配布し、関連する文献を紹介する。 参考文献 西澤晃彦・渋谷望『社会学をつかむ』（有斐閣、2008年）		
	学びの手立て 講義で配布する資料と板書内容を繰り返し読みながら、粘り強く考えることが重要である。		
	評価 学期末テスト50%、小レポート20%、参加姿勢30%		

学びの継続	次のステージ・関連科目 社会平和領域の専門応用科目
-------	------------------------------

科目基本情報	科目名	社会学理論Ⅱ	期別	曜日・時限	単位
	担当者	鳥山 淳	前期	木 3	2
			対象年次	授業に関する問い合わせ	
			2年	講義終了直後およびオフィスアワーに随時対応する	

学びの準備	ねらい	社会的存在としての〈わたし〉を見せる視点を確認したうえで社会構造・社会問題へと視野を広げるために、必要とされる理論を紹介し、それぞれの位置づけや相互の関連性を把握できるようにする。	メッセージ	具体的な事象を想像しながら概念を用いるという思考方法に挑戦してもらいたい。
	到達目標	社会学で用いられる重要な理論を知ることを通して、社会学の問題意識と認識方法を習得し、それによって日常的な出来事を読み解く思考を身につける。		

学びの準備	到達目標	社会学で用いられる重要な理論を知ることを通して、社会学の問題意識と認識方法を習得し、それによって日常的な出来事を読み解く思考を身につける。		

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	講義内容と課題についてのガイダンス	配布資料の精読
	2	自己と他者の認識① アイデンティティ	配布資料の精読と文献の参照
	3	自己と他者の認識② スティグマとラベリング	配布資料の精読と文献の参照
	4	自己と他者の認識③ ジェンダーとセクシュアリティ	配布資料の精読と文献の参照
	5	近代を論じる視点① 近代化と個人化	配布資料の精読と文献の参照
	6	近代を論じる視点② 規律訓練	配布資料の精読と文献の参照
	7	近代を論じる視点③ 想像の共同体	配布資料の精読と文献の参照
	8	近代を論じる視点④ 世界システムとグローバリゼーション	配布資料の精読と文献の参照
	9	労働と社会① 賃金労働と階級	配布資料の精読と文献の参照
	10	労働と社会② 身体の規律化とフォーディズム	配布資料の精読と文献の参照
	11	労働と社会③ 脱工業化と感情労働	配布資料の精読と文献の参照
	12	労働と社会④ 性別分業と家族	配布資料の精読と文献の参照
	13	社会の絆を考える① 貧困とセーフティーネット	配布資料の精読と文献の参照
	14	社会の絆を考える② 福祉国家と新自由主義	配布資料の精読と文献の参照
15	社会の絆を考える③ ベーシックインカム視点	配布資料の精読と文献の参照	
16	学期末テスト	講義内容の復習と要約	

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など
	特定のテキストは指定せず、必要な資料を配布し、関連する文献を紹介する。 参考文献 西澤晃彦・渋谷望『社会学をつかむ』（有斐閣、2008年）

学びの実践	学びの手立て
	講義で配布する資料と板書内容を繰り返し読みながら、粘り強く考えることが重要である。

学びの実践	評価
	学期末テスト50%、小レポート20%、参加姿勢30%

学びの継続	次のステージ・関連科目
	社会平和領域の専門応用科目

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	社会調査法 I	前期	金 3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-宮平 隆央	2年	講義終了後またはメールにて対応します。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>国際社会から家族まで、私たちが生活する社会の中で起こる様々な社会現象・社会問題が「なぜ」成り立っているのか、社会調査はそれを考える手段といえます。本講義では社会調査の意義、倫理、資料収集・実査・分析までのプロセスの基礎について学びます。</p> <p>到達目標：基礎的な社会調査の知識を習得し、簡単な調査企画や調査データを解釈することができる。</p>	<p>「調べる」技術は、レポート・卒業論文に必要なだけでなく、実社会に出てからも重要なスキルのひとつです。受講に際して、調べることを「面白い」姿勢を期待します。当たり前と思っていた自分の暮らしてきた社会について、改めて調べて、考えることで、目の前の世界が違った意味を持っていることに思いをはせて欲しいと思います。</p>
到達目標	<p>1. 調査を企画・実施する前提となる、社会調査の基礎的な知識を習得している。(関連：テスト)</p> <p>2. 自分の興味・関心のある事象について、データとともに意見を書くことができる。(関連：レポート)</p> <p>3. 自分の身近な社会のできごとについて、自分なりの問題意識をもって考えることができる。(関連：テスト・レポート)</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	イントロダクション (本講義の目的・内容・スケジュールの紹介)	①新聞・ネット等でニュース調べ
	2	社会調査は何のためにやるのか? (社会調査の目的、用途)	①+②興味のある事象の本を読む
	3	社会調査はどのように行われてきたか? (社会調査史)	同上
	4	社会調査で心に留めるべきことは何か? (調査倫理)	同上
	5	社会調査にはどんなものがあるのか? 1 (調査の種類と実例)	同上
	6	社会調査にはどんなものがあるのか? 2 (量的調査と質的調査)	①+②+③量的調査の事例を集める
	7	社会調査にはどんなものがあるのか? 3 (統計的調査と事例研究法)	同上
	8	社会調査の手順の流れはどうなっているのか? (企画からまとめ・公表まで)	同上
	9	調査を始めるためにまずやるべきことは何か? (調査のための情報収集)	①+②+③+④図書館等で資料閲覧
	10	調査の手がかりになるものは何か? 1 (国勢調査と官庁統計、世論調査)	同上
	11	調査の手がかりになるものは何か? 2 (学術調査、マーケティング・リサーチ)	同上
	12	具体的にどのように調査を進めるのか? 1 (調査票調査)	①~④+レポートの執筆メモ作成
	13	具体的にどのように調査を進めるのか? 2 (フィールドワーク)	同上
14	調査をどのようにまとめるのか? (分析の進め方の概要)	同上	
15	ふりかえりとまとめ	講義ノート・配布資料の復習	
16	テスト (期末試験)	試験内容とテキスト等の読み合わせ	
実践	テキスト・参考文献・資料など	<p>下記のテキストを使用する。その他、講義中で参考文献を紹介する。</p> <p>○主テキスト (要購入) 大谷信介、他編著、『新・社会調査へのアプローチ—論理と方法—ネルヴァ書房、2013年』</p> <p>○副テキスト (購入は任意) 篠原 清夫・清水 強志・榎本 環・大矢根 淳=編『社会調査の基礎—社会調査士A・B・C・D科目対応』弘文堂、2010年、宮内泰介『自分で調べる技術 ~市民のための調査入門~』岩波書店、2004年</p>	
学びの手立て	<p>①履修の心がまえ・学則等に沿って、講義日数の3分の2以上の出席をもって評価対象とする。欠席の場合、必ず欠席届を事前または事後に提出すること。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講義中の私語・携帯電話は厳禁。場合によっては退席を命じることがある。その場合、欠席扱いとする。 <p>②学びを深めるために</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新聞・雑誌 (一般誌・専門誌)、ニュースサイト等を日常的に目を通す。 ・講義中で紹介する書籍、資料等について、自分で調べる・入手して読む ・気になるニュース等について情報を収集し、毎講義でのコメントカードに短く意見を書く等こまめに情報を仕入れて、出す練習をすると学習に役立つと思います。 		
評価	<p>平常点：30%、テスト：30%、レポート：40%</p> <p>平常点：毎講義でのコメントペーパー提出、受講態度、その他 (小テスト・レポート等を実施することがある)</p> <p>テスト：期末テスト (論述式。講義内容を踏まえ、社会調査の基本的なプロセスを理解しているかを問う)</p> <p>レポート：興味・関心のある社会現象について論じる。参考文献等データの使い方等、の妥当性をみる)</p>		

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>(1) 関連科目…「社会調査法Ⅱ」 基礎的事項の学習である本講座に連続して受講することが望ましい。「社会統計学Ⅰ」「社会統計学Ⅱ」統計データの活用・量的調査に関する理解を深めるために、受講をお勧めする。(2) 次のステージ…「調べる」ことは一生ついて回る作業です。自分でものごとを調べ、分析・判断するとともに、自分でデータを作成・発信できる力を身につけられるよう期待します。</p>
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	社会調査法Ⅱ	後期	金 3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-宮平 隆央	2年	講義終了後またはメールにて対応します。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>社会調査法Ⅰで学んだ内容を踏まえ、調査によって資料やデータを収集し、分析しうる形にまで整理していく具体的な方法を勉強します。本講義では、受講者でグループをつくり、実際にミニ調査を行ってもらいます。</p> <p>到達目標：小規模な調査を、グループで、社会調査の企画・準備・実査・データ処理・分析・報告まで行うことができる。</p>	<p>社会調査法Ⅱでは、前期（社会調査法Ⅰ）の内容を踏まえ、実際に受講生に調査を企画・実施してもらいます。前期は一人で調べてまとめることを練習しましたが、後期ではグループで調べてまとめる方法をとります。中には、グループ作業が苦手な人もいますが、複数で話し合うことによる気づきも多くあります。そうした気づきが数多く得られるよう期待します。</p>
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 社会調査の企画・準備・実施・データ処理・まとめに関する基本的な技術を身につけている。 2. 他者と問題意識を共有し、調査に関する一連の作業を協力して実行し、調査を遂行できる。 3. 他者との共同作業を通じ、個人として身近な社会現象に対する興味・関心をもつ。 	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	イントロダクション（本講義の目的・内容・スケジュールの紹介等）	①先行研究等の情報収集
	2	問題意識をどのように調査に結びつけるか？（概念、定義、仮説構成など）	①+②グループ作業（テーマ等）
	3	調査目的・方法を明確にするにはどうしたらよいか？（調査目的と調査方法、調査方法の決め方）	同上
	4	実際の調査はどのように企画・準備したらよいか？（調査企画・設計：グループ学習）	同上
	5	対象者をどのように選ぶのか？1（標本抽出の諸方法）	①+③グループ作業（調査方法等）
	6	対象者をどのように選ぶのか？2（サンプリング方法の詳細、対象者数の決定方法と標本誤差）	同上
	7	調査票をどのように作ったらよいか1（質問文の作成とその注意点）	①+④グループ作業（実査計画等）
	8	調査票をどのように作ったらよいか2（調査票全体構成とその注意点）	同上
	9	調査票をどのように作ったらよいか？3（調査票の作成：グループ学習）	同上
	10	どのように調査を実施するか？1（量的調査・調査票の配布および回収法等）	①+⑤グループ作業（実査）
	11	どのように調査を実施するか？2（質的調査・調査対象者へのアプローチ、インタビューの仕方等）	同上
	12	どのように調査データを整理・集計するのか？1（原データの加工等）	同上
	13	どのように調査データを整理集計するのか？2（データ入力・集計とPC活用）	①+⑥グループ作業（まとめ）
	14	どのように調査データを分析し、まとめ、発表するか？（分析、報告に関する倫理等）	同上
15	グループ発表1	①+⑥+⑦グループ作業（発表準備）	
16	グループ発表2	同上	

テキスト・参考文献・資料など

下記のテキストを使用する。その他、講義中で参考文献を紹介する。

- 主テキスト（要購入：前期と同じテキスト）
大谷信介、他編著、『新・社会調査へのアプローチ—論理と方法—ネルヴァ書房、2013年
- 副テキスト（購入は任意）
篠原 清夫・清水 強志・榎本 環・大矢根 淳＝編『社会調査の基礎—社会調査士A・B・C・D科目対応』弘文堂、2010年、宮内泰介『自分で調べる技術 ～市民のための調査入門～』岩波書店、2004年

学びの手立て

①履修の心がまえ
そのため、調査倫理を踏まえた上で調査を「面白い」姿勢が重要です。また、限られた期間内で企画・実査・まとめ・報告を行うため、個人・グループでの自主的な勉強・話し合いなど、講義時間外を活用することが特に重要です。積極的・自主的な学習を期待します。

②学びを深めるために
ほとんどの受講生が「調査は初めて」の人ばかりです。なので、調査の出来不出来はともかく、まずはグループのメンバーと「一緒に」「通して」「できることから」やってみることを心掛けてください。

評価

平常点：30%、発表：40 %、レポート：30%

平常点：毎講義でのコメントペーパーでの提出、受講態度、その他（宿題等を課すことがある）
発表：期末の調査報告発表（調査結果について、グループごとに期末に発表。企画から発表までの内容を評価）
レポート：学期末に学習の成果を総括する。

学びの継続

次のステージ・関連科目

(1)関連科目：「社会調査法Ⅱ」本講座の前に、社会調査法Ⅰで基礎的事項を学習することが望ましい。ただし、社会調査法Ⅱから先に受講することを妨げない。「社会統計学Ⅰ」「社会統計学Ⅱ」統計データの活用・量的調査に関する理解を深めるために、受講をお勧めする。(2)次のステージ：社会調査法Ⅰ・Ⅱで学んだ内容を、他の講義やゼミ・卒業論文等で実践し、自分なりの調べ方・考え方を身につけて欲しい。

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	社会統計学 I	前期	金 4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-細川 妃奈子	2年	講義終了後またはメールにて対応します。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	この講義では、統計的データをまとめたり、分析したりするために必要な基礎的な統計学的知識について学び、統計リテラシー（統計を読み取り必要な情報を得る力・統計を作成し正確な情報を作る力、など統計を活用する力）を身につけることを目指します。	統計は、私たちが生活している社会の有り様を示す、重要な情報の一つです。しかし、社会には、信頼のおけるものから不確かなものまで、様々な統計・数字があふれています。講義では、事例をできるだけ多く紹介して統計的な考え方のイメージや基礎的な考え方を学ぶとともに、パソコンを使用して実際に統計を作成・分析する作業を通じ、理解を深めて行きます。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. PCを利用して、簡易な統計データを作成することができる。 2. 統計データを加工して、簡易な分析ができる。 3. 統計データの分析を通じて、社会現象について考察できる。 4. インターネット・図書館等を利用して、目的に応じた統計データを収集することができる。 	

学びの実践	学びのヒント			
	授業計画			
	回	テーマ	時間外学習の内容	
	1	イントロダクション（講義の趣旨・方法・スケジュールの説明）	①統計関連書籍・サイト閲覧	
	2	「統計」とは何か？（ものごとを数字で測るとは？ 統計学的な考え方）	①+②講義使用データの復習	
	3	「測る」とはどういうことか？（尺度と変数、度数分布とグラフ）	①+②講義使用データの復習	
	4	データの特徴をどう表すか？～基本統計量1（代表値とは何か）	①+②講義使用データの復習	
	5	データの特徴をどう表すか？～基本統計量2（散布度とは何か）	①+②講義使用データの復習	
	6	データの特徴をどう表すか？～基本統計量3（尖度・歪度、正規分布・標準偏差）	①+②講義使用データの復習	
	7	データからどこまで確かなことがいえるか？1（検定・推定の考え方、抽出法の理論）	①+②講義使用データの復習	
	8	収集したデータ間に関連性はあるか？ ～量的変数1～（相関係数）	①+②講義使用データの復習	
	9	収集したデータから予測はできるか？ ～量的変数2～（回帰分析の基礎1）	①+②講義使用データの復習	
	10	収集したデータによる予測をどう読み取るか？～量的変数3～（回帰分析の基礎2）	①+②講義使用データの復習	
	11	みせかけの関連性を見抜くにはどうするか？～量的変数4～（変数のコントロール、偏相関係数）	①+②講義使用データの復習	
	12	収集したデータ間に関連性はあるか？～質的変数1～（独立性の検定）	①+②講義使用データの復習	
	13	データの関連性をどうやって示すか？～質的変数2～	①+②講義使用データの復習	
14	複数のデータをどうやって読み解くか？～質的変数3～（エラボレーション）	①+②講義使用データの復習		
15	複数のデータをどうやって読み解くか？～質的変数4～（エラボレーション2）	①+②講義使用データの復習		
16	講義の振り返り・まとめ（レポート提出）	①+②講義使用データの復習		
テキスト・参考文献・資料など	下記のテキストを使用する受講者は各自入手すること。ほか、必要に応じて別途、講義中で指示する 廣瀬毅士・寺島拓幸編著『社会調査のための統計データ分析』オーム社、2010年			
学びの手立て	①「履修の心構え」 原則として、毎回パソコンを使用して統計データの加工・処理を学習します。そのため講義冒頭でデータの配布等を行います。遅刻・欠席は受講上大きな支障となります。注意してください。なお、欠席に関しては、必ず欠席届を提出してください。 ②学びを深めるために 本講義ではPC使用が必須です。PC操作が苦手な人もいますが、卒業後は必須の技術です。本講義では主としてEXCELを使用しますので、日ごろからEXCELに触ることをお勧めします。小遣い帳、燃費計測、バイトの給与計算等、日ごろの生活で使ってみてください。			
評価	平常点：50%、期末課題：50% 平常点：毎講義でのコメントペーパー提出、受講態度、その他（小テスト・課題等を課すことがある） 期末課題：講義中で学習した内容について、EXCELデータを加工して回答する課題を出題する。受講生は回答の上、期限までに提出する。			

学びの継続	次のステージ・関連科目 「社会統計学Ⅱ」 社会統計学Ⅰを受講後、より多様な数量データ分析の初歩を学んでほしい。また、社会調査士指定科目等における質的調査・データに関する学習が調査におけるデータの取り扱いについて理解をより深める。
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	社会統計学Ⅱ	後期	金 4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-細川 妃奈子	2年	講義終了後またはメールにて対応します。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	この講義では、「社会統計学Ⅰ」の内容を踏まえ、社会調査データの分析で用いる基礎的な多変量解析法について、その基礎的な考え方と方法を学びます。講義ではPCで実際にデータを加工します。到達目標として、基礎的統計リテラシー（統計を読み取り必要な情報を得る力・統計を作成し生活な情報を作る力など統計を活用する力）を高めること目指します。	社会で起きている現象の多くは、一つの要因で起こることよりも、複数の要因が関係によることもあります。逆に、一つの要因が複数の現象を生み出すこともあります。社会統計学における多変量解析は、社会現象に関わる様々な要因の関係を数学で表そうとするものです。講義では、事例をできるだけ多く紹介し、多変量解析のイメージや基礎的な考え方をお話したいと思います。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 多変量解析に関する基本的な知識・技術が身についている 2. 多変量解析の学習を通じて、社会現象が多様な要素から成り立っていることを想像できる 3. 統計解析など、数量データを活用するメリットを学ぶとともに、そのデメリットと等も学び、多面的に社会現象を理解・想像できる。 	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	イントロダクション（講義の趣旨・方法・スケジュールの説明）	①統計関連書籍・サイト閲覧
	2	「多変量解析」を学ぶ前に（社会統計学Ⅰの復習）	①+②講義使用データの復習
	3	「多変量解析」とは何か？（多変量解析の種類と用途、その方法の概要）	①+②講義使用データの復習
	4	数値データに基づいて予測する「重回帰分析」1	①+②講義使用データの復習
	5	数値データに基づいて予測する「重回帰分析」2	①+②講義使用データの復習
	6	数値データに基づいて予測する「重回帰分析」3	①+②講義使用データの復習
	7	数値データに基づいて予測する「重回帰分析」4	①+②講義使用データの復習
	8	複数の変数を合成する「主成分分析」1	①+②講義使用データの復習
	9	複数の変数を合成する「主成分分析」2	①+②講義使用データの復習
	10	複数の変数を合成する「主成分分析」3	①+②講義使用データの復習
	11	複数の変数を合成する「主成分分析」4	①+②講義使用データの復習
	12	データの背後を分析する「因子分析」1	①+②講義使用データの復習
	13	データの背後を分析する「因子分析」2	①+②講義使用データの復習
14	データの背後を分析する「因子分析」3	①+②講義使用データの復習	
15	データの背後を分析する「因子分析」4	①+②講義使用データの復習	
16	講義のふりかえり・まとめ（レポート提出）	①+②講義使用データの復習	
実践	テキスト・参考文献・資料など		
	下記のテキストを使用する。受講者は各自入手すること。また、社会統計学Ⅰのテキストを随時参考資料として使用する。 ほか、必要に応じて別途、講義中で指示する。		
	○主テキスト 浦井良幸、浦井貞美『多変量解析がわかる』技術評論社 2011		
	学びの手立て		
	①「履修の心構え」 原則として、毎回パソコンを使用して統計データの加工・処理を学習します。そのため講義冒頭でデータの配布等を行います。遅刻・欠席は受講上大きな支障となります。注意してください。なお、欠席に関しては、必ず欠席届を提出してください。 ②学びを深めるために 本講義ではPC使用が必須です。PC操作が苦手な人もいますが、卒業後は必須の技術です。本講義では主としてEXCELを使用しますので、日ごろからEXCELに触ることをお勧めします。小遣い帳、燃費計測、バイトの給与計算等、日ごろの生活で使ってみてください。		
	評価		
	平常点：50%、期末課題：50% 平常点：毎講義でのコメントペーパー提出、受講態度、その他（小テスト・課題等を課すことがある） 期末課題：講義中で学習した内容について、EXCELデータを加工して回答する課題を出題する。受講生は回答の上、期限までに提出する。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 (1) 関連科目 「社会統計学Ⅰ」 社会統計学Ⅱは、社会統計学Ⅰで学習した内容を踏まえて行うため、前期（Ⅰ）・後期（Ⅱ）を連続して受講することが望ましい。 ただし、社会統計学Ⅱを先に受講することを妨げない。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	ジェンダー論	後期	水3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	崎濱 佳代	2年	講義終了後に教室で受け付けます	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>〈性別〉によって分割された社会——〈女である/男である〉ことはどのような社会的意味をもち、日本や世界で〈女性〉はどのような社会状況を生きているのでしょうか。皆さんが暮らす社会の〈性別〉をめぐる「あたりまえ」を問い直し、教育、労働、家族、人口、国家・国際社会、移動・グローバル化など、ジェンダーの視点から</p>	<p>女だから/男だから?——家族や教育、市場や国家など社会のあらゆる領域で、人間は性別によって振分けられ、意味づけられているようです。学校・部活動、バイト・就活、恋愛・結婚、出産や育児・介護、遊びや流行の音楽・ドラマなど身近な経験にふれながら、ジェンダー化された社会の仕組みと課題を考えていきましょう。</p>
到達目標	<p>①ジェンダーという概念とその分析概念としての深化のあり方を理解する。 ②ジェンダー研究の基礎的な思考枠組みを知る。 ③身近な自分の経験を、講義で学んだことと関連付けて、ジェンダーの視点から考察する。 ④現代社会の様々な問題群と課題について、ジェンダーの視点から分析する。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	イントロダクション	授業時に指示する
	2	ジェンダーとは何か——性別の構築性と多様性	授業時に指示する
	3	教育とジェンダー①子どもの社会化	授業時に指示する
	4	教育とジェンダー②学校教育と性差別	授業時に指示する
	5	労働とジェンダー①雇用のジェンダー構造	授業時に指示する
	6	労働とジェンダー②無償労働とケアワーク	授業時に指示する
	7	労働とジェンダー③有償/無償労働とジェンダー平等	授業時に指示する
	8	家族とジェンダー①近代家族と多様化する家族	授業時に指示する
	9	家族とジェンダー②少子高齢社会とジェンダー平等政策	授業時に指示する
	10	家族とジェンダー③福祉レジームと生活保障システム	授業時に指示する
	11	家族とジェンダー④世界の人口問題とリプロダクティブ・ヘルス/ライツ	授業時に指示する
	12	国際社会・国家とジェンダー	授業時に指示する
	13	移動・グローバル化とジェンダー①労働力の女性化と新国際分業	授業時に指示する
14	移動・グローバル化とジェンダー②ポスト新国際分業と家族のグローバル化	授業時に指示する	
15	全体のまとめ——フェミニズムとジェンダー	授業時に指示する	
16	学期末テスト	授業時に指示する	
テキスト・参考文献・資料など	<p>【参考文献】毎回の講義でテーマに応じた参考文献を紹介します。全体を通した参考文献は以下のとおりです。 ・伊藤公雄・牟田和恵編, 2015『ジェンダーで学ぶ社会学』世界思想社。 ・千田有紀・中西裕子・青山薫, 2013『ジェンダー論をつかむ』有斐閣。 【資料】毎回の授業で必要に応じて配布します。</p>		
学びの手立て	<p>①本講義は、受講生による「主体的学び」を重視する科目です。各回の講義終了後、配布資料と参考文献を読み、理解を深めてください。 ②本講義は、基本的に担当教員による講義形式で授業を進めますが、学生への問いかけを随所に取り入れ、双方向的な授業展開を目指します。受講生数に応じて、随所でグループワーク等も盛り込む予定です。 ③授業終了時に、講義内容に関して学んだこと・考えたことをコメントシートに記入してもらいます。重要な考察・問いかけについては、次回の講義開始時に受講生全員に紹介し共有します。</p>		
評価	<p>平常点(30%)、中間テスト(30%)、学期末テスト(あるいは学期末レポート)(40%)の結果にもとづいて総合的に評価します。</p>		

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目 (関連科目) 社会学理論、国際社会学、都市社会学、南島社会学、家族社会学、マスコミ論、アジア社会論</p>
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	実習	集中	集中	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	崎濱 佳代	3年	講義終了後に教室で受け付けます	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	本実習では、社会調査の基礎を習得したうえで、フィールドワークを中心に、質的調査と量的調査を必要に応じて組合せ、調査企画から報告書作成に至る社会調査の一連のプロセスを実践的に学んでいきます。	多様な他者への想像力を持ち、沖縄で「現場」に学ぶ——この授業のキーワードです。社会調査の方法を実践的に学びながら、人間と社会との関係を多角的にとらえる「複眼的な知性」を育みましょう。

到達目標
①社会調査の基礎とルールをふまえ、調査の企画・設計から報告書の作成に至る社会調査の全過程を実践することができる。 ②「演習Ⅰ」で共有した研究テーマを社会調査に基づいて実証的・論理的に探究することができる。

学びの実践	<p>学びのヒント</p> <p>授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む）</p> <p>今年度のテーマは、「多文化社会と沖縄の社会学」です。</p> <p>本授業では、社会調査の基礎を習得したうえで、フィールドワークを中心に、質的調査と量的調査を相互補完的に組合せ、調査の企画・設計から報告書作成に至る社会調査の一連のプロセスを実践的に学んでいきます。</p> <p>本授業のキーワード——多様な他者への想像力を持ち、沖縄で「現場」に学ぶ——を共有し、沖縄をフィールドに、広く「多文化社会と沖縄」にかかわる社会のさまざまな問題群について、社会調査にもとづいて、その現代的課題を検討します。自らの関心にもとづいて研究課題を設定し、その課題についてジェンダー・エスニシティ・社会階層といった観点から、実証的に分析し、構造的な理解と論理的に伝える力をつちかいます。</p> <p>調査の実施に先立ち、「演習Ⅰ」の授業と連動して、「多文化社会と沖縄」に関する社会的なイシュー・概念・考え方をおさえ、テーマに関する先行研究を整理し基礎的知識を身に付けます。その後、社会調査に関する文献輪読を行い、受講生の関心を整理しつつ、サブ・テーマの設定とグループ分け、グループによる調査の企画・設計、問題の構造化（仮説・調査項目の設定）、対象者・訪問先の選定、インタビューガイドや調査票の作成、実査、収集データの集計・分析、報告書の作成まで、社会調査の一連のプロセスを実践します。</p> <p>実査は2019年8月～9月を中心に、必要に応じて年度内に実施します。</p> <p>テーマに応じて、沖縄県内の各種機関（NPO団体、教育機関、博物館・資料館、映画館、イベントなど）を訪問します。</p>
	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>授業時に適宜紹介します。</p>

学びの手立て	<p>①実習の研究テーマは、学生と担当教員で相談し最終決定します。</p> <p>②研究テーマに関する知識・情報を増やし理解・思考を深めるために、文献調査や読解、事前調査を授業に合わせて主体的に行ってください。</p> <p>③実習はグループワークを軸とします。受講生は、調査の企画・設計から実査、報告書作成までの社会調査の全過程に主体的・協力的に取り組むこと。他のゼミ生との共同作業であることを自覚し、協同性を磨きましょう。</p> <p>④調査地域や対象者に不快感を与えないよう、調査倫理に則った節度ある行動をとるよう留意してください。</p>
--------	--

評価	<p>調査の企画設計、調査票の作成、実査、中間報告、調査報告書の作成までの取組み（50%）、調査報告書の内容（50%）で総合的に評価します。</p>
----	--

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>本実習は、社会文化学科・専門必修科目「演習Ⅰ」との連動科目です。</p>
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	実習	集中	集中	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	上原 静・宮城 弘樹	3年	研究室5-417 E-mail sizuka@okiu.ac.jp	
学びの準備	ねらい	メッセージ		
	<p>実際に遺跡を発掘する。そのことにより調査の方法を学ぶ。遺跡の調査は一種の破壊行為である。そのことを十分に認識して、調査には周到な計画と細心の注意が必要なことを理解してもらう。そうすることにより、報告書の意義を認識してもらう。</p> <p>時間外には参考文献、配布資料を精読してもらう。</p> <p>到達目標</p> <p>考古学の調査の方法を身につける。 調査が一方では遺跡破壊をしていることを認識する。</p>	<p>専門の考古学研究に不可欠な発掘調査に関する考え方や知識、技法を学ぶための科目です。本実習で、実際の遺跡でしか体験できない、調査方法と整理方法（報告書作成）をしっかりと学んでほしいと思います。</p>		
学びの実践	<p>学びのヒント</p> <p>授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む）</p> <p>実習は夏期休暇の前半、2週間実施する。調査地は合宿受け入れ側との調整もあり、凡そ3年周期で遺跡地の変更を行っている。</p> <p>実習内容の内容は、測量、発掘、実測、写真撮影、日誌等の記録、発表報告（ミーティング）等の一連の発掘調査に取り組み、技術を習得する。</p> <p>発掘実習期間で行う作業</p> <p>1日目 遺跡周辺の踏査、発掘予定地の清掃、グリット設定。 発掘道具、器具類の搬入、宿泊施設での諸準備等。</p> <p>2日目 堆積層の検出と確認。並行して地形測量を開始する。</p> <p>3日～10日目 堆積層を掘り下げる。</p> <p>10日目 堆積層の完掘。遺構の実測、埋め戻開始。</p> <p>14日目 宿舎の掃除、発掘道具、器具類の片づけ等、本学へ引き上。</p>			
	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>文化庁記念物課『発掘調査の手引き』同成社 2010年 声舎藤本 強『考古学を学ぶ』雄山閣出版 1966年 高宮廣衛『先史古代の沖縄』第一書房 1991年 佐々木憲一他『はじめて学ぶ考古学』有斐閣アルマ 2011年</p>			
	<p>学びの手立て</p> <p>琉球列島における先史文化、社会の形成過程を深く知る。 調査が一方では遺跡破壊をしていることを認識する。</p>			
	<p>評価</p> <p>① 課題のレポート、試験を行う（90%）。 ② 平常点（遅刻、出席状況、受講姿勢等）（10%）。</p>			
学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>遺跡は時代、立地など同じものはない。実に多様である。そのため調査の経験を積むため、積極的に大学以外の調査にも参加すること。</p>			

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	実習	集中	集中	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	及川 高	3年	t.oikawa@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	卒業論文の執筆に向けた訓練として、現地における文化・社会の調査ができるよう実地にてトレーニングを行う。なおこの過程には現地との信頼関係の構築や調査者の倫理教育も含まれる。	フィールドワークは民俗学のもっとも基礎となる方法です。ただそれだけではなく、人から話を引き出し、断片的な情報から地域の全体像をつかんでいく技術は、学問に限らず生涯にわたって役立つテクニックになります。

到達目標	民俗学の専門職として、学芸員としての現地民俗調査、および市町村誌の受託調査が単独で行えるレベルを目標とする。このレベルには報告書の執筆も含まれる。
------	---

学びの実践	<p>学びのヒント</p> <p><u>授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む）</u></p> <p>夏休み期間中に集約的な現地調査を行う。またこの調査に先立ち、前期中に予備調査を目的とした日帰りの巡見を実施する。</p> <p>前期には班に分かれて、現地の民俗誌の読み込みと、調査項目、リサーチクエスションの作成を行う。また同時に調査にあたっての研究倫理の理解やラポールの必要性などについても理解する。これらを踏まえて夏季の調査実習に取り組む。これに関連して前期および夏季休業中には以下の時間外学習を課す。</p> <p>①民俗誌および現地に関連する資料群の収集 ②関連資料群の精読 ③リサーチクエスション、調査項目（案）の作成および授業での議論をふまえたバージョンアップ</p> <p>後期には現地調査の成果を踏まえ、民俗調査報告書の執筆に取り組み、完成を目指す。これに関連して、以下の通り時間外学習を課す。</p> <p>①報告書の執筆とバージョンアップ ②報告書の編集と校正</p> <p>年度内における報告書の刊行と現地協力者への送付をもって、プログラムを完了とする。</p>
	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>現地の民俗誌、調査報告書、論文を多数読み込む必要がある。適宜指示する。</p>

学びの手立て	<p>実習は学外での学習であり、五感を最大限に働かせて取り組むことが求められる。事前に文献等でよく準備したうえで、よく観察し、見たこと・聞いたことを的確に文章に表現していくことを心掛けてほしい。</p>
--------	---

評価	<p>現地調査への取り組みから評価する。評価軸は以下の通りとする。①事前学習、調査項目、リサーチクエスションの作成への取り組み（30%）、②現地における積極的な調査への取り組み（40%）、③詳細かつ明晰な調査報告書の執筆（30%）。</p>
----	--

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>演習Ⅱ 卒業論文</p>
-------	------------------------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	実習	集中	集中	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	藤波 潔	3年	研究室 (5434)、またはfujinami@oki.u.ac.jp	

学びの準備	ねらい この実習は、藤波担当の演習Ⅰの受講生を対象としており、歴史研究に不可欠な史料の収集、読解、翻刻などの技能を修得することを目的としている。具体的には、戦後沖縄における学校教育の復興をテーマとし、宜野湾をフィールドとして、当該事象に関する公文書、村報市報、新聞資料などを収集するとともに、関係者への聞き取りとあわせて、報告書を作成する予定である。	メッセージ 夏季休業期間に史料収集と史料読解の2度に分けて、場合によっては合宿形式で作業を行う予定である。また、受講生をチームに分けて作業を進めていくので、他者との協調と自己責任をともに果たすことが求められる。加えて、後期にはゼミ以外の時間を利用して、翻刻作業を進める予定である。
	到達目標 (1) 史料所蔵機関において、適切な史料を収集することができる。 (2) 収集した史料を整理・分類し、適切に保存することができる。 (3) 史料を正しく読解することができる。 (4) 読解した史料を正確に翻刻することができる。 (5) 他者と協力しながら作業を進めることができる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画 (テーマ・時間外学習の内容含む) (1) 調査の準備 ① 調査班の構成 ② 調査史料のリスト化 ③ 史料所蔵機関における事前学習 (2) 史料収集実習 (3日間を予定) ① 史料所蔵施設において、史料の探索、複写 ② 収集した史料の整理、保存 (3) 史料読解実習 (3日間を予定) ① 合宿形式での史料の翻刻 ② 注釈を付す項目の抽出 (4) 史料翻刻実習 (2日間を予定) ① 読解した史料のデータ化 ② 脚注の作成 (5) 報告書の作成 以上の作業を実施するが、予定している日数で作業が完了することはない。したがって、後期には各自の担当分を講義時間外で作業を行うとともに、演習Ⅰの時間に進捗状況を確認するとともに、必要によって合宿形式で作業を進めることもある。
	テキスト・参考文献・資料など 必要に応じて紹介する。
	学びの手立て ① 集中講義形式で開講されるので、日程調整には協力すること。 ② 複数回の合宿を予定しているため、あらかじめ了解しておくこと。 ③ 史料読解に必要な工具類は、できるだけ自分で準備しておくこと。 ④ 史料データの入力のため、各自PCを準備しておくことが望ましい。
評価	到達目標 (1) の評価：史料の収集状況 (10%) 到達目標 (2) の評価：史料の保存状況 (10%) 到達目標 (3) の評価：史料読解の状況 (35%) 到達目標 (4) の評価：入力データの内容 (35%) 到達目標 (5) の評価：作業中の取り組み姿勢 (10%)

学びの継続	次のステージ・関連科目 この授業は、演習Ⅰと密接に関連している。また、演習Ⅰと実習で修得した技能をいかして、4年次の演習Ⅱを通じて、個人で卒業論文を作成できるようにつなげてもらいたい。
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	実習	集中	集中	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	鳥山 淳	3年	オフィスアワーおよび学内メールで随時対応する。	

学びの準備	ねらい 自ら調査対象・内容を設定し、必要とされる調査方法を実践することを通して、地域の課題や取り組みを具体的に理解する。	メッセージ 調査実習での取り組みを通して調査方法や資料作成の技法を高め、それを卒業論文に向けた各自の検討に活かしてもらいたい。
	到達目標 調査の意義と方法を理解し、メンバー間のコミュニケーション能力を発揮して課題に取り組む方法を実践的に習得するとともに、地域理解能力を身に付ける。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む） 全体の調査テーマについて理解を深めたうえで、問題関心に応じて少人数のチームに分かれ、事前学習をくり返しながら具体的な調査方法を検討する。そのうえで実際に実習を行い、その内容を詳細に記録・分析し、報告書の作成に取り組む。上記の調査で想定される課題は、（1）関連文献・資料の調査・収集、（2）調査目的に沿った聞き取り調査の実施、（3）聞き取り調査の文字化と内容確認、（4）調査内容をふまえた報告書の構成の検討、（5）調査内容の分析・要約と報告書の作成である。
	テキスト・参考文献・資料など 特に指定しない。必要な情報は具体的なテーマを設定しながら提示する。

学びの実践	学びの手立て 調査と報告書の作成に関して、くりかえし試行錯誤することが必要である。
	評価 調査への参加姿勢と報告書の内容によって評価する（調査への参加姿勢50%、報告書の内容50%）。

学びの継続	次のステージ・関連科目 4年次の演習Ⅱおよび卒業論文
-------	-------------------------------

科目基本情報	科目名 実習	期別 集中	曜日・時限 集中	単位 2
	担当者 深澤 秋人	対象年次 3年	授業に関する問い合わせ 水曜日2限のオフィスアワーに研究室(5422)で受け付けます。	

学びの準備	ねらい 沖縄県公文書館岸秋正文庫所蔵の「稽古案文集」の閲覧と調査を通して、歴史研究に必要な史料の収集、読解、翻刻、分析などの基礎的能力を身につけることを目的とする。具体的には、近世の首里王府の通達および王府への申請や請願に見える事象・キーワード・地名・職名・パターン化したフレーズなどを調査する。	メッセージ 「稽古案文集」の調査が首里王府の文書行政や王府の行政機構に関心を持つきっかけとなり、何よりも史料を身近に感じてくれたらうれい。
-------	---	--

到達目標 ・「稽古案文集」に収録された案文が王府の通達か王府への申請や請願なのかを判別できるようになる。 ・王府の通達および王府への申請や請願における事象・キーワード・地名・職名などを抽出できるようになる。

学びの 実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	事前学習1) : 「実習」の内容の説明、「稽古案文集」の解題	到達目標を理解する
	2	事前学習2) : 活字化された「稽古案文集」の案文を読む①	案文を音読する
	3	事前学習3) : 活字化された「稽古案文集」の案文を読む②	案文を音読する
	4	事前学習4) : 沖縄県公文書館の見学、フィールドワーク①	問題意識を持って参加する
	5	事前学習5) : 沖縄県公文書館の見学、フィールドワーク②	問題意識を持って参加する
	6	沖縄県公文書館での「稽古案文集」の調査①	グループで情報を共有する
	7	沖縄県公文書館での「稽古案文集」の調査②	グループで情報を共有する
	8	沖縄県公文書館での「稽古案文集」の調査③	グループで情報を共有する
	9	沖縄県公文書館での「稽古案文集」の調査④	グループで情報を共有する
	10	沖縄県公文書館での「稽古案文集」の調査⑤	グループで情報を共有する
	11	情報の整理と分析および調査報告書の原稿の作成①	グループで問題点を共有する
	12	情報の整理と分析および調査報告書の原稿の作成②	グループで問題点を共有する
	13	情報の整理と分析および調査報告書の原稿の作成③	グループで問題点を共有する
	14	情報の整理と分析および調査報告書の原稿の作成④	グループで問題点を共有する
	15	情報の整理と分析および調査報告書の原稿の作成⑤	グループで問題点を共有する
16	調査報告書の完成原稿の提出	グループで推敲を重ねる	

実践	テキスト・参考文献・資料など 【テキスト】教科書は使用しません。事前学習2)で「稽古案文集」のサンプルとして活字化された史料を配布します。 【参考文献】 ・那覇市企画部文化振興課編『那覇市史 資料篇第1巻11 琉球資料(下)』(那覇市役所、1991年) ・小野まさ子・漢那敬子・田口恵「岸秋正文庫「稽古案文集」一解説および翻刻」(『史料編集室紀要』第30号、2005年)
----	---

学びの手立て	<ul style="list-style-type: none"> 事前学習では、調査の目的・内容・計画を確認したうえ、3~4人のグループを編成して調査項目を設定します。活字化された「稽古案文集」をサンプルとして読みます。また、沖縄県公文書館の見学も予定しています。 沖縄県公文書館での調査では、グループのなかで調査項目を割り振るなどして分担して作業を行います。 調査後は、収集した情報をグループごとに整理・分析し、全体での検討を踏まえて調査報告書の作成につなげます。 調査する「稽古案文集」はくずし字の字体、候文(和様漢文)の文体で記されています。内容を理解できるようになるためにはくずし字と候文に慣れ親しむ必要があります。少なくともいづれかを判読できないとグループでの作業に積極的に関われません。そのためにも「古文書講読I・II」を確実に履修してください。
--------	---

評価	調査に取り組む姿勢(30%)、グループへの貢献度合い(40%)、情報の整理の仕方(30%)によって総合的に評価します。
----	---

学びの継続	次のステージ・関連科目 【重要】(月)2限の「古文書講読I・II」を確実に履修してください。理由は学びの手立ての項目の末尾に記した通りです。
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	実習	集中	集中	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-城間 義勝	3年	ptt200@okiu.ac.jp	
学びの準備	ねらい	メッセージ		
	社会文化学科における諸入門科目や概論、そして領域演習および演習Ⅰ（前期）で学んだ知識を基礎としながら、実際にフィールドワークを体験する。現場での経験を通じて、自らの手で情報を得ること、そしてコミュニケーション能力の重要性を学ぶ。	フィールドワークは文化人類学や民俗学の醍醐味である。実習期間中は、調査地で出会う各世代の人々とコミュニケーションを取りながら聞き取り調査、または行事観察を行う。事前準備をしっかりと行い、焦らず、気負うことなく、自然体で実習に臨みましょう。		
到達目標	演習Ⅰその他の講義・ゼミで学んだフィールドワークの方法を現場で実践し、自らの力で情報を記録・収集して、調査報告書や論文作成の前段階として調査データを整理することができる。			
学びの実践	学びのヒント			
	授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む）			
	演習Ⅰ（前期）で学んだ内容を踏まえ、夏季休業中に、フィールドワークを実施する。具体的には、3～4人程度の班に分かれ、適切なインフォーマントを探してインタビュー調査ならびに参与観察を行う。			
	テキスト・参考文献・資料など 現地の民俗誌、調査報告書、論文を多数読み込む必要がある。適宜指示する。			
学びの手立て				
各自の身の回りあるいは沖縄各地で行われている祭りや行事などに関心を持ち、その内容を自身で調べてみよう。家族や友人を対象としてインタビュー調査の練習をするのも良いだろう。実際のフィールドワークに際しては、すでにどのような情報が公開されているのか、何をどう調査するのかを考え、調査項目の設定を行わなければならない。多様な他者と臨機応変にコミュニケーションが取れるよう、大学内外で普段から練習をしておく必要がある。				
評価				
評価については、次の3つを重視する。①調査前の事前学習・調査票作成への取り組み（30%） ②調査地での取り組み（40%） ③調査報告書作成への取り組み（30%）				
学びの継続	次のステージ・関連科目 領域演習、演習Ⅰ、演習Ⅱ、沖縄文化入門、民俗学概論、文化人類学概論、アジア文化概論、アジア社会文化論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、比較民俗学、文化人類学理論、etc.			

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	都市社会学	前期	火4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	桃原 一彦	2年	講義終了後あるいはメール等で受け付けます。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	都市社会学は「都市(化)」という現象を社会的に解説する学問である。都市の社会構造、空間構造が、私たちの生活、社会関係、心的性向とどのように関係しているのかについて理解する。	社会学の基礎概念「行為」と「構造」の関係を、都市空間、都市社会に応用して、現代社会を解説してみよう。講義では、都市に生きる人々の生活や心的性向を具体的に理解する素材として、映画作品や音楽作品も取り入れます。
到達目標	古典的都市社会学の理論と概念、Black Sociologyの基本的な視点、日本における都市社会学の系譜、テーマ化された都市空間を捉える視点等の習得。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	都市社会学への招待 ～近代都市から現代都市へ	欧州「近代都市」の歴史の探索
	2	多人種・多民族社会としてのアメリカ合衆国のその膨張	身近なグローバル資本の探索
	3	シカゴ学派都市社会学理論 ～形式社会学と人間生態学	ジンメルの基本概念の復習
	4	バージェスの都市空間論とワースのアーバニズム論	身近な都市的生活様式の探索
	5	現代都市を解説する課題Ⅰについて ～アメリカ都市の空間構造について	課題レポートの資料収集と作成
	6	Black Sociologyの展開とその特徴	学問と差別の歴史の探索
	7	Black Sociologyの可能性と今日的課題	マイノリティの文化論的実践の探索
	8	日本における都市化の歴史的展開	日本の近代的都市化の歴史の探索
	9	日本における都市社会学の展開① ～「結節機関」「正常人口の正常生活」「第三の空間」	古典的概念を応用した課題発見
	10	日本における都市社会学の展開② ～都市コミュニティ、「世界都市論」、都市エスニシティ	日本の身近なグローバル化の探索
	11	現代都市を解説する課題Ⅱについて ～都市社会学の基礎概念を応用した課題	課題レポートの資料収集と作成
	12	テーマ化された都市① ～近代都市の博覧会から現代のテーマパークまで	スペクタクル空間の系譜を考える
	13	テーマ化された都市② ～郊外開発とショッピングモールの社会的側面	ショッピングモールの特徴を調べる
14	テーマ化された都市③ ～「気散じ」「身散じ」、アフオーダンス	テーマ化された空間の心身を考える	
15	都市社会学のまとめと期末課題	講義プリントのふりかえり	
16	予備日	期末課題の作成	
実践	テキスト・参考文献・資料など		
	テキストの指定はとくにないので、参考文献・資料などを適宜紹介していく。		
	学びの手立て		
	リアクション・ペーパーは平常点の重要なポイントとなるので、面倒くさがらずに書き込むこと。大学は「学士力」(ジェネリック・スキル)を養うところ。その重要なポイントは「リサーチ・リテラシー」(高度かつ適切な情報収集と処理能力)となる。よって、課題に取り組む際は、インターネットの情報に頼りすぎないこと。インターネット情報を分析せずに、鵜呑みにして使用した場合は、減点の対象となる。		
	評価		
	受講態度とリアクション・ペーパーへの書き込み内容など平常点が20点、「現代都市を考える学習課題」Ⅰ・Ⅱの提出と内容評価が各15点(計30点)、期末レポート課題の提出と内容評価が50点という構成で総合し評価する。		

学びの継続	次のステージ・関連科目
	関連科目：専門演習、卒業演習 都市社会学で学んだ知識や視点をいかして、社会調査や卒業研究につなげる。

※ポリシーとの関連性 考古学をより深く学ぶための「発展科目」として位置付ける。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	南島考古学Ⅰ	前期	水4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	一森 達也	2年	授業終了後に教室で受け付けます。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	琉球列島を中心に、台湾、フィリピン、インドネシアなどの島嶼部東南アジアや中国、朝鮮半島、日本本土まで範囲を広げて、9世紀以降の当該地域のモノと人の動きを考古学的に探る。また、当該地域と南アジア、西アジア、東アフリカとの海のシルクロードを通じた交流をも概説する。この講義を通じて汎アジア的な視点を持ってもらいたい。	南島を中心に、アジア全体を俯瞰する広範な視点と幅広い好奇心を持つための講義を展開する。
到達目標	本講義を通じて、9世紀以降の南島の考古学研究、特に外部地域との交流を中心とした考古学研究の概要を把握し、さらにアジア全域にわたる交易史の概要を把握することができる。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	講義ガイダンス、南島と東アジアの地理・自然環境・気候の解説	配布資料の精読
	2	東アジアの中で見た、南島における農耕の誕生とグスク時代	配布資料の精読
	3	南島で発見された9世紀から13世紀の外來遺物	配布資料の精読
	4	グスク時代前期の交易路再検証	配布資料の精読
	5	喜界島の考古学	配布資料の精読
	6	琉球の明への朝貢開始期の考古遺物（14世紀末～15世紀初）	配布資料の精読
	7	古琉球時代の朝貢ルートの検証	配布資料の精読
8	グスクから出土する外來遺物	配布資料の精読	
9	鄭和の航海路と琉球王国の交易地域	配布資料の精読	
10	貿易国家ホルムズ王国と琉球王国の比較	配布資料の精読	
11	朝貢貿易の衰退と近世琉球の地産地消	配布資料の精読	
12	近世琉球の窯業	配布資料の精読	
13	新大陸の発見と南島	配布資料の精読	
14	琉球と海のシルクロードの考古学	配布資料の精読	
15	南島と東アジアの水中考古学	配布資料の精読	
16	レポート提出		
	テキスト・参考文献・資料など		
	参考文献：沖縄考古学会編『南島考古入門』ボーダーインク社、2018年。 必要な資料は講義中に適宜配布する。		
	学びの手立て		
	特別な理由が無い限り5回以上欠席した者、レポート未提出者には単位を与えない。事前に高校レベルの世界史の教科書のアジア部分またはアジア史の概説書に目を通してもらいたい。講義中に配布する資料にしっかりと目を通してもらいたい。		
	評価		
	平常点20%、最終レポート80%で評価します。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 関連科目としては「沖縄の考古学」。類似科目としては「南島考古学Ⅱ」「南島先史学Ⅰ・Ⅱ」「アジア考古学」。受講終了後に、南島を中心にアジア全体に興味の範囲を広げてもらいたい。
-------	---

※ポリシーとの関連性 琉球列島に展開した文化、歴史を学び、様々な問題をにたいする解決の糸口を考えることができる。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名 南島考古学Ⅱ	期別 後期	曜日・時限 水3	単位 2
	担当者 上原 静	対象年次 2年	授業に関する問い合わせ 研究室5-417室 sizuka@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 考古学におけるモノの捉え方、考え方、調査の方法などを学ぶ。琉球列島に展開したグスク時代、琉球王国時代の文化を学ぶ。	メッセージ 現在沖縄考古会で議論されている最前線の話題もからめて講義します。
	到達目標 グスク時代や琉球王国時代における、記録にみられない生活文化の一端を知ることができる。また、その研究方法を認識することができる。	

学びの準備	到達目標 グスク時代や琉球王国時代における、記録にみられない生活文化の一端を知ることができる。また、その研究方法を認識することができる。
-------	---

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	グスク時代と南島社会	参考文献を精読してもらう。
	2	夜光貝と南島交易	参考文献を精読してもらう。
	3	琉球王権とグスク	参考文献を精読してもらう。
	4	沖縄諸島の土木遺産	参考文献を精読してもらう。
	5	琉球諸島におけるグスク、近世の作事	参考文献を精読してもらう。
	6	琉球王国と鑄銭	参考文献を精読してもらう。
	7	琉球諸島の鑄造技術	参考文献を精読してもらう。
	8	琉球砥石考	参考文献を精読してもらう。
	9	泡盛と考古学	参考文献を精読してもらう。
	10	グスク時代の琉球料理	参考文献を精読してもらう。
	11	考古学からみた沖縄諸島の遊戯史	参考文献を精読してもらう。
	12	首里城の地下に広がる遺産群	参考文献を精読してもらう。
	13	琉球王国時代の窯業	参考文献を精読してもらう。
	14	琉球列島の厨子文化	参考文献を精読してもらう。
	15	琉球の庭園文化	参考文献を精読してもらう。
	16	試験	
	テキスト・参考文献・資料など 『沖縄県史』各論編2 考古学 2003年 『沖縄県史』各論編3 古琉球 2010年		
	学びの手立て 考古学資料を博物館、資料館などで直接みることは講義内容を深く理解することができる。講義内容の主たるは歴史時代にあたるため、隣接学の歴史学、民俗学、社会学研究の成果も積極的に学びましょう。		
	評価 1、課題のリポートか試験(90%)。 2、平常点として遅刻、出席状況、受講姿勢などを対象とする(10%)。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 「考古学特講Ⅰ、Ⅱ」「アジア考古学」「考古学概論2」
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	南島社会学	前期	水2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	鳥山 淳	2年	講義終了直後およびオフィスアワー	

学びの準備	ねらい 沖縄社会について思考する4つの視点を通して、歴史的経緯や現在の課題を具体的に理解するとともに、その知見に基づいて身近な事例を社会学的な問題設定に引き付けて思考することを重視する。	メッセージ 講義で得た知見がもっている意義や問題点について、身近な事例に照らし合わせて考えるように意識してもらいたい。
	到達目標 沖縄社会の特徴、歴史的経緯、現在の課題などについて理解し、複数の社会学的な視点からその構造や問題点を思考する方法を習得する。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	講義内容と課題についてのガイダンス	配布資料の精読
	2	生活空間の変遷① 移民県の歴史と現在	配布資料の精読と文献の参照
	3	生活空間の変遷② 戦後の都市形成と米軍基地	配布資料の精読と文献の参照
	4	生活空間の変遷③ 農村からの人口流出	配布資料の精読と文献の参照
	5	労働の戦後体験① 基地労働	配布資料の精読と文献の参照
	6	労働の戦後体験② 出稼ぎと本土就職	配布資料の精読と文献の参照
	7	労働の戦後体験③ サービス産業と観光立県	配布資料の精読と文献の参照
	8	労働の戦後体験④ 低賃金労働と貧困	配布資料の精読と文献の参照
	9	復帰をめぐる社会意識① 復帰運動の思想	配布資料の精読と文献の参照
	10	復帰をめぐる社会意識② 復帰の受けとめ方	配布資料の精読と文献の参照
	11	復帰をめぐる社会意識③ 沖縄文化への視線	配布資料の精読と文献の参照
	12	戦争体験の継承① 体験記録の作成	配布資料の精読と文献の参照
	13	戦争体験の継承② 平和祈念資料館の展示問題	配布資料の精読と文献の参照
	14	戦争体験の継承③ 教科書検定と沖縄戦	配布資料の精読と文献の参照
15	戦争体験の継承④ 戦争と心の傷	配布資料の精読と文献の参照	
16			
	テキスト・参考文献・資料など 特定のテキストは指定せず、必要な資料を配布し、関連する文献を紹介する。 参考資料 『名護市史7 社会と文化』（名護市、2002年） 嶋津与志『沖縄戦を考える』（ひるぎ社、1983年）		
	学びの手立て 講義内容に関連する参考文献を探索し、必要な知見を積極的に吸収していくことが重要となる。		
	評価 中間レポート30%、期末レポート40%、参加姿勢30%		

学びの継続	次のステージ・関連科目 社会・平和領域の専門選択科目
-------	-------------------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	南島社会学 I	前期	水 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	鳥山 淳	2年	講義終了直後およびオフィスアワー	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>沖縄社会について思考する4つの視点を通して、歴史的経緯や現在の課題を具体的に理解するとともに、その知見に基づいて身近な事例を社会学的な問題設定に引き付けて思考することを重視する。</p>	<p>講義で得た知見がもっている意義や問題点について、身近な事例に照らし合わせて考えるように意識してもらいたい。</p>
到達目標	沖縄社会の特徴、歴史的経緯、現在の課題などについて理解し、複数の社会学的な視点からその構造や問題点を思考する方法を習得する。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	講義内容と課題についてのガイダンス	配布資料の精読
	2	生活空間の変遷① 移民県の歴史と現在	配布資料の精読と文献の参照
	3	生活空間の変遷② 戦後の都市形成と米軍基地	配布資料の精読と文献の参照
	4	生活空間の変遷③ 農村からの人口流出	配布資料の精読と文献の参照
	5	労働の戦後体験① 基地労働	配布資料の精読と文献の参照
	6	労働の戦後体験② 出稼ぎと本土就職	配布資料の精読と文献の参照
	7	労働の戦後体験③ サービス産業と観光立県	配布資料の精読と文献の参照
	8	労働の戦後体験④ 低賃金労働と貧困	配布資料の精読と文献の参照
	9	復帰をめぐる社会意識① 復帰運動の思想	配布資料の精読と文献の参照
	10	復帰をめぐる社会意識② 復帰の受けとめ方	配布資料の精読と文献の参照
	11	復帰をめぐる社会意識③ 沖縄文化への視線	配布資料の精読と文献の参照
	12	戦争体験の継承① 体験記録の作成	配布資料の精読と文献の参照
	13	戦争体験の継承② 平和祈念資料館の展示問題	配布資料の精読と文献の参照
14	戦争体験の継承③ 教科書検定と沖縄戦	配布資料の精読と文献の参照	
15	戦争体験の継承④ 戦争と心の傷	配布資料の精読と文献の参照	
16			
テキスト・参考文献・資料など	<p>特定のテキストは指定せず、必要な資料を配布し、関連する文献を紹介する。</p> <p>参考資料 『名護市史7 社会と文化』（名護市、2002年） 嶋津与志『沖縄戦を考える』（ひるぎ社、1983年）</p>		
学びの手立て	講義内容に関連する参考文献を探索し、必要な知見を積極的に吸収していくことが重要となる。		
評価	中間レポート30%、期末レポート40%、参加姿勢30%		

学びの継続	次のステージ・関連科目 社会・平和領域の専門選択科目
-------	-------------------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	南島先史学 I	前期	水 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	宮城 弘樹	2年	問い合わせ先は E-mail「h.miyagi@okiu.ac.jp」です。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	先史文化の概要に先立ち、琉球列島の成り立ちについて、地質学上の成果を紹介する。その後、旧石器時代の人々の拡散や島嶼における適応過程に関する研究を紹介する。	【実務経験】行政における発掘調査現場での実務経験を活かし、実際の発掘調査の現場について紹介し、琉球列島誕生と人類誕生の歴史を一緒に考える講義を行う。
	到達目標	
	琉球列島の形成過程を知る。 ヒトの歴史と文化について、地球史の中で考えることができる。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	シラバスをよく読むこと
	2	先史学とは何か?	関連資料を配布するので読むこと
	3	琉球列島の地史 (1)	文献①参照
	4	琉球列島の地史 (2)	文献①参照
	5	琉球列島の動物と植物 (1)	関連資料を配布するので読むこと
	6	琉球列島の動物と植物 (2)	関連資料を配布するので読むこと
	7	サンゴ礁の海と人 (1)	関連資料を配布するので読むこと
	8	サンゴ礁の海と人 (2)	文献②参照
	9	サルとヒト	文献③参照
	10	人類誕生と拡散 (1)	文献④参照
	11	人類誕生と拡散 (2)	文献④参照
	12	沖縄人の起源	文献④参照
	13	琉球列島における新石器時代文化のはじまり (1)	関連資料を配布するので読むこと
14	琉球列島における新石器時代文化のはじまり (2)	感想提出	
15	まとめ	関連資料を配布するので読むこと	
16	レポート	課題提出	
	テキスト・参考文献・資料など		
	テキストは指定しない。基本的に講義形式で行う。 参考文献①神谷厚昭2007『琉球列島ものがたり—地層と化石が語る二億年史』ボーダーインク。②渡久地健2017『サンゴ礁の人文地理学:奄美・沖縄、生きられる海と描かれた自然』古今書院。③ジャレド・ダイヤモンド2017『若い読者のための第三のチンパンジー(草思社文庫)』草思社。④沖縄県立博物館・美術館2007『人類の旅—港川人の来た道—』。		
	学びの手立て		
	履修上の心構えとして、以下注意していただきたい。 ・出欠状況を毎回厳格に行う。 ・提出する課題は期日厳守の上、必ず取り組むこと。		
	評価		
	博物館見学課題 (20%)。期末課題 (60%)。平常点 (20%)。 ※無断欠席5回以上になると「不可」とする。		

学びの継続	次のステージ・関連科目
	継続的学びとして「南島考古学Ⅱ」を合わせて受講することを推奨する。 関連科目は「沖縄の考古学」「南島考古学Ⅰ・Ⅱ」「アジア考古学」

※ポリシーとの関連性

沖縄の社会文化を学ぶ上で、特に文字で記録されていない過去について深く学ぶ科目として位置付ける。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	南島先史学Ⅱ	後期	水2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	宮城 弘樹	2年	問い合わせ先は E-mail「h.miyagi@okiu.ac.jp」です。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	琉球列島に展開した先史文化を概観する。まず、沖縄諸島の新石器文化について、縄文時代とそれ以降に分けて、沖縄固有の文化がどのような過程で形成されてきたのかを概説する。続けて沖縄諸島と起源を異にする宮古・八重山諸島の先史文化を紹介し、その特質について学ぶ。	【実務経験】行政における発掘調査現場での実務経験を活かし、実際の発掘調査の現場について紹介し、琉球列島誕生と人類誕生の歴史を一緒に考える講義を行う。
到達目標	先史学のモノの見方、考え方を身につける。 琉球列島に展開した先史文化について深く知る。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	シラバスをよく読むこと
2	沖縄の先史時代研究のあゆみ	関連資料を配布するので読むこと	
3	沖縄の先史文化の編年	関連資料を配布するので読むこと	
4	沖縄の新石器時代（縄文時代並行期）①	関連資料を配布するので読むこと	
5	沖縄の新石器時代（縄文時代並行期）②	関連資料を配布するので読むこと	
6	沖縄の新石器時代（縄文時代並行期）③	関連資料を配布するので読むこと	
7	沖縄の新石器時代（縄文時代並行期）④	関連資料を配布するので読むこと	
8	沖縄の新石器時代（弥生～平安並行期）①	関連資料を配布するので読むこと	
9	沖縄の新石器時代（弥生～平安並行期）②	関連資料を配布するので読むこと	
10	沖縄の新石器時代（弥生～平安並行期）③	関連資料を配布するので読むこと	
11	沖縄の新石器時代（弥生～平安並行期）④	関連資料を配布するので読むこと	
12	宮古・八重山の新石器時代（下田原期）①	関連資料を配布するので読むこと	
13	宮古・八重山の新石器時代（下田原期）②	関連資料を配布するので読むこと	
14	宮古・八重山の新石器時代（無土器期）③	関連資料を配布するので読むこと	
15	宮古・八重山の新石器時代（無土器期）④	関連資料を配布するので読むこと	
16	レポート	課題提出	
テキスト・参考文献・資料など	テキストは指定しない。基本的に講義形式で行う。 参考文献：沖縄県教育委員会2003『沖縄県史』各論編2		
学びの手立て	履修上の心構えとして、以下注意していただきたい。 ・出欠状況を毎回厳格に行う。 ・提出する課題は期日厳守の上、必ず取り組むこと。		
評価	中間発表（20%）。期末課題（60%）。平常点（20%）。 ※無断欠席5回以上になると「不可」とする。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 継続的学びとして「南島考古学Ⅰ」をあわせて受講することを推奨する。 関連科目は「沖縄の考古学」「南島考古学Ⅰ・Ⅱ」「アジア考古学」
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	南島民俗学史 I	前期	水 4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	及川 高	2年	t.oikawa@okiu.ac.jp または5511研究室	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	比較民俗学の視点から、主に日本本土（ヤマト）と比較した際の、沖縄民俗文化の特徴について理解を進めていく。特にそれぞれの文化について、本質主義的な理解ではなく、歴史や環境、社会構造などに基づいて捉える視点を育てていく。	沖縄の民俗文化とはどのような特徴・性格を具えているのか、またそれは何故なのか、ということを考えていきます。我々が「当たり前」だと思っている生活文化のそれぞれに、様々な背景があることを感じ取ってほしいと思います。
到達目標	沖縄の民俗文化・社会について理解し、自分の身の回りのことについて自分なりに説明ができるようになることが目標である。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	イントロダクション この講義の目的・進め方・評価方法	課題とそのフィードバック
	2	沖縄の結婚式はなぜ本土と違うのか？	課題とそのフィードバック
	3	昔の沖縄の若者はどう恋愛していたか？	課題とそのフィードバック
	4	沖縄の親戚はなぜ多いのか？	課題とそのフィードバック
	5	なぜ沖縄では清明祭をやるのか？	課題とそのフィードバック
	6	なぜ沖縄にはユイマールやモアイがあるのか？	課題とそのフィードバック
	7	沖縄にはなぜ御神輿（おみこし）があまりないのか？	課題とそのフィードバック
8	ユタとはどんな人たちか？	課題とそのフィードバック	
9	石敢當とは何なのか？	課題とそのフィードバック	
10	エイサーとは何なのか？	課題とそのフィードバック	
11	沖縄人はなぜ豚肉が好きなのか？	課題とそのフィードバック	
12	仮面神とは何者なのか？	課題とそのフィードバック	
13	郷友会とは何なのか？	課題とそのフィードバック	
14	沖縄文化にはどんな特徴があるか？	課題とそのフィードバック	
15	まとめ	課題及び期末レポート	
16	予備日		
実践	テキスト・参考文献・資料など ・講義中に指示するウェブサイトにてテキストを掲載している。またプリントを配布する ・基本文献については講義中に指示する。		
	学びの手立て 『沖縄民俗辞典』等を活用すること。本講義では「親戚」「婚姻」「位牌」といった我々が当たり前知っているつもりでいる言葉から考察を深め、その一つ一つの意味を丁寧に考えていくことから沖縄社会を理解しようとする。そのために各回において課題を課すとともに、その解説を中心とした復習を実施する。		
	評価 各回の講義時間において課題を課す（40%）。これに期末レポートの成績を加えて成績を出す（60%）。課題は共に、①講義内容の理解度 および②理解内容を端的に整理する表現力、2つの観点から評価する。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 南島の民俗学Ⅱ（南島民俗学Ⅱ）、南島の民俗社会Ⅰ、南島の民俗社会Ⅱ、民俗学Ⅱ、民俗・人類学特殊講義Ⅰ
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	南島民俗学史Ⅱ	後期	火2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	及川 高	2年	t.oikawa@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 現代の民俗学・文化人類学において広く前提とされている基礎理論について学ぶ。	メッセージ 南島民俗社会を考えるための理論を学ぶ・使うことをトレーニングする講義です
	到達目標 現代の民俗学・文化人類学において基本とされている理論的研究について、その内容を理解する。特にそれらの理論を、現実の事例に対してどのように適用するかを考え、自ら応用できるようになることをめざす。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス この講義の目的・進め方・成績評価の方法	論文①を精読してくる
	2	論文①の解説 論文の背景・論理と主張・枠組みとしての特徴など	論文①の応用を考える
	3	論文①の応用 アイディアをどう使うか、どのような事例が論じられるか	論文②を精読してくる
	4	論文②の解説 論文の背景・論理と主張・枠組みとしての特徴など	論文②の応用を考える
	5	論文②の応用 アイディアをどう使うか、どのような事例が論じられるか	論文③を精読してくる
	6	論文③の解説 論文の背景・論理と主張・枠組みとしての特徴など	論文③の応用を考える
	7	論文③の応用 アイディアをどう使うか、どのような事例が論じられるか	論文④を精読してくる
	8	論文④の解説 論文の背景・論理と主張・枠組みとしての特徴など	論文④の応用を考える
	9	論文④の応用 アイディアをどう使うか、どのような事例が論じられるか	論文⑤を精読してくる
	10	論文⑤の解説 論文の背景・論理と主張・枠組みとしての特徴など	論文⑤の応用を考える
	11	論文⑤の応用 アイディアをどう使うか、どのような事例が論じられるか	論文⑥を精読してくる
	12	論文⑥の解説 論文の背景・論理と主張・枠組みとしての特徴など	論文⑥の応用を考える
	13	論文⑥の応用 アイディアをどう使うか、どのような事例が論じられるか	論文⑦を精読してくる
	14	論文⑦の解説 論文の背景・論理と主張・枠組みとしての特徴など	論文⑦の応用を考える
15	論文⑦の応用 アイディアをどう使うか、どのような事例が論じられるか	期末レポート	
16	予備日		
テキスト・参考文献・資料など 対象とする論文はコピーを配付するほか、毎回レジュメを配付する。			
学びの手立て 各回において論文の精読を課すので事前によく読んでくること。講義においてはまず、その論文の特徴や学術的背景について解説する。その後、沖縄の文化・社会に対しこれらの理論をどのように応用できるかを考える。全15回の講義で、7本の論文につきこれを行う。論文については初回ガイダンスで指示する。			
評価 事前に論文を精読してきたことを前提に、出席者には適宜発言を求める。これへの参加態度より平常点を与える(40%)。また期末に講義の理解度を試すレポートを課す(60%)。			

学びの継続	次のステージ・関連科目 演習Ⅰ 実習Ⅰ 演習Ⅱ
-------	----------------------------

※ポリシーとの関連性

発展科目に位置づけられ、沖縄民俗文化についてのより深い理解を得ることが目指される。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	南島民俗学 I	前期	金 4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-宮平 盛晃	2年	ptt705@oku.ac.jp	

学びの準備	ねらい 沖縄の民俗文化研究において重要な役割を果たした研究者を取りあげ、その生涯と学問の展開を時代的な背景を考慮しながら追ひ、その代表的な論文にふれる。そうした作業を通じて、沖縄の民俗文化研究の本質へ接近したい。	メッセージ 先人たちの研究方法と焦点を当てられた沖縄の様々な民俗文化を具体的、かつ幅広く取り上げ、その実態の把握を目指す。それを通して、受講生自身に共通する文化や異質な文化から、自分自身を見つめ直す機会としてもらいたいと思います。
	到達目標 南島民俗学における先行研究の歴史の理解と、現代と未来に残された課題の把握。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	沖縄民俗研究史概要(1)	配布資料の予習/復習
	2	〃 (2)	〃
	3	柳田国男(1)	配布資料の予習/復習
	4	〃 (2)	〃
	5	折口信夫	配布資料の予習/復習
	6	伊波普猷(1)	配布資料の予習/復習
	7	〃 (2)	〃
	8	比嘉春潮(1)	配布資料の予習/復習
	9	〃 (2)	〃
	10	金城朝永	配布資料の予習/復習
	11	仲原善忠	配布資料の予習/復習
	12	佐喜真興英	配布資料の予習/復習
	13	小野重朗	配布資料の予習/復習
	14	仲松弥秀	配布資料の予習/復習
	15	上江洲均	配布資料の予習/復習
	16		
	テキスト・参考文献・資料など 毎回配布するレジュメに沿って、スライド(写真、映像)を用いながら行う。		
	学びの手立て 履修上の心構え ・毎回、出席を確認する。やむを得ず欠席する場合は、欠席届を提出すること。 ・配布した資料を次週も使用する場合は指示するので、持参すること。		
	評価 授業参加度・平常点(40%)、課題(60%)によって総合的に評価する。 ※出席率が3分の2未満の場合は評価の対象外となります。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 南島民俗学Ⅱ、南島の民俗社会Ⅰ、南島の民俗社会Ⅱ
-------	---

※ポリシーとの関連性 発展科目に位置づけられ、沖縄民俗社会およびそれを捉える方法についてのより深い理解を得ることが目指される。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	南島民俗学Ⅱ	後期	水 4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	及川 高	2年	t.oikawa@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 沖縄の民俗文化を考察するにあたり、用いられてきた理論や視点、方法などの全体像を捉える。特にそうした理論を具体的な事例分析とともに取り上げることで、自分の研究に生かせるレベルまで修得することをめざす。	メッセージ この講義では従来の沖縄民俗学、文化人類学が用いてきた理論や方法について解説します。ここで言う理論とは、文化・社会をどう見るか、ということに関わってきます。
	到達目標 沖縄研究に用いられてきた理論的枠組みを消化し、自らそれを使って分析できるようになること。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	イントロダクション この講義の目的・進め方・評価の仕方	課題とそのフィードバック
	2	分布と地域 1 周圏論	課題とそのフィードバック
	3	分布と地域 2 地域構造論	課題とそのフィードバック
	4	文化複合論	課題とそのフィードバック
	5	進化主義とその批判	課題とそのフィードバック
	6	機能主義 1 生存に役立つ文化	課題とそのフィードバック
	7	機能主義 2 説明原理	課題とそのフィードバック
	8	構造主義	課題とそのフィードバック
	9	象徴と演劇	課題とそのフィードバック
	10	イデオロギー	課題とそのフィードバック
	11	知識	課題とそのフィードバック
	12	文化の客体化	課題とそのフィードバック
	13	エスニシティとアイデンティティ	課題とそのフィードバック
	14	ミクロ・ポリティクス	課題とそのフィードバック
	15	まとめ	課題及びレポートを提出
	16	予備日	
	テキスト・参考文献・資料など ・プリントを配付する。 ・基本文献については講義中に指示する。		
	学びの手立て 民俗学・文化人類学の理論は、あくまで現実の民俗文化と突き合わせた時に効力を発揮する。ただ抽象的な言葉を理解するのではなく、具体的な事象を捉えるための道具として消化してほしい。そのために各回において課題を課すとともに、その解説を中心とした復習を実施する。		
	評価 各回の講義時間において課題を課す(40%)。これに期末レポートの成績を加えて成績を出す(60%)。課題は共に、①講義内容の理解度 および②理解内容を端的に整理する表現力、2つの観点から評価する。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 南島の民俗学Ⅰ(南島民俗学Ⅰ)、南島の民俗社会Ⅰ、南島の民俗社会Ⅱ、民俗学Ⅱ
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	南島民俗学Ⅲ	前期	水2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-高江洲 敦子	2年	ptt202@oku.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>南島（講義では沖縄を中心に）の社会や文化は、固有なものをもちつつも中国や日本本土との交流の過程で、さまざまな影響を受けてきた。他地域から移入された文化は、その形を変えつつ、当該地域の文化に受容され、変容していく。講義は沖縄の社会の仕組みや文化の態様について、中国や日本本土と比較しながら進める。</p>	<p>民俗学を専攻する学生のみならず、他学科の学生も歓迎します。この講義を通して地域社会の成り立ちや、伝統的な沖縄の文化や習俗などに興味を持ってくれることを願います。</p>
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・沖縄の地域社会の成り立ちや変容について学ぶ。 ・中国や日本本土、沖縄における文化的共通性や独自性について学び、理解を深める。 	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	
	2	シマ社会の成り立ち	翌週との関連論文を精読すること。
	3	シマ社会の展開（呼称の変遷から）	翌週との関連論文を精読すること。
	4	シマの行政組織	翌週との関連論文を精読すること。
	5	シマのクミ組織	翌週との関連論文を精読すること。
	6	シマの労働慣行	翌週との関連論文を精読すること。
	7	沖縄の風水思想概説	翌週との関連論文を精読すること。
8	風水思想と村落	前半の講義内容を整理しておく。	
9	中間試験	次週との関連論文を精読すること。	
10	年中行事（1月～6月）	年中行事後半の論文を精読する。	
11	年中行事（7月～12月）	次週との関連論文を精読すること。	
12	婚姻と出産	次週との関連論文を精読すること。	
13	ハジチ習俗	次週との関連論文を精読すること。	
14	民間療法	次週と関連する論文を精読する。	
15	俗信	後半の講義内容を整理しておく。	
16	学期末試験		
テキスト・参考文献・資料など	<ul style="list-style-type: none"> ・テキストは特に指定しない。 ・参考文献は講義に配付するレジュメに明記する。 		
学びの手立て	<ul style="list-style-type: none"> ・毎回出席確認を行う。やむを得ず欠席した場合は、翌週に届けを提出すること。 		
評価	<ul style="list-style-type: none"> ・中間試験（40点） ・学期末試験（40点） ・提出物や、授業への取り組み姿勢（20点） 		

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習した内容は、卒業後の実社会において大きな糧になるでしょう。 ・卒業後は、さまざまな場面で沖縄の伝統的習俗（結婚・出産・地域の行事等）と直面することが多くなるでしょうが、講義で学んだ知識がきっと役立つと思います。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	南島民俗学Ⅳ	後期	水 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-高江洲 敦子	2年	ptt202@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>南島の民俗宗教は、御嶽や火の神に対する信仰を持ちつつ、14～16世紀にかけて日本本土、中国、韓国など、東アジア各地域との交流のなかでさまざまな外来宗教の影響を受け、その神仏を受容してきた。講義では、沖縄の固有信仰について概説したのち、沖縄の民俗宗教における外来宗教の受容とその変容について理解を深める。</p> <p>到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 沖縄の民俗宗教における外来宗教の影響を理解する。 ・ 沖縄固有の民俗宗教と、東アジア各地域における宗教との共通性を考察する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 2年生には、実習に向けての基礎的な知識を得られるような講義にしたい。 ・ 3年・4年生には実習報告書や卒論の一助となるような講義を行いたい。講義を通して、それぞれの生まれ育った地域や、文化に興味をもってくれることを願います。

学びの実践	学びのヒント																																																				
	授業計画																																																				
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>テーマ</th> <th>時間外学習の内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>ガイダンス</td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td>沖縄の御嶽信仰</td><td>火神に関する論文を精読すること。</td></tr> <tr><td>3</td><td>沖縄の火の神信仰</td><td>権現に関する論文を熟読すること。</td></tr> <tr><td>4</td><td>日本本土からの勧請神（権現と霊石①）</td><td>霊石に関する論文を精読すること。</td></tr> <tr><td>5</td><td>日本本土からの勧請神（権現と霊石②）</td><td>翌週との関連論文を精読すること。</td></tr> <tr><td>6</td><td>日本本土からの勧請神（地藏信仰）</td><td>翌週との関連論文を精読すること。</td></tr> <tr><td>7</td><td>日本本土からの勧請神（荒神）</td><td>翌週との関連論文を精読すること。</td></tr> <tr><td>8</td><td>日本本土からの勧請神（セース神）</td><td>翌週に関する論文を精読すること。</td></tr> <tr><td>9</td><td>日本本土からの勧請神（エビス）</td><td>翌週に関する論文を精読すること。</td></tr> <tr><td>10</td><td>前半まとめ（中間テスト）</td><td>前半の講義内容を整理しておく。</td></tr> <tr><td>11</td><td>中国大陸からの勧請神（土帝君）</td><td>次週との関連論文を精読すること。</td></tr> <tr><td>12</td><td>中国大陸からの勧請神（閔帝）</td><td>次週との関連論文を精読すること。</td></tr> <tr><td>13</td><td>中国大陸からの勧請神（天妃）</td><td>次週との関連論文を精読すること。</td></tr> <tr><td>14</td><td>中国大陸からの勧請神（天尊）</td><td>次週と関連する論文を精読する。</td></tr> <tr><td>15</td><td>中国大陸からの勧請神（孔子）</td><td>後半の講義内容を整理しておく。</td></tr> <tr><td>16</td><td>学期末テスト</td><td></td></tr> </tbody> </table>	回	テーマ	時間外学習の内容	1	ガイダンス		2	沖縄の御嶽信仰	火神に関する論文を精読すること。	3	沖縄の火の神信仰	権現に関する論文を熟読すること。	4	日本本土からの勧請神（権現と霊石①）	霊石に関する論文を精読すること。	5	日本本土からの勧請神（権現と霊石②）	翌週との関連論文を精読すること。	6	日本本土からの勧請神（地藏信仰）	翌週との関連論文を精読すること。	7	日本本土からの勧請神（荒神）	翌週との関連論文を精読すること。	8	日本本土からの勧請神（セース神）	翌週に関する論文を精読すること。	9	日本本土からの勧請神（エビス）	翌週に関する論文を精読すること。	10	前半まとめ（中間テスト）	前半の講義内容を整理しておく。	11	中国大陸からの勧請神（土帝君）	次週との関連論文を精読すること。	12	中国大陸からの勧請神（閔帝）	次週との関連論文を精読すること。	13	中国大陸からの勧請神（天妃）	次週との関連論文を精読すること。	14	中国大陸からの勧請神（天尊）	次週と関連する論文を精読する。	15	中国大陸からの勧請神（孔子）	後半の講義内容を整理しておく。	16	学期末テスト		
	回	テーマ	時間外学習の内容																																																		
1	ガイダンス																																																				
2	沖縄の御嶽信仰	火神に関する論文を精読すること。																																																			
3	沖縄の火の神信仰	権現に関する論文を熟読すること。																																																			
4	日本本土からの勧請神（権現と霊石①）	霊石に関する論文を精読すること。																																																			
5	日本本土からの勧請神（権現と霊石②）	翌週との関連論文を精読すること。																																																			
6	日本本土からの勧請神（地藏信仰）	翌週との関連論文を精読すること。																																																			
7	日本本土からの勧請神（荒神）	翌週との関連論文を精読すること。																																																			
8	日本本土からの勧請神（セース神）	翌週に関する論文を精読すること。																																																			
9	日本本土からの勧請神（エビス）	翌週に関する論文を精読すること。																																																			
10	前半まとめ（中間テスト）	前半の講義内容を整理しておく。																																																			
11	中国大陸からの勧請神（土帝君）	次週との関連論文を精読すること。																																																			
12	中国大陸からの勧請神（閔帝）	次週との関連論文を精読すること。																																																			
13	中国大陸からの勧請神（天妃）	次週との関連論文を精読すること。																																																			
14	中国大陸からの勧請神（天尊）	次週と関連する論文を精読する。																																																			
15	中国大陸からの勧請神（孔子）	後半の講義内容を整理しておく。																																																			
16	学期末テスト																																																				
	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ テキスト特になし。 ・ 参考文献：①平敷令治、『沖縄の祭祀と信仰』第一書房 1990。 ②窪 徳忠、『増訂 沖縄の習俗と信仰』東大東洋文化研究所 1974。 																																																				
	<p>学びの手立て</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 毎回出席確認を行う。 ・ やむ得ず欠席した場合は、翌週に届けを提出すること。 																																																				
	<p>評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 中間試験（40点） ・ 学期末期末試験（40点） ・ 提出物や授業への取り組み姿勢（20点） 																																																				

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 講義で学んだ内容は、今後の人生の中で困難に直面した時、それを解決する助けになることでしょう。
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	日本史概論 I	前期	水 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	市川 智生	2年	t. ichikawa@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>1)最初の5回は古代から近世までの歴史のなかで、重要なテーマを選び概説する。残りの10回は幕末から明治期を扱う。</p> <p>2)近代史および現代史の理解が特定の見方に偏ることのないよう、多様な価値観を尊重し、最新の研究成果に基づく説明を行う。</p> <p>3)琉球・沖縄史については、各回の内容に関連する事例を紹介し、沖縄社会の位置づけについて考える契機とする。</p>	<p>みなさんが生活する琉球・沖縄の歴史を学ぶ際には、日本の歴史を知っておく必要があります。この講義では近代・現代を中心に、写真、絵画、図表などを多用して、視覚的にわかりやすい内容とします。公文書館、博物館、図書館などで興味を持った事柄を調べてみることで、ここで学習した内容がより豊かになります。</p>
到達目標	<p>1) 日本の通史を、近代・現代を中心に理解し、現在の政治・経済・社会にどのようにつながっているのかを認識できるようになる。</p> <p>2) 日本における政治・外交の歴史的展開について、常に国際的視野に基づいて考えることができるようになる。</p> <p>3) 琉球・沖縄社会の歴史的変遷を、日本および周辺諸国・地域との関係から理解できる。</p> <p>4) 古代から近代・現代にいたる日本の歴史がどのような史料をもとに語られているのかを理解する。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	開講ガイダンス	事前にシラバスを熟読のこと。
2	江戸の三大改革	配布資料の読解、参考文献の確認。	
3	同上	配布資料の読解、参考文献の確認。	
4	鎖国と「四つの口」	配布資料の読解、参考文献の確認。	
5	同上	配布資料の読解、参考文献の確認。	
6	幕末の政治史	配布資料の読解、参考文献の確認。	
7	同上	配布資料の読解、参考文献の確認。	
8	明治維新と地域社会	配布資料の読解、参考文献の確認。	
9	同上	配布資料の読解、参考文献の確認。	
10	岩倉使節団は何を見たか？	配布資料の読解、参考文献の確認。	
11	同上	配布資料の読解、参考文献の確認。	
12	自由民権運動と憲法構想	配布資料の読解、参考文献の確認。	
13	同上	配布資料の読解、参考文献の確認。	
14	明治憲法の成立と帝国議会	配布資料の読解、参考文献の確認。	
15	同上	配布資料の読解、参考文献の確認。	
16	試験もしくはレポート	前期分の復習	
テキスト・参考文献・資料など	<p>特定の教科書は使用せずレジメを配布し、図表・絵画・写真・史料などをスライドで紹介する。全体にわたる参考文献は次の通り。(各論については講義で紹介する。)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・石上英一ほか編『日本の時代史』全30巻、吉川弘文館、2002-2004年。 ・金城正篤ほか『沖縄県の百年』山川出版社、2005年。 ・季武嘉也『日本の近現代—交差する人々と地域—』放送大学教育振興会、2015年 		
学びの手立て	<p>1) 履修の心構え 遅刻、私語厳禁とします。</p> <p>2) 学びを深めるために 前回の配布資料で、どこまで学習したのかを必ず確認しておくこと。配布資料への書き込みや自分のノートなど、講義内容をメモする習慣を身に着けること。</p>		
評価	<p>1) 毎回、講義の最後に課題(史料もしくは研究文献の読解)を1点配布します。これは次回の講義の冒頭に提出してもらい、出席の確認も兼ねます。遅刻・欠席者の提出は認めないので注意すること。(5点×14回=70点)。</p> <p>2) 学期終了時に、理解度を確認するため論述式の試験もしくはレポートを実施します。(30点×1回=30点)</p> <p>1)および2)の合計100満点で成績評価します。</p>		

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>可能な限り「日本史概論II」とセットで履修すること。「歴史学概論」、「琉球・沖縄史入門」、「沖縄前近代史」、「沖縄近現代史」など歴史関係の科目と合わせて受講し、自ら比較・検討することが望ましい。</p>
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	日本史概論Ⅱ	後期	水2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	市川 智生	2年	t. ichikawa@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>1) 近現代史を中心に2回の講義でひとつのテーマを概説する。</p> <p>2) 近代史および現代史の理解が特定の見方に偏ることのないよう、多様な価値観を尊重し、最新の研究成果に基づく説明を行う。</p> <p>3) 琉球・沖縄史については、各回の内容に関連する事例を紹介し、沖縄社会の位置づけについて考える契機とする。</p>	<p>みなさんが生活する琉球・沖縄の歴史を学ぶ際には、日本の歴史を知っておく必要があります。この講義では近代・現代を中心に、写真、絵画、図表などを多用して、視覚的にわかりやすい内容とします。公文書館、博物館、図書館などで興味を持った事柄を調べてみることで、ここで学習した内容がより豊かになります。</p>
到達目標	<p>1) 日本の通史を、近代・現代を中心に理解し、現在の政治・経済・社会にどのようにつながっているのかを認識できるようになる。</p> <p>2) 日本における政治・外交の歴史的展開について、常に国際的視野に基づいて考えることができるようになる。</p> <p>3) 琉球・沖縄社会の歴史的変遷を、日本および周辺諸国・地域との関係から理解できる。</p> <p>4) 近代・現代日本の歴史がどのような史料をもとに語られているのかを理解する。</p>	

学びの実践	学びのヒント	授業計画	
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	開講ガイダンス	事前にシラバスを熟読のこと。
	2	幕末～明治維新期の概説	配布資料の読解、参考文献の確認。
	3	日清戦争と国際社会	配布資料の読解、参考文献の確認。
	4	同上	配布資料の読解、参考文献の確認。
	5	日露戦争と都市騒擾	配布資料の読解、参考文献の確認。
	6	同上	配布資料の読解、参考文献の確認。
	7	近代日本と植民地の領有	配布資料の読解、参考文献の確認。
	8	第一次世界大戦前後の政治・外交	配布資料の読解、参考文献の確認。
9	同上	配布資料の読解、参考文献の確認。	
10	対外戦争と国内政治	配布資料の読解、参考文献の確認。	
11	同上	配布資料の読解、参考文献の確認。	
12	敗戦と戦後占領	配布資料の読解、参考文献の確認。	
13	同上	配布資料の読解、参考文献の確認。	
14	高度経済成長と社会変容	配布資料の読解、参考文献の確認。	
15	同上	配布資料の読解、参考文献の確認。	
16	試験もしくはレポート	後期分の復習	
テキスト・参考文献・資料など	<p>特定の教科書は使用せずレジメを配布し、図表・絵画・写真・史料などをスライドで紹介する。全体にわたる参考文献は次の通り。(各論については講義で紹介する。)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・石上英一ほか編『日本の時代史』全30巻、吉川弘文館、2002-2004年。 ・金城正篤ほか『沖縄県の百年』山川出版社、2005年。 ・季武嘉也『日本の近現代—交差する人々と地域—』放送大学教育振興会、2015年 		
学びの手立て	<p>1) 履修の心構え 遅刻、私語厳禁とします。</p> <p>2) 学びを深めるために 前回の配布資料で、どこまで学習したのかを必ず確認しておくこと。配布資料への書き込みや自分のノートなど、講義内容をメモする習慣を身に着けること。</p>		
評価	<p>1) 毎回、講義の最後に課題(史料もしくは研究文献の読解)を1点配布します。これは次回の講義の冒頭に提出してもらい、出席の確認も兼ねます。遅刻・欠席者の提出は認めないので注意すること。(5点×14回=70点)。</p> <p>2) 学期終了時に、理解度を確認するため論述式の試験もしくはレポートを実施します。(30点×1回=30点)</p> <p>1)および2)の合計100満点で成績評価します。</p>		

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>可能な限り「日本史概論Ⅰ」とセットで履修すること。「歴史学概論」、「琉球・沖縄史入門」、「沖縄前近代史」、「沖縄近現代史」など歴史関係の科目と合わせて受講し、自ら比較・検討することが望ましい。</p>
-------	--

※ポリシーとの関連性 多様な民俗事象を理解し、物事を相対化し、自文化や自分自身の置かれた状況を捉えなおす視点を養う。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	比較民俗学	前期	火4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	大城博美8回／神谷智昭(7回)	2年	講義終了後の教室にて。または学内メールにて。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>身近な沖縄、日本の民俗事象も確認しながら、台湾、韓国といった周辺諸地域の民俗事象との比較をします。そこから浮かび上がってくるであろう、それぞれの地域の特性や歴史性についても考えていきます。今、我々が生活している現代社会を観察し、物事の状況を複眼的に捉える視点を獲得することが最終目標です。</p>	<p>「比較民俗学」という名前が示すように、「比較」ということがキーワードになってきます。外国をはじめ、身の回りにいる「他者」と自分自身、自分自身の置かれている状況(社会・文化)について、「比較」という方法を通して相対化し捉えなおすことができるようになります。世の中を眺めた時に、いつもと違う景色が広がってくると思います。</p>
到達目標	<p>・「当たり前」に過ごしている日常生活世界を切り取り、そこにつまんでいるであろう歴史や意味といったものを理解することができるようになる。</p> <p>・「比較」という手法を通して、自己(自文化)の相対化の視点を学ぶことができる。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	イントロダクション「比較民俗学とは？」	前半8回は台湾と沖縄の比較です。
	2	沖縄と台湾の社会組織 女は先祖になれないの？	「台湾」に関連したニュースなど
	3	人生儀礼	アンテナを張り、積極的に「台湾」
	4	葬儀に立ち現れる人間の価値観	を意識してください。
	5	お盆に来る霊 あなたは誰を迎えているの？	普段の生活をより意識しつつ、
	6	まつりと人々	年中行事などを実践・観察しよう！
	7	信仰の世界(民間信仰、民間医療)	身近な信仰を観察しよう。
	8	老いと死の現在	老いや死を意識化しよう。
	9	現代韓国概況解説	韓国のイメージを挙げてみよう
	10	朝鮮半島の歴史概説	沖縄の歴史を振り返ってみよう
	11	朝鮮半島の家族・親族	貴方にとっての家族・親族とは誰？
	12	朝鮮半島のマウル(村)と生活	沖縄の村を調べてみよう
	13	朝鮮半島の村落祭祀	沖縄の村落祭祀を調べてみよう
	14	朝鮮半島の葬送儀礼	出身地の葬送儀礼を調べてみよう
15	朝鮮半島のシャーマニズム	沖縄のシャーマニズムを調べよう	
16			

実践	テキスト・参考文献・資料など
	テキストは特に指定しませんが、各回の講義と関連する参考文献などは講義前後に随時紹介していきます。

学びの手立て	<p>①「履修の心構え」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・民俗学、人類学などを履修済みであると理解しやすいでしょう。 ・おしゃべりなどをして他の受講生の妨げとなったり、居眠りやスマホいじりなどは厳禁。 ・講義開始後20分を過ぎての遅刻は正当な理由がない限りは欠席扱いとします。 <p>②「学びを深めるために」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テレビのドキュメンタリー番組などを見て興味・見識の幅を広げてください。
--------	--

評価	<p>・毎回リアクションペーパーを書いてもらい講義内容の理解度や、視点の多様性を確認すると同時に出席確認する。【30%】</p> <p>・地域毎(台湾、韓国)に、レポートを提出してもらおう。関心のある事象について自分自身で資料を集め、まとめるという作業を通して、理解を深めてもらう。(合計2回)【70%】</p>
----	--

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>隣接科目の「文化人類学」や「社会学」、「歴史学」といった科目を履修することで、複眼的視点獲得の基礎作りがさらに出来ると思います。身の回りの「当たり前」を一度括弧に入れて「当たり前」が当たり前になったいきさつや、そう感じる自分の感性を注視しながら、社会とのかかわり方を模索していけるような、学問の基礎体力を身につけましょう。</p>
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	フレッシュマンセミナー	通年	水3	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	宮城 弘樹	1年	授業終了後に教室で受け付けます。	

学びの準備	ねらい 本セミナーでは、共同学習を通じて、学生ひとりひとりが大学で学ぶための基礎的な知識や技能を習得し、4年間の学生生活を軌道に乗せることを目的とします。	メッセージ 新入生の皆さんに、学生間、教員とのコミュニケーションの場を提供します。一緒に、学生としての意識、方法、目的を明確にしていきたいと思います。
	到達目標 ・大学生活の基盤（規則的生活・友人関係・自学自習の習慣）を作る。 ・大学で学ぶための基本的スキル（読む、書く、聴く、伝える、対話する力）を習得する。 ・他者とのコミュニケーションや協働を通じて、自分自身の興味関心や学習目的を研ぎ澄ませる。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	前期ガイダンス、自己紹介	シラバスの熟読
	2	仲間とともに学ぶ・他者紹介	ワークシート課題
	3	大学での学びと自己管理①	ワークシート課題
	4	大学での学びと自己管理②	ワークシート課題
	5	講義ノートのとり方	ワークシート課題
	6	テキストの読み方・要約の仕方①	ワークシート課題
	7	テキストの読み方・要約の仕方②	ワークシート課題
	8	テキストの読み方・要約の仕方③	ワークシート課題
	9	図書館の活用	ワークシート課題
	10	レジュメの作り方・発表の仕方	ワークシート課題
	11	レジュメの発表とディスカッション①	レジュメ作成と発表準備
	12	レジュメの発表とディスカッション②	レジュメ作成と発表準備
	13	レジュメの発表とディスカッション③	レジュメ作成と発表準備
	14	レポートの書き方	ワークシート課題
	15	大学生活と自分の将来	ワークシート課題
	16	まとめ	今後の課題発見
	17	後期ガイダンス、グループ編成	
	18	話し合いと仮テーマの設定	各自、事前にテーマ案を探す
	19	グループ調査①	グループで協力して調査を行う
	20	グループ調査②	グループで協力して調査を行う
	21	中間発表①	グループで課題に取り組む
	22	中間発表②	グループで課題に取り組む
	23	アウトラインの作成と提出	グループで課題に取り組む
	24	グループ調査①	グループで協力して調査を行う
	25	グループ調査②	グループで協力して調査を行う
	26	グループ調査のまとめ①	グループで課題に取り組む
	27	グループ調査のまとめ③	グループで課題に取り組む
	28	最終プレゼンテーション①	グループで課題に取り組む
	29	最終プレゼンテーション②	グループで課題に取り組む
30	最終プレゼンテーション③	グループで課題に取り組む	
31	まとめ	今後の課題発見	

学	<p>テキスト・参考文献・資料など 授業内容に応じて、プリントを配布します。</p>
び の 実 践	<p>学びの手立て 本セミナーは、大学4年間の学びの基盤となる授業です。 <ul style="list-style-type: none"> ・毎回出席をとります。やむを得ない事情で欠席する場合は、事前に必ず連絡してください。 ・入学から卒業までをともにする仲間たちを尊重し、一緒に学ぶ姿勢を持ちましょう。 ・日常的に新聞を読み、沖縄、日本、世界の動向に関心を持ちましょう。 ・毎回授業のふりかえりを行います。自分自身の学びや興味関心を確認していきましょう。 ・わからないことは仲間や教員に相談するようにしましょう。 </p>
	<p>評価 平常点50%（出席状況、授業への参加、課題への取り組み）、期末点50%（レポート）をあわせて総合的に評価します。</p>
学 び の 継 続	<p>次のステージ・関連科目 2年次配当科目の「領域演習」が上位科目になります。フレッシュマンセミナーで会得した学びの基礎や習慣を 抛りどころに、専門的な方法論を修得し、自分自身の言葉を育てていきましょう。</p>

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	フレッシュマンセミナー	通年	水3	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	市川 智生	1年	t. ichikawa@oki.u.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>本講義では、大学で学び、自ら調べ考えたことを発信（文章作成、プレゼンテーション）するための基礎訓練を行う。文章を読む、書く、調べた内容を伝える、討論するといった事柄について、準備の過程からその実践までを扱う。</p>	<p>本ゼミで習得したことが、大学で学ぶ基礎となります。ゼミでの討論やグループワークを通して積極的な姿勢を身につけてください。</p>
	到達目標	
	<p>1) 講義や討論の内容をノートにまとめ、理解した点と疑問点を明確にすることができる。 2) 新聞の社説、新書レベルの文章を正確に読解し、要約を作成することができる。 3) 興味を持ったことについて、テーマを具体化し、調査を実践することができる。 4) 上記の内容について、他人に口頭で説明し（プレゼンテーション）、論理的な文章を書くことができる。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	開講ガイダンス：みなさんは自己紹介できますか？	事前にシラバスを熟読のこと。
	2	大学で学ぶとは？：社会文化学科での4年間と学問領域	資料の復習、学習内容の実践。
	3	ノートの取り方：映画を見てノートを取れますか？	資料の復習、学習内容の実践。
	4	大学でのコミュニケーション：知らない人にメール出したことありますか？	資料の復習、学習内容の実践。
	5	文章の読解と要約の作成①	資料の復習、学習内容の実践。
	6	文章の読解と要約の作成②	資料の復習、学習内容の実践。
	7	図書館オリエンテーション（予定）	資料の復習、学習内容の実践。
	8	ゲスト講師による講演（予定）	事前情報を自分で収集する。
	9	論理的な文章を書く①	資料の復習、学習内容の実践。
	10	論理的な文章を書く②	資料の復習、学習内容の実践。
	11	論理的な文章を書く③	資料の復習、学習内容の実践。
	12	発表の準備をする①：レジメの作成	資料の復習、学習内容の実践。
	13	発表の準備をする②：レジメの作成	資料の復習、学習内容の実践。
	14	予備日（講義またはフィールドワーク）	資料の復習、学習内容の実践。
	15	前期のまとめ	資料の復習、学習内容の実践。
	16	前期課題の発表と講評	資料の復習、学習内容の実践。
	17	フィールド・ワーク入門編①：フィールド・ワークとはそもそも何か、グループ分け。	資料の復習、学習内容の実践。
	18	フィールド・ワーク入門編②：研究倫理と調査被害。	資料の復習、学習内容の実践。
	19	フィールド・ワーク入門編③：テーマを決め、計画を立てる。	資料の復習、学習内容の実践。
	20	フィールド・ワーク入門編④：計画の発表と修正。	資料の復習、学習内容の実践。
	21	フィールド・ワークの準備編①：グループごとに計画を具体化し下調べをする。	資料の復習、学習内容の実践。
	22	フィールド・ワークの準備編②：グループごとに計画を具体化し下調べをする。	資料の復習、学習内容の実践。
	23	予備日（講義またはフィールドワーク）	資料の復習、学習内容の実践。
	24	フィールド・ワーク中間報告	資料の復習、学習内容の実践。
	25	キャリアガイダンス（予定）	学習内容の実践。
	26	発表の準備をする③：パワーポイントによるスライド作成（その1）	資料の復習、学習内容の実践。
	27	発表の準備をする④：パワーポイントによるスライド作成（その2）	資料の復習、学習内容の実践。
	28	フィールド・ワーク実践編：プレゼンテーション①	発表の準備、事後の復習。
	29	フィールド・ワーク実践編：プレゼンテーション②	発表の準備、事後の復習。
30	フィールド・ワーク実践編：プレゼンテーション③	発表の準備、事後の復習。	
31	まとめ：1年間で学んだ内容を振り返り、2年次以上にどうつなげるか？	学習内容の実践。	

学 び の 実 践	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>テキストは特に指定しないが、以下の文献を読解の材料に使用する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・沖縄国際大学宜野湾の会『大学的沖縄ガイド—こだわりの歩き方—』昭和堂、2016年。 ・高良倉吉『沖縄問題—リアリズムの視点から—』(中公新書)中央公論新社、2017年。 ・沖縄県文化振興会編『沖縄県史』各論編(1-8)、沖縄県教育委員会、2013-2017年。
	<p>学びの手立て</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 履修の心構え <ul style="list-style-type: none"> ・文章の読解や作成などで頻繁に課題を出すので、必ず提出すること。 ・ゼミでは積極的に発言すること。(県外や海外からの講師による講演の際は特に。) ・遅刻、欠席をしないこと。(特に自分の発表の無断欠席は厳禁。) 2) 学びを深めるために <ul style="list-style-type: none"> ・講義で学習する内容を、常に自分の生活との関連で考えてみる。 ・新聞、ニュース、ほかの講義なども、自らの文章の作成やプレゼンテーション能力向上の材料とすること。 ・オフィス・アワーなどを利用して、教員の研究室を遠慮なく訪問すること。
	<p>評価</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 講義中の小課題への取り組み(要約作成、レジュメ作成、文章作成など) (5点×10回=50点) 2) 前期レポート (25点) 3) 年度末レポート(25点)
学 び の 継 続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>本講義は、2年次の「領域演習」、3,4年次の「演習」でのゼミ活動の基礎となる。</p>

科目基本情報	科目名 フレッシュマンセミナー	期別 通年	曜日・時限 水3	単位 4
	担当者 比嘉 理麻	対象年次 1年	授業に関する問い合わせ r.higa@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 本科目は、社会文化学科1年生を対象としたゼミナール形式の授業である。本科目では大学での学びにおいて必要となる「書く」「読む」「伝える」ことの基本的な能力を習得することを目的とする。	メッセージ 【履修上の注意事項】 本科目は一般講義とは異なり、受講者に対して能動的・意欲的な取り組みを求める。
	到達目標 専門書の記事読解、文献・資料調査およびその報告書やレジュメの作成ができるようになる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス①	授業時に指示した文献の講読
	2	ガイダンス②	授業時に指示した文献の講読
	3	文章読解のトレーニング①	授業時に指示した文献の講読
	4	文章読解のトレーニング②	授業時に指示した文献の講読
	5	文章読解のトレーニング③	授業時に指示した文献の講読
	6	文章読解のトレーニング④	授業時に指示した文献の講読
	7	レジュメ作成と報告①	レジュメ作成に関する文献の講読
	8	レジュメ作成と報告②	レジュメ作成に関する文献の講読
	9	レジュメ作成と報告③	レジュメ作成に関する文献の講読
	10	レジュメ作成と報告④	レジュメ作成に関する文献の講読
	11	学外フィールドワーク	フィールドワークのデータ整理
	12	報告書の作成①	報告書作成に関する文献の講読
	13	報告書の作成②	報告書作成に関する文献の講読
	14	報告書の作成③	報告書作成に関する文献の講読
	15	前期のふり返り	前期の総合的な復習
	16	後期のガイダンス・グループ編成	授業時に指示した文献の講読
	17	テーマ設定と役割分担	授業時に指示した文献の講読
	18	文献・資料調査のトレーニング①	調査に関する文献の講読
	19	文献・資料調査のトレーニング②	調査に関する文献の講読
	20	グループ調査の準備①	調査の具体的計画の考案と実施
	21	グループ調査の準備②	調査の具体的計画の考案と実施
	22	グループ調査の準備③	調査の具体的計画の考案と実施
	23	中間発表①	調査報告書の作成
	24	中間発表②	調査報告書の作成
	25	グループ調査のまとめ①	調査報告書の修正と発表準備
	26	グループ調査のまとめ②	調査報告書の修正と発表準備
	27	グループ調査のまとめ③	調査報告書の修正と発表準備
	28	最終発表①	最終報告書の作成
	29	最終発表②	最終報告書の作成
	30	最終発表③	最終報告書の作成
31	後期のふり返り	後期の総合的な復習	

学	<p>テキスト・参考文献・資料など 特定のテキストは指定しない。適宜、資料を配布する。</p>
び の 実 践	<p>学びの手立て 与えられた課題に取り組むだけでなく、自ら積極的に学術書を読むようにする。</p>
	<p>評価 原則として、授業参加度（40%）、発表・調査報告・課題（60%）を総合し評価する。</p>
学 び の 継 続	<p>次のステージ・関連科目 演習 I、演習 II</p>

科目基本情報	科目名 フレッシュマンセミナー	期別 通年	曜日・時限 月 4	単位 4
	担当者 鳥山 淳	対象年次 1年	授業に関する問い合わせ	
			オフィスアワーおよび学内メールで随時対応する。	

学びの準備	ねらい 社会文化学科の学びにおいて必要とされる基礎的な技能と考え方を習得するために、実践的な課題を設定して取り組む。	メッセージ 大学での学びに適応しようとする意志と知的好奇心を発揮することが必要となる。
	到達目標 専門的な文章を理解する能力、伝達力をもった報告を作成する能力、テーマに対応したグループ調査を行う能力を身に付ける。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	前期の課題と方法についてのガイダンス①	配布資料の精読と理解
	2	前期の課題と方法についてのガイダンス②	配布資料の精読と理解
	3	文章読解のトレーニング①	課題内容と修正点の確認
	4	文章読解のトレーニング②	課題内容と修正点の確認
	5	文章読解のトレーニング③	課題内容と修正点の確認
	6	文章読解のトレーニング④	課題内容と修正点の確認
	7	レジュメ作成と報告①	報告資料の作成
	8	レジュメ作成と報告②	報告資料の作成
	9	レジュメ作成と報告③	報告資料の作成
	10	レジュメ作成と報告④	報告資料の作成
	11	課題提出に向けた報告①	グループによる検討と報告準備
	12	課題提出に向けた報告②	グループによる検討と報告準備
	13	課題提出に向けた報告③	グループによる検討と報告準備
	14	課題提出に向けた報告④	グループによる検討と報告準備
	15	課題の提出と振り返り	達成点と問題点の確認
	16	後期の課題と方法についてのガイダンス	配布資料の精読と理解
	17	調査テーマの設定と役割分担	グループによる検討と資料作成
	18	文献・資料調査のトレーニング①	グループによる検討と資料作成
	19	文献・資料調査のトレーニング②	グループによる検討と資料作成
	20	グループ調査の準備状況の報告①	グループによる検討と資料作成
	21	グループ調査の準備状況の報告②	グループによる検討と資料作成
	22	調査の中間報告①	報告資料の作成
	23	調査の中間報告②	報告資料の作成
	24	調査の中間報告③	報告資料の作成
	25	調査内容のまとめと報告資料の作成①	グループによる検討と資料作成
	26	調査内容のまとめと報告資料の作成②	グループによる検討と資料作成
	27	調査内容のまとめと報告資料の作成③	グループによる検討と資料作成
	28	調査の最終報告①	報告資料の作成
	29	調査の最終報告②	報告資料の作成
	30	調査の最終報告③	報告資料の作成
	31	後期課題の振り返り	達成点と問題点の確認

学 び の 実 践	<p>テキスト・参考文献・資料など テキスト等は指定せず、課題に応じて必要な資料を配布する。</p>
	<p>学びの手立て 課題に取り組む中での「気づき」や調査による「発見」をメモ等に残し、必要に応じて再確認しながら取り組むことが重要となる。</p>
	<p>評価 参加姿勢30%、課題の取り組みと報告内容70%</p>
学 び の 継 続	<p>次のステージ・関連科目 各自が選択する2年次の領域演習につながる</p>

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	フレッシュマンセミナー	通年	水3	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	及川 高	1年	t.oikawa@okiu.ac.jp アポを取って研究室(5511)に相談しに来てよい	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>大学で学ぶための基本的知識・技術を身につけることが目的である。ここで言う技術とは、「論文や専門書を探し、読むこと」「情報を整理すること」「生産的な議論をすること」「成果をまとめること」「書くこと」「発表すること」等を指している。具体的な課題研究に取り組み、それらの習得を目指す。またインターネット上の情報の扱いや、研究者倫理の考え方も解説する</p> <p>到達目標</p> <p>自分で必要な資料や文献を探し出せること。またその内容を適切につかみ、文章への表現ができるようになること。加えて写真や図表による表現も使いこなせるようになることが望ましい</p>	<p>大学の学びを豊かなものにするためには、自ら問いを立て、それに主体的に取り組んでいく姿勢が求められます。初年次のペースメーカー的なゼミでもあるので欠かさず出席し、大学での学びのリズムを作ってください。</p>

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	前期ガイダンス 自己紹介とアイスブレイク このゼミの進め方と評価の仕方	メールアカウントの確認
	2	メールの書き方	実際にメールを書いてみる
	3	インターネットで文献を探す リストを作る	文献リストを作成し、添付して送る
	4	レポートの書き方① レポートとは 出題者の要求を捉える 客観的に書く	レポートを書く
	5	レポートの書き方② 見解と根拠	小論文を読み、要約してくる
	6	主張・見解を要約する①	小論文を読み、要約してくる
	7	主張・見解を要約する②	小論文を読み、要約してくる
	8	主張・見解を要約する③	小論文を読み、要約してくる
	9	主張・見解を要約する④	2つの小論文を読み、要約してくる
	10	対立する見解を1つの文章に整理する①	2つの小論文を読み、要約してくる
	11	対立する見解を1つの文章に整理する②	2つの小論文を読み、要約してくる
	12	対立する見解を1つの文章に整理する③	複数の小論文を読み、要約してくる
	13	複数の見解を1つの文章にまとめる①	複数の小論文を読み、要約してくる
	14	複数の見解を1つの文章にまとめる②	複数の小論文を読み、要約してくる
	15	複数の見解を1つの文章にまとめる③	夏休みの課題に取り組む
	16	予備日	
	17	後期ガイダンス 後期の進め方 レビュー論文とは何か?	配付の論文を読んで、批判を作る
	18	論文を批判する①	配付の論文を読んで、批判を作る
	19	論文を批判する②	配付の論文を読んで、批判を作る
	20	論文を批判する③	配付の論文を読んで、批判を作る
	21	論文を批判する④	レビューを書く論文を決めてくる
	22	レビューする論文の振り分け	プレゼンを作ってくる
	23	論文の要約と批判①	プレゼンを作ってくる
	24	論文の要約と批判②	プレゼンを作ってくる
	25	論文の要約と批判③	プレゼンを作ってくる
	26	論文の要約と批判④	レビュー論文の初稿を書いてくる
	27	レビュー論文中間報告①	論文の執筆
	28	レビュー論文中間報告②	論文の執筆
29	レビュー論文最終報告	論文の執筆	
30	論集の作成と校正	校正を行い、完成させる	
31	通年のまとめ		

学 び の 実 践	<p>テキスト・参考文献・資料など 適宜コピーを配付する。なお一部の回において、ゼミ生に論文の選択やレジユメの作成を指示する。期日に遅れると配付できないので注意すること。</p>
	<p>学びの手立て 「読むこと」と「書くこと」を徹底的に訓練する。まずはまとまった分量の文章を読む習慣をつけること。ゼミの中では継続的に文章を書かせる課題を課し、相互に批判しながら技術の向上を図る。課題には必ず期日通りに取り組むこと。</p>
	<p>評価 前期は論文の要約を軸に、複数の異なる見解を整理する訓練を行う。後期は前期の経験を踏まえ、論文を1本選び、それを批判するレビュー論文を書く。これを以下の4点から評価する。①期日通りかつ継続的な課題の提出(20%)、②課題およびプレゼンの内容の丁寧さと適切さ(30%)、③グループワークへの積極的参加と貢献(30%)、④指摘のフィードバックによる成長(20%)</p>
学 び の 継 続	<p>次のステージ・関連科目 領域演習</p>

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	文化人類学概論	後期	水4	2
	担当者 -栗国 恭子	対象年次	授業に関する問い合わせ	
		1年	授業内容の質問などは授業終了後に教室で受け付けます。または学内mail	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	文化人類学（民族学）は「文化」というキーワードを基礎にしなが ら世界の民族社会・文化（異文化）を比較研究する学問である。様 々な地域・環境で生きる人々の民族文化から多様な「人間の在り方 」を考えてみる。自身とは異なる「文化」（慣習や生活スタイル、 社会の仕組み、考え方）を知ることで、自身の文化のあり様を知る 。	現在の世界は70億人を越える人々が生きる。日本や沖縄の文化はそ の中でも少数派であろう。人類の文化の多様性を知り、理解するこ とが人間の豊かさや、日本・沖縄の文化の独自性や共通する普遍性 を知ることにつながる。この講義を通じて「世界・アジアのなかの沖 縄・日本を考える」事の出来る人材を目指してほしい。
到達目標	19世紀の中頃に誕生した「人間を在り方を問う」学問・文化人類学（民族学）の方法論、視点、民族社会・文化 を対象にした研究の流れなど（1週から4週）で基本的な学問の特徴を確認し、どのような理論が展開されたのか 、現代の民族問題、宗教研究における必要な用語を確認し、民族社会、現代社会との関りを、 多彩な研究の切り口を確認する。現代の文化人類学が取り組む課題（観光・開発と少数民族社会・文化変化）を 通して文化人類学の役割を確認し、多民族の文化と沖縄・日本に暮らす自身の文化とどのように繋がっているのかを理解する。また、 少数派（マイノリティー）への捉え方が相対的に理解することが出来る。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	文化人類学とはどのような学問か 「文化」概念・方法論・相対的な視野	文献②・③・④・⑤を確認
	2	人種と国家と民族 文化人類学の向き合う社会「民族（文化）」について	文献②・③・④・⑤を確認
	3	現代の〈民族〉問題 民族紛争・アイデンティ・民族差別	文献③・④を確認
	4	文化人類学説史 約160年間で生まれた理論のその変化	文献①・②・③・④・⑤を確認
	5	政治と権力 文化人類学と文化表象 民族博物館の資料と展示 植民地主義と異文化研究	文献②・④を確認
	6	宗教人類学① 「宗教」概念、アニミズム、	文献②・③・④を確認
	7	宗教人類学② 社会変動と宗教活動	同上
	8	宗教人類学③ 民族宗教と現代社会（「カルト」概念変化、宗教の政治利用）	同上
	9	家族と親族（1）－親族研究の基礎と人類学	文献①・②・③・④・⑤を確認
	10	家族と親族（2）－キンドレット・出自・婚姻	同上
	11	贈与・交換－レヴィストロースのクリスマス分析構造分析 米国と異文化社会	文献①・④を確認
	12	観光人類学① 「伝統」の概念、「伝統の創造」 バリ・沖縄	文献③・④を確認
	13	観光人類学② 「文化は誰のものか」中国チベット社会と観光化の波（映像鑑賞あり）	同上
	14	開発人類学① 開発（環境）問題と先住民社会の変化 ブラジル・カヤボ（映像鑑賞あり）	同上 ブラジルについて調べる
15	開発人類学② 開発（環境）問題と先住（少数）民族 ブラジル・イゾラド（映像鑑賞あり）	同上ブラジル・少数民族を調べる	
16	期末試験	後期講義内容を確認する	

実践	テキスト・参考文献・資料など
	特定教科書はなし。講義用のレジュメ・資料は各自配布する。講義（講師）はパソコンを使用し、テーマよって はビデオ映像などを使用する。重要な参考文献などは講義の中で紹介する。 <参考文献>①綾部恒雄編『文化人類学群像 日本篇外国篇』（アカデミア出版、1988年から）②波平恵美 子編『文化人類学』（医学書院、1993）③綾部恒雄編『よくわかる文化人類学』（ミネルヴァ書房、200 6年）④山下晋司ほか編『文化人類学キーワード』（有斐閣、1997）⑤大田好信『トランスポジションの思 想』（世界思想社、1998年）⑥その他『文化人類学事典』など

学びの手立て	①「履修の心得え」として、以下を注意してください。 ・出欠確認を毎回行うので、やむを得ず遅刻・欠席する場合は、必ず「欠席届」などの書類は提出すること。 ・授業での疑問・質問は積極的にしてください。 ②「学びを深めるために」 世界の多様な民族文化・歴史の文献・ビジュアル資料及び展示会やドキュメンタリ ー番組や、映画などに関心を持ち読書・観覧・鑑賞する機会を積極的に増やしてほしいです。例えば周りにいる 留学生などとも交流を通しての互いの文化を語るのもいい機会です。
--------	---

評価	「評価方法・割合」期末試験75%、出席・講義感想レポート・平常点25% 「評価基準」期末試験においては、 世界の民族文化関係の情報理解だけでなく、講義を通して紹介したテーマに関連した文化について、どのよう な認識を持ち、また問題意識を持つようになったのか、自身の異文化観が深まったのかの思考のまとまりを論ず る過程を評価する。よって授業内容要約・暗記のみを求める試験ではない。
----	---

学びの継続	次のステージ・関連科目 文化人類学理論、アジア文化概論、アジア社会文化論、比較民俗学、女性と文化などなど
-------	---

※ポリシーとの関連性 沖縄における平和運動を多角的に捉え、平和運動における課題をみつけ、平和を構築していけるよう専門的な知識を身につけていく。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	平和運動史	後期	月4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-石川 朋子	2年	授業終了後に教室で受け付けます。	

学びの準備	ねらい 戦後日本が掲げてきた「平和主義」や「平和国家」とはどのようなものか、沖縄の抱えている「米軍基地」から改めて考える機会にする。	メッセージ 沖縄の歴史的経験から「平和」について考えるきっかけになることを期待したい。
	到達目標 沖縄、日本の未来の平和について、自分自身の考え、意見を目標に思考を深化させる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画	
	回	テーマ
	1 講義ガイダンス	
	2 沖縄戦を考える（1）	
		時間外学習の内容
	3 沖縄戦を考える（2）	関連論文を紹介する。以下同様。
	4 沖縄戦体験から平和運動へ	
	5 島ぐるみ土地闘争を考える（1）	
	6 島ぐるみ土地闘争を考える（2）	
	7 島ぐるみ土地闘争から平和運動へ	
	8 「復帰運動」を考える（1）	
	9 「復帰運動」を考える（2）	
	10 「復帰運動」を考える（3）	
	11 「復帰運動」から平和運動へ	
	12 沖縄の米軍基地問題を考える（1）	
	13 沖縄の米軍基地問題を考える（2）	
	14 反基地運動と平和運動	
	15 予備（フィールドワーク等・予定）	
	16 テスト	
	テキスト・参考文献・資料など 特になし。講義は毎回配布するレジюмеに沿って行う。参考文献等は講義のなかで適宜紹介する。ビデオ等の画像も使用する。	
	学びの手立て 私語、講義を妨害する行為は認めない。	
	評価 講義でのリアクションペーパー等により出講義理解状況を把握し、レポート、テスト等により評価する。 リアクションペーパー40%、テストまたはレポート60%	

学びの継続	次のステージ・関連科目 平和学、沖縄の基地問題、沖縄の歴史等の科目を受講することが望ましい。平和運動に関心を持ち、平和な社会を構築できる人材となることを期待したい。
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	平和学概論	後期	水2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	鳥山 淳	1年	講義終了後の教室およびオフィスアワー	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	いま沖縄で問われ続けていることを出発点としつつ、いくつかの具体的な問題に焦点を当てながら、平和学の入口を紹介していく。そのために、「戦争と国家」という問題設定から世界史的な動向にも視野を広げ、身近な暴力性を含めて問い直すために構造的暴力の視点を重視し、平和学の広がり理解できるように講義を展開する。	わたしたちの身の回りで日々起こっている問題に目を向け、それを生み出している社会の構造について考える意識を持ってもらいたい。
到達目標	人びとの権利や尊厳、それを脅かす問題に目を向け、地域の視点と世界的な視点の双方を用いて思考する力を身につける。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	講義内容と課題についてのガイダンス	配布資料の精読
	2	沖縄から考える① 基地問題の起源	配布資料の精読と文献の参照
	3	沖縄から考える② 基地集中と固定化	配布資料の精読と文献の参照
	4	沖縄から考える③ 韓国との同時代性	配布資料の精読と文献の参照
	5	沖縄から考える④ 核兵器と沖縄	配布資料の精読と文献の参照
	6	沖縄から考える⑤ 選別される戦争犠牲者	配布資料の精読と文献の参照
	7	戦争と国家① 総力戦の世紀	配布資料の精読と文献の参照
8	戦争と国家② メディアと戦意	配布資料の精読と文献の参照	
9	戦争と国家③ 軍産複合体	配布資料の精読と文献の参照	
10	戦争と国家④ 核の”平和利用”	配布資料の精読と文献の参照	
11	構造的暴力① ガルトゥングの視点	配布資料の精読と文献の参照	
12	構造的暴力② 貧者の徴兵制	配布資料の精読と文献の参照	
13	構造的暴力③ 軍隊の性暴力	配布資料の精読と文献の参照	
14	構造的暴力④ 国策と地域	配布資料の精読と文献の参照	
15	構造的暴力⑤ 沖縄の経験を読み解く	配布資料の精読と文献の参照	
16	学期末テスト	講義内容の復習と要約	
実践	テキスト・参考文献・資料など 特定のテキストは使用せず、必要な資料は教室で配布する。 石原昌家ほか編『沖縄を平和学する！』（法律文化社、2005年） 最上敏樹『いま平和とは』（岩波新書、2006年）		
	学びの手立て 各テーマに関する配布資料や文献を精読するとともに、関連図書や新聞を調査して問題を発見する。		
	評価 学期末テスト50%、小レポート25%、参加姿勢25%		

学びの継続	次のステージ・関連科目 社会・平和領域の専門基礎科目
-------	-------------------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	平和教育学	前期	金 3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-北上田 源	2年	授業終了後に教室で受け付けます	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>沖縄ではさかんに平和教育が行われているものの、それがどのような社会的背景や学問的研究の成果に基づいて変遷してきたのかは知られていない。本講義では、これまで行われてきた特徴的な平和教育実践に着目し、模擬授業およびその実践の背景に関しての解説を通して、今後の平和教育のあるべき姿について考える。</p>	<p>みなさんがこれまで受けてきた平和学習はどのようなものでしたか？それは沖縄・日本・世界の平和教育の変遷の中でどのように位置づけられるものなのでしょうか？本講義では、平和教育の授業実践に焦点を当てて、時代や地域・国によって変化する平和教育の多様性/多層性について学び、今後の平和教育のあり方を考えていきます。特に、教員を目指す方にはぜひ受講してほしいと思います。</p>
到達目標	<p>①それぞれの時代・地域・国によって多様な平和教育があることを理解できる。 ②沖縄戦や沖縄の基地問題についてこれまでどのような平和教育実践が行われてきたかを、社会的背景や学術研究の成果との関連で理解できる。 ③国内や海外でこれまでどのような平和教育実践が行われてきたかを、社会的背景や学術研究の成果との関連で理解できる。 ④これまでの平和教育の発展・成果を踏まえて、今後のあるべき平和教育の創造に寄与できる力をつける。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	
	2	自分たちが経験してきた平和学習を振り返ろう①	記憶にある平和学習を振り返る
	3	自分たちが経験してきた平和学習を振り返ろう②	記憶にある平和学習を振り返る
	4	基地問題を取り上げた平和教育実践-沖国大ヘリ墜落事故を取り上げた授業実践	沖国大ヘリ墜落事故について調べる
	5	基地問題を取り上げた平和教育実践の背景-基地問題の何をどう教えるか？	沖縄の基地問題について調べる
	6	戦争体験の継承を意図した平和教育実践-身近な人の体験を聞き取る授業実践	身近な人の戦争体験について調べる
	7	戦争体験の継承を意図した平和教育実践の背景-なぜ身近な人を取り上げるか？その意味と課題は？	身近な人の戦争体験について調べる
	8	加害の側面に着目した平和教育実践-アジアでの加害の実態について調べる授業実践	日本のアジア侵略について調べる
	9	加害の側面に着目した平和教育実践の背景-日本はアジアで何をしたか？その責任をどう考えるか？	日本のアジア侵略について調べる
	10	加担・抵抗の側面に着目した平和教育実践-朝日新聞連載「女も戦争を担った」を用いた授業実践	参考資料(授業時に提示)を読む
	11	加担・抵抗の側面に着目した平和教育実践の背景-誰が戦争を推し進めたのか？	参考資料(授業時に提示)を読む
	12	積極的平和について考える平和教育実践-「大切な経験を共有する」平和教育実践	参考資料(授業時に提示)を読む
	13	積極的平和について考える平和教育実践の背景-消極的平和と積極的平和・直接的暴力と構造的暴力	参考資料(授業時に提示)を読む
	14	身近な問題から平和について考える授業実践-人権・平和・環境について考える平和教育実践	参考資料(授業時に提示)を読む
15	身近な問題から平和について考える授業実践の背景-平和とは何か？	参考資料(授業時に提示)を読む	
16	レポート提出		

テキスト・参考文献・資料など	特になし：授業時にプリント配布
----------------	-----------------

学びの手立て	<ul style="list-style-type: none"> ・受講生の人数、出身地、関心などに応じて授業内容および順序を変更することがあります。 ・授業では適宜沖縄戦および基地問題など、平和教育に関する時事問題を取り上げます。新聞等を意識して見ておくことで学習内容についての理解が深まります。 ・講義中に意見交流や議論の場を頻りに設けるため、積極的な授業参加の姿勢が求められます。
--------	--

評価	<ul style="list-style-type: none"> ・平常点…20点(出欠状況に基づく。授業への積極的な参加が見られる場合には適宜加点する) ・小レポート…30点(毎回の講義でA4半分程度の用紙にて小レポートの提出を課す)上記到達目標①②③を評価 ・最終レポート…50点 上記到達目標④を評価
----	--

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>社会・平和領域の選択科目</p>
-------	--

※ポリシーとの関連性 国際社会で起きていることを事例から各立場の「平和思想」を考え
る。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	平和思想	後期	火4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-大城 尚子	2年	講義終了後に教室で受け付けます	

学びの準備	ねらい 沖縄の平和思想と世界の著名な平和思想者との相違点を考える。また、「平和思想」の運動の中で蔑ろにされた人々の権利回復要求運動を知る。加えて、権力者が使用する「平和」という概念と非戦・非暴力の違いを考える。	メッセージ 沖縄はもとより、世界の代表的な平和思想を知り、様々な考えを取り入れることができるようになる。
	到達目標 目標① 基本の理論を用いて国際問題を分析できる。 目標② 国家の外政策と国内政策の概要を説明できる。 目標③ 安全保障問題と平和の争議を説明できる。 目標④ インターネットや新聞等で平和問題に関わる事柄の情報収集をすることができる。 目標⑤ 時事問題に関して授業中発言することができる。	

学びの準備	到達目標 目標① 基本の理論を用いて国際問題を分析できる。 目標② 国家の外政策と国内政策の概要を説明できる。 目標③ 安全保障問題と平和の争議を説明できる。 目標④ インターネットや新聞等で平和問題に関わる事柄の情報収集をすることができる。 目標⑤ 時事問題に関して授業中発言することができる。
-------	---

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション	講義内で提示
	2	平和思想とは何か	講義内で提示
	3	沖縄の平和思想①	沖縄県史、市史、字誌
	4	沖縄の平和思想②	沖縄県史、市史、字誌
	5	沖縄の平和思想③	沖縄県史、市史、字誌
	6	マハトマ・ガンジーとインドの独立運動	『ガンジー自伝』
	7	キング牧師と公民権運動	『キング牧師』
	8	米国の公民権運動と先住民族の権利①	『好戦の共和国アメリカ』
	9	米国の公民権運動と先住民族の権利②	『好戦の共和国アメリカ』
	10	「平和」と安全保障①	講義内で提示
	11	「平和」と安全保障②	講義内で提示
	12	人間の安全保障①	人間の安全保障
	13	人間の安全保障②	人間の安全保障
	14	人間の安全保障③	人間の安全保障
15	講義のまとめ		
16	最終試験		

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など テキストは使用しません。プリントを配布します。 参考文献：油井大三郎『好戦の共和国アメリカ』岩波新書、2008年、石原昌家・仲地博編『オキナワを平和学する』法律文化社、2005年、木戸衛一編『平和研究入門』大阪大学出版会、2014年など。
-------	--

学びの実践	学びの手立て 新聞をよく読むこと（特に国際関係、平和、基地、人権など） 私語、携帯電話の使用など周囲に迷惑のかかるような行為はしない。文科省の規定どおり5回以上欠席した場合は、不可とする。講義時間開始30分以降の入室は遅刻とする。 講義内では理解度確認のため、受講生へ意見や発言を促すことがある。
-------	--

学びの実践	評価 出席30%、平常点10%、期末試験60%
-------	----------------------------

学びの継続	次のステージ・関連科目 「平和学」、「国際平和学I」など
-------	---------------------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	平和・社会学特殊講義 I	集中	集中	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-丹野 清人	2年	講義時間内に教室で対応します。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	「マイノリティの権利保障と日本」をテーマとする。日本は、外国人の権利を「在留資格の範囲」内でのみ認められるとしている。これが「性的少数者」、「少年」、「ヘイトスピーチ」といった問題であればどうなるのか、マイノリティのマイノリティの問題をどのように考えればいいのか等の知識を伝える。	「国という単位があることは否定できません。そして、国民という枠組みと外国人という枠組みがあることも事実です。では、枠組みが違うからといって、同じ人間であることも間違いありません。こうした場合、どこまで差があることは許されるのか。人権や平等というものを具体的な人の問題として考えてみませんか。」
到達目標	具体的な事例を通して日本国内に暮らす外国人の権利に関する現状と課題を理解し、問題の改善・解決方法について当事者の視点をふまえて考察できるようになる。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス（本講義の目的と成績評価方法についての説明）	配布した資料を精読する
	2	日本国憲法と外国人の権利（1） 国民と市民の違い	配布した資料を精読する
	3	日本国憲法と外国人の権利（2） 国民（国籍）と住民：戸籍と住民票の関係から	配布した資料を精読する
	4	在留特別許可と退去強制処分の関係	配布した資料を精読する
	5	外国人少年非行と退去強制処分	配布した資料を精読する
	6	偽装査証外国人の退去強制処分	配布した資料を精読する
	7	LGBT外国人と退去強制処分	配布した資料を精読する
	8	外国籍住民と社会保障	配布した資料を精読する
	9	入管法と通知・通達・告示	配布した資料を精読する
	10	国籍法と戸籍法の関係	配布した資料を精読する
	11	外国人の中のハイラーキー：日系人、在日、一般外国人	配布した資料を精読する
	12	「マイノリティのマイノリティ」の人権は成立するのかを考える	配布した資料を精読する
	13	日本のヘイトスピーチ規制と外国人の人権	配布した資料を精読する
14	定住外国人と一般外国人：日本でデニズンシップは成立するのか	配布した資料を精読する	
15	まとめ	講義内容の要点を再確認する	
16			
テキスト・参考文献・資料など	テキストは指定しない。参考文献として丹野清人『「外国人の人権」の社会学』（吉田書店、2018年）を挙げておく。		
学びの手立て	もし海外で暮らす親族・親戚がいたら、外国で暮らすとはどういうことが聞いてみておいてください。		
評価	レポート60%、平常点40%（平常点の評価基準については、講義の冒頭で詳しく説明する）		

学びの継続	次のステージ・関連科目 3年次の演習 I ・実習および4年次の演習 II ・卒業論文において、本講義から得た知識を活かすことが期待される。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	民俗学概論	後期	火4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	及川 高	1年	t.oikawa@okiu.ac.jp または5511研究室	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>日本民俗学の知見に即して、民俗学的なものの方・考え方について解説する。なお本講義では沖縄県に限らず、日本各地や一部東アジア諸国の事例にも幅広く言及する。テーマごとに1回完結の内容で講義を進めていくが、適宜以前の講義内容にも言及し、生産技術と社会組織、精神文化の複合について理解を深めていく。なお最後に講義内容に則ったレポートを課す。</p>	<p>民俗学の知見を広く浅く扱います。高校までの日本史の知識を前提に、民衆の生活から見たらそれらがどのように捉えられているのか、その一端に触れてもらえればと思います。</p>
到達目標	民俗学の基本的な知識と考え方を身につける。特にその用語や概念について端的に説明できるようになるとともに、それを現実に応用した思考ができるようになる。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	この講義の進め方 民俗学とはどんな学問か	課題およびそのフィードバック
2	地域共同体；村落とは何か	課題およびそのフィードバック	
3	親族と婚姻；財としての女性	課題およびそのフィードバック	
4	人生；生まれ育って死ぬこと	課題およびそのフィードバック	
5	死者と先祖	課題およびそのフィードバック	
6	宗教者；霊威と権力	課題およびそのフィードバック	
7	俗信；行為としての宗教	課題およびそのフィードバック	
8	食べる；嗜好の文化	課題およびそのフィードバック	
9	農耕；米と芋	課題およびそのフィードバック	
10	海と川；魚を獲った人々	課題およびそのフィードバック	
11	山；殺すことと作ること	課題およびそのフィードバック	
12	都市と商業	課題およびそのフィードバック	
13	非日常；祭りと災害	課題およびそのフィードバック	
14	口承文芸；民話から都市伝説まで	課題およびそのフィードバック	
15	東アジア民俗学	課題およびそのフィードバック	
16	この講義のまとめ	レポート	
テキスト・参考文献・資料など	毎回プリントを配付する。綴じるためのファイルを用意しておくことが望ましい。		
学びの手立て	配布資料は過密に作成されている。読み返すことで知識が深まる面もあるため利用すること。また各回において短い課題を課し、その解説を中心とした復習を実施する。		
評価	各回において短い課題を出題する（40%）。また期末にレポートを課す（60%）。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 南島民俗学Ⅰ、南島民俗学Ⅱ、南島の民俗社会Ⅰ、南島の民俗社会Ⅱ
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	琉中交流史	後期	水4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	深澤 秋人	2年	水曜日2限のオフィスアワーに研究室(5422)で受け付けます。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	琉球王国と中国の明清両朝は、14世紀後半から19世紀後半にいたるまで、国家間の関係を成立させていました。しかし、常に安定した関係ではなく、アジアの歴史の変動を背景とする変化や危機がありました。本講義では、琉中交流史の変遷、琉球の王権や政権にとって琉中交流史が持つ意味を日本を意識しながら考えます。	沖縄県内の博物館の常設展では、琉球・中国交流史に関わる資料が展示されています。また、企画展やシンポジウムが催されることもあります。博物館やシンポジウムに足を運んでモノや議論に接することをおすすめします。

到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・14世紀から19世紀にいたる琉中交流史の変遷をアジアの歴史と関連づけて理解できるようになる。 ・琉球の王権や政権にとって時期によって異なる琉中交流史が持つ意味を理解できるようになる。
------	---

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	イントロダクション、琉中交流史を始める前に	到達目標を理解する
	2	琉中交流史の研究の歴史—空白の40年間—	レジュメの参考文献にあたる
	3	琉球の国家形成と明朝の朝貢システム	レジュメの参考文献にあたる
	4	琉球の中継貿易①—東南アジア産品と中国商品—	レジュメの参考文献にあたる
	5	琉球の中継貿易②—16世紀の海域アジア世界—	レジュメの参考文献にあたる
	6	琉明関係の危機—朝鮮出兵と琉球侵攻の波紋—	レジュメの参考文献にあたる
	7	明清交替と琉球—南明政権・清朝・抗清復明運動—	レジュメの参考文献にあたる
	8	講義の折り返し地点で	到達目標を確認する
	9	近世の琉球王権と冊封	レジュメの参考文献にあたる
	10	琉球の朝貢ルート—進貢使の道—	レジュメの参考文献にあたる
	11	清代の北京と琉球使節	レジュメの参考文献にあたる
	12	琉清関係の危機—開港と太平天国運動の影響—	レジュメの参考文献にあたる
	13	琉中関係の分断—東アジア国際秩序の再編の一環として—	レジュメの参考文献にあたる
	14	琉中交流史をまとめる前に	到達目標を再確認する
15	まとめ	関心を持ったテーマを設定する	
16	期末試験	到達目標を意識して解答する	

学びの実践	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>【テキスト】教科書は使用しません。毎回レジュメと図表などの参考資料を配布します。</p> <p>【参考文献】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入間田宜夫／豊見山和行『〈日本の中世5〉北の平泉、南の琉球』（中央公論新社、2002年） ・豊見山和行『琉球王国の外交と王権』（吉川弘文館、2004年）、同編『日本の時代史18 琉球・沖縄史の世界』（吉川弘文館、2003年） ・西里喜行『清末中琉日関係史の研究』（京都大学学術出版会、2005年）
-------	---

学びの手立て	<ul style="list-style-type: none"> ・授業計画であげたテーマのなかで関心を持ったもの、関心を持ってそうなものを事前にピックアップしておきましょう。 ・講義を受けながら、中国の歴代王朝のなかでも明朝と清朝の共通点および相違点を考えてみましょう。
--------	--

評価	<p>期末試験もしくはレポート（80%）、授業参加度（20%）によって総合的に評価する。</p>
----	--

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>「アジア史」「沖縄前近代史Ⅰ・Ⅱ」を受講することを希望します。</p>
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	領域演習	通年	木4	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	前期：呉屋 淳子 後期：及川 高	2年	呉屋 (goyaj@okigei.ac.jp) 及川 (t.oikawa@okiu.ac.jp)	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>本演習の目的は、民俗学ならびに人類学（社会・文化人類学の根幹をなす調査・研究手法である「フィールドワーク」（現地調査）を通じて、対象社会・文化の諸テーマ／トピックに対する理解を深め、その調査成果を整理・分析し、報告書・論文としてまとめる作法の基礎を学ぶことにある。</p>	<p>①テーマ設定→②関連情報の収集・検討→③フィールドワーク→④調査データの整理・分析・発表（他者への説明・説得）。このプロセスを大学時代に経験することは、学生たちが本学卒業後の分野に進もうとも、必ず役に立つはずである。社会文化学科の真骨頂であるフィールドワークから、ぜひ多くのことを学んで欲しい。</p>
到達目標	<p>民俗学および人類学分野における研究の手法を理解し、フィールドワークを実践することで得た調査成果を整理・分析し、報告書あるいは論文としてまとめる。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画	テーマ	時間外学習の内容
	回		
	1	ガイダンス	
	2	文化人類学とは何か---フィールドワークという方法論	人類学のフィールドを考える
	3	モノを観察すること、日常を観察すること（1）	日常から文化を考える
	4	モノを観察すること、日常を観察すること（2）	日常の文化を記述する
	5	レジュメ作成方法・発表方法レポート・論文作法の流れ	レポート/論文の構成を考える
	6	調査計画&文献研究の作法	自身の調査テーマを探す
	7	フィールドワークの作法	身の周りの人にインタビューをする
	8	テーマ設定と班分け	班毎にテーマを絞り込む
	9	文献検索と下調べ（1）	班毎で文献を探す
	10	文献検索と下調べ（2）	班毎で文献を読み込む
	11	ミニ・フィールドワーク：「写真で発見ワークショップ」	フィールドでの見聞を記録する
	12	各班の発表（1）	発表準備&課題の発見
	13	各班の発表（2）	発表準備&課題の発見
	14	各班の発表（3）	発表準備&課題の発見
	15	まとめ	
	16	（予備日）	
	17	ガイダンス 後期のゼミの進め方・評価の仕方	民族誌を読んでくる
	18	民族誌の読解と批評	民族誌を読んでくる
	19	民族誌の読解と批評	民族誌を読んでくる
	20	民族誌の読解と批評	民族誌を読んでくる
	21	民族誌の読解と批評	民族誌を読んでくる
	22	民族誌の読解と批評	民族誌を読んでくる
	23	民族誌の読解と批評	民族誌を読んでくる
	24	民族誌の読解と批評	民族誌を読んでくる
	25	民族誌の読解と批評	民族誌を読んでくる
	26	民族誌の読解と批評	民族誌を読んでくる
	27	民族誌の読解と批評	民族誌を読んでくる
	28	民族誌の読解と批評	民族誌を読んでくる
	29	民族誌の読解と批評	民族誌を読んでくる
30	民族誌の読解と批評	民族誌を読んでくる	
31	後期まとめ		

学	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>呉屋：日本文化人類学会（監修）2011『フィールドワーカーズ・ハンドブック』世界思想社 及川：上野和男・高桑守史・福田アジオ・宮田登（編）1987『新版 民俗調査ハンドブック』吉川弘文館</p>
び の 実 践	<p>学びの手立て</p> <p>各自の身の回りあるいは沖縄各地で行われている祭りや行事などに関心を持ち、その内容を自身で調べてみよう。まずは現場（フィールド）に足を運んでみる。そして、現場で見聞きしたことを（ノート、ICレコーダー、カメラ、ビデオなどを用いて）記録する。その際、重要な情報を持っている人物に接触できるか、どのようにして必要な情報を聞き出すのがポイントになる。文献なども踏まえながら、こうして得られた記録・資料を何度も読み返してさらなる調査を進めるうちに、あなたはあなたが対象とした社会・文化的事象の構造・メカニズムを徐々に理解するだろう。</p>
	<p>評価</p> <p>①演習への参加姿勢（40%）ならびに②課題への取り組み（40%）と③その成果（20%）を総合的に評価する。なお②・③を評価するため、教員によっては、期末試験あるいは課題レポート（調査報告）などを課す場合がある。</p>
学 び の 継 続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>沖縄文化入門、民俗学概論、文化人類学概論、アジア文化概論、アジア社会文化論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、比較民俗学、文化人類学理論、etc.</p>

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	領域演習	通年	木4	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	前期：崎濱佳代 後期：鳥山淳	2年	講義時間およびオフィスアワーに対応する	

学びの準備	ねらい 社会文化学科2年次の「社会・平和領域」の学生を対象として、ゼミナール形式の授業を行う。社会文化学科で取り組む調査・研究の基礎を構築するために、専門用語・概念の理解および専門的な調査の方法を身につけることを目的とする。	メッセージ 専門的な学びの基礎をしっかりと身につけること。
	到達目標 専門的な調査・研究方法の基礎を修得し、3年次の演習と実習に対応できる能力を身につける	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	社会学とはなにか：これから学ぶこと	授業で指示した課題に取り組む
	2	自己紹介	授業で指示した課題に取り組む
	3	社会学の入門的文献の輪読・報告とディスカッション（家族）	授業で指示した課題に取り組む
	4	社会学の入門的文献の輪読・報告とディスカッション（地域）	授業で指示した課題に取り組む
	5	社会学の入門的文献の輪読・報告とディスカッション（生活）	授業で指示した課題に取り組む
	6	社会学の入門的文献の輪読・報告とディスカッション（社会的役割）	授業で指示した課題に取り組む
	7	社会学の入門的文献の輪読・報告とディスカッション（社会関係資本と連帯）	授業で指示した課題に取り組む
	8	社会学の入門的文献の輪読・報告とディスカッション（社会問題）	授業で指示した課題に取り組む
	9	社会学の入門的文献の輪読・報告とディスカッション（グローバル化と現代①）	授業で指示した課題に取り組む
	10	社会学の入門的文献の輪読・報告とディスカッション（グローバル化と現代②）	授業で指示した課題に取り組む
	11	社会学の入門的文献の輪読・報告とディスカッション（グローバル化と現代③）	授業で指示した課題に取り組む
	12	ビブリオ・バトル①	授業で指示した課題に取り組む
	13	ビブリオ・バトル②	授業で指示した課題に取り組む
	14	ビブリオ・バトル③	授業で指示した課題に取り組む
	15	ビブリオ・バトル④	授業で指示した課題に取り組む
	16	後期の課題と進め方について	配布資料の精読と確認
	17	平和学の入門的文献に関する報告とディスカッション①	文献の精読と報告の準備
	18	平和学の入門的文献に関する報告とディスカッション②	文献の精読と報告の準備
	19	平和学の入門的文献に関する報告とディスカッション③	文献の精読と報告の準備
	20	平和学の入門的文献に関する報告とディスカッション④	文献の精読と報告の準備
	21	新聞記事に関する報告とディスカッション①	新聞記事の調査と報告の準備
	22	新聞記事に関する報告とディスカッション②	新聞記事の調査と報告の準備
	23	新聞記事に関する報告とディスカッション③	新聞記事の調査と報告の準備
	24	新聞記事に関する報告とディスカッション④	新聞記事の調査と報告の準備
	25	フィールドワークの選択肢と課題の説明	配布資料の精読と確認
	26	調査の対象と目的に関する報告	関連情報の収集と報告の準備
	27	調査報告とディスカッション①	調査内容の確認と報告の準備
	28	調査報告とディスカッション②	調査内容の確認と報告の準備
29	調査報告とディスカッション③	調査内容の確認と報告の準備	
30	調査報告とディスカッション④	調査内容の確認と報告の準備	
31			

学	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>【前期】</p> <p>①輪読する社会学の入門的文献については、授業で配布する。</p> <p>②ビブリオ・バトルについては、テーマに関する本を各自選定・準備して対応する。</p> <p>【後期】</p> <p>必要な文献を講義内で提示する</p>
び の 実 践	<p>学びの手立て</p> <p>課題に取り組む熱意とチームワークが不可欠である。</p>
	<p>評価</p> <p>【前期】 参加姿勢20%、各種課題への取り組み40%、報告内容および提出状況40%</p> <p>【後期】 参加姿勢30%、課題への取り組みと報告内容70%</p>
学 び の 継 続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>3年次の演習 I および実習につながる</p>

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	領域演習	通年	木4	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	前期：上原 静 後期：宮城 弘樹	2年	研究室5-417 E-mail sizuka@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	考古学はモノを通して学ぶ学問である。したがって実際に発掘することによって、まず調査の方法（測量、層位の識別、遺物の検出、データの整理法、図版作成など）について学ぶ。しかし、遺跡の発掘は、一種の遺跡破壊行為でもある。一度発掘してしまうと、遺跡は再び元には戻らない。このことを十分認識し、発掘に際しては周到な計画と、細心の注意が必要なることを理解してもらう。そうす	考古学領域は他のコースと異なり、前期、後期を一環して行うため、コース選択の際に注意すること。
到達目標	考古学の専門用語を学ぶ。 考古学におけるモノの捉え方、考え方、調査方法を学ぶ。 発掘調査報告書や論文が読め、内容の発表ができる。	

学びの実践	学びのヒント
	授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む）
	第1～5週 考古学の考え方を把握してもらう。 第6～10週 沖繩の先史文化について概説する。 第11～15週 土器、石器、骨器、貝器、陶磁器などの人工遺物について紹介する。 第16～18週 遺物の洗浄、註記、分類、集計を行う。 第19～25週 遺物の観察、実測、トレースを行う。 第26～30週 図版の作成とともに記述を行い、発掘調査報告書を仕上げる。 時間外は参考文献、配布資料を精読してもらう。
	テキスト・参考文献・資料など 藤本 強『考古学を学ぶ』雄山閣出版 1966年 高宮廣衛『先史古代の沖繩』第一書房 1991年 佐々木憲一他『はじめて学ぶ考古学』有斐閣アルマ 2011年 他多数、講義において随時紹介する。
学びの手立て	考古学領域は卒業後にはすぐ専門職に就けるような修学の組み立てをしています。コース選択の際に注意すること。考古学はモノを対象に研究することから、積極的に屋外にでて、遺跡や貝塚を訪れ、また、資料館、博物館で実際のモノをみましよう。
評価	1、レポート、随時試験を課す（90%）。 2、遅刻、欠席は減点の対象とする（10%）。

学びの継続	次のステージ・関連科目 関連科目として「南島先史学」「南島考古学Ⅰ・Ⅱ」「考古学特講Ⅰ・Ⅱ」「アジア考古学」「考古学概論2」 。先史古代の環境と社会文化の関わりについて、多様な視点でみる必要から社会文化学科提供科目を広く受講する。 。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	領域演習	通年	木4	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	前期：藤波 潔 後期：深澤 秋人	2年	藤波：fujinami@okiu.ac.jp 深澤：a.fukazawa@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>社会文化学科では、領域演習を「専門領域における調査・研究の基礎を構築する」科目として位置づけている。したがって、本演習では、歴史学の専門的な研究方法の基礎を修得させることを目的とする。具体的には、歴史研究に不可欠な工具類の活用法、専門文献の収集法、基礎的な歴史概念やフィールドワークを踏まえた歴史事象の理解を目的とする。</p>	<p>歴史領域の受講生は、3年次の演習Ⅰで前近代史と近現代史の2つのゼミに分かれることになる。そのため、演習Ⅰを担当する2人の教員で領域演習を担当するので、3年次以降の演習選択の参考にしてもらいたい。</p>
到達目標	<p>(1) 琉球・沖縄史に関する基本的な歴史概念や歴史事象を理解することができる。 (2) 歴史研究に必要な研究書や専門論文を収集し、概要を読解することができる。 (3) 歴史研究に不可欠な工具類やデータベースを、利用することができる。 (4) 歴史史料読解の基本的能力を習得できる。 (5) フィールドワークに積極的に参加し、五感を活用して歴史理解を深めようとする姿勢を持つことができる。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス (担当：藤波 1～15回)	シラバス内容の理解
	2	歴史研究の全体像を知る	ワークシートの作成・提出
	3	基本的な事実を知る① (基本文献の理解)	ワークシートの作成・提出
	4	基本的な事実を知る② (研究工具の理解)	ワークシートの作成・提出
	5	基本的な事実を知る③ (博物館・史料館の理解)	ワークシートの作成・提出
	6	フィールドワーク実習① (不屈館)	ワークシートの作成・提出
	7	先行研究を調べる① (紀要、専門雑誌を知る)	ワークシートの作成・提出
	8	先行研究を調べる② (データベースを利用する)	ワークシートの作成・提出
	9	フィールドワーク実習② (波之上、泊地区)	ワークシートの作成・提出
	10	史料を集める① (歴史史料の多様性を知る)	ワークシートの作成・提出
	11	史料を集める② (歴史史料の所在を知る)	ワークシートの作成・提出
	12	フィールドワーク実習③ (史料収集演習)	ワークシートの作成・提出
	13	史料を読む①	史料読解の予習
	14	史料を読む②	史料読解の予習
	15	史料を読む③	史料読解の予習
	16	イントロダクション、後期の授業計画の確認 (担当：深澤16～31回)	到達目標の確認
	17	『沖縄県史』と市町村史について	レジュメの参考文献にあたる
	18	県内市町村史の資料編について	課題の作成と提出
	19	近世琉球の地域社会－宜野湾間切我如古村の世界－	レジュメの参考文献にあたる
	20	我如古旧集落のフィールドワーク	課題の作成と提出
	21	「日記総目録」の解題を読む	『琉球王国評定所文書』にあたる
	22	「日記総目録」を読む①	史料を音読する
	23	「日記総目録」を読む②	史料を音読する
	24	「日記総目録」を読む③	史料を音読する
	25	「日記総目録」を読む④	課題の作成と提出
	26	県内機関の見学 (予定)	課題の作成と提出
	27	琉球・沖縄史研究と比嘉春潮	『比嘉春潮全集』にあたる
	28	「ある筆算人の一生」を読む①	課題作成の準備
	29	「ある筆算人の一生」を読む②	課題作成の準備
30	「ある筆算人の一生」を読む③	課題作成の準備	
31	まとめ、3年次の取り組みについて	課題の提出、到達目標の再確認	

学	<p>テキスト・参考文献・資料など 特定のテキストは使用せず、レジュメ・プリントを配付する。 参考文献は、適宜紹介する。</p>
び の 実 践	<p>学びの手立て</p> <p>① 社会文化学科 2 年次を対象とした学科専門必修科目である。 ② 1 年次の学年末に提出した領域演習希望届に基づき、歴史領域に配属された者だけが履修できる。 ③ ゼミは、学生の主体的な学びによって成り立つので、積極的な参加が求められる。 ④ 前期、後期の詳細な内容は、それぞれの担当者が 1 回目の授業の際に説明する。</p>
	<p>評価</p> <p>上記の到達目標の達成を指標として、前期、後期それぞれ100点で評価し、合算して総合成績とする。なお、担当者ごとの評価方法と割合は、下記の通りとする。 藤波：事実確認（25%）、先行研究調査（30%）、フィールドワーク（20%）、史料読解（25%） 深澤：課題（80%）、授業参加度（20%）</p>
学 び の 継 続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>歴史領域の 2 年次は、領域演習の他に「社会調査法 I・II」「外国語資料講読演習 I・II」が必修科目となっている。それぞれクラス指定があるので、指定されたクラスで受講すること。 また、異文化理解科目のうち 1 科目以上が選択必修科目となっているが「アジア史」は必ず履修すること。 歴史研究にとって史料読解は不可欠の能力なので、「古文書講読 I・II」は早めに修得することを勧める。</p>

科目基本情報	科目名 歴史学概論	期別 後期	曜日・時限 火2	単位 2
	担当者 藤波 潔	対象年次 1年	授業に関する問い合わせ 研究室 (5434)、またはfujinami@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 本講義では、歴史を学ぶ目的を確認した上で、人間が過去の出来事をどのように認識してきたのかについて考察する。また、歴史認識をめぐる摩擦という現代的課題について、その問題の所在を幾つかの事例に基づいて把握する。これにより、歴史を学ぶことにおける人間と社会の関係を理解し、その前提に立って歴史を学ぶことの意味を考えられるようにすることを目的とする。	メッセージ ① この科目は、社会文化学科1年時を対象とした、学科専門の必修科目です。 ② また、「学問体系の基本を理解する」ことを目的とした「基礎科目」として位置づけられているので、「学問としての歴史学」を学びます（日本史や世界史のような通史をまなぶものではありません）。
	到達目標 (1) 特定の歴史理論について、その理論が登場した当時の時代や社会との関わりから説明することができる。 (2) 現代社会の状況を踏まえつつ、「歴史問題」の実態を理解し、その問題の所在を自らの言葉で論理的に表現することができる。 (3) 歴史認識の歴史に関わる人物や基本的な歴史理論を修得し、特定の歴史理論について論理的に説明できる。 (4) 歴史認識に関する資料を読解し、その結果を表現できる。 (5) 時間外学習に主体的に取り組み、「学問としての歴史」を学ぼうとする姿勢を有することができる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス：講義に関するルールは何か？	シラバス記載内容の理解
	2	イントロダクション：なぜ、どのように歴史を学ぶのか？	ワークシートの作成・提出
	3	社会と歴史認識の関係①（ギリシア・ローマ①）	ワークシートの作成・提出
	4	社会と歴史認識の関係②（ギリシア・ローマ②）	ワークシートの作成・提出
	5	社会と歴史認識の関係③（ヨーロッパ中世社会の特徴）	ワークシートの作成・提出
	6	社会と歴史認識の関係④（中世社会と普遍史の成立）	ワークシートの作成・提出
	7	社会と歴史認識の関係⑤（ルネサンス的歴史認識）	ワークシートの作成・提出
	8	社会と歴史認識の関係⑥（啓蒙主義の時代と進歩史観）	ワークシートの作成・提出
	9	社会と歴史認識の関係⑦（19世紀ヨーロッパ世界とロマン主義）	ワークシートの作成・提出
	10	社会と歴史認識の関係⑧（ランケと近代歴史学の成立）	ワークシートの作成・提出
	11	社会と歴史認識の関係⑨（唯物史観とアナール派）	ワークシートの作成・提出
	12	現代の「歴史問題」①（独仏間の事例）	ワークシートの作成・提出
	13	現代の「歴史問題」②（日韓間の事例①）	ワークシートの作成・提出
	14	現代の「歴史問題」③（日韓間の事例②）	ワークシートの作成・提出
	15	現代の「歴史問題」④（問題の所在と克服へ向けて）	ワークシートの作成・提出
16	学期末試験		

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など 特定のテキストは使用せず、レジュメを配付する。 主な参考文献は、下記の通り。 ①山本博文『歴史をつかむ技法』（新潮社、2013年）、②弓削達『歴史学入門』（東京大学出版会、1986年）、③E.H.カー『歴史とは何か』（岩波書店、1962年）、④南塚信吾『世界史なんていらない？』（岩波書店、2007年）、他
-------	---

学びの手立て	① 履修の心構え 単に出席しただけでは、単位の修得につながりません。また、出席自体は評価の対象ではありません。講義をしっかりと聴き、重要な点はメモを作成した上で、ノートの作成に取り組んで、ワークシートを作成・提出するようにしてください。 ② 学びを深めるために 講義内容を振り返ることができる、自分独自の「ノート作成術」を確立してください。ノートは、講義中に作成する「メモ」、講義資料、板書内容等に基づいて、講義の後に復習を兼ねて作成するものです。
--------	---

評価	到達目標（1）の評価 : レポート（30%） 到達目標（2）の評価 : 学期末試験（30%） 到達目標（3）（4）の評価 : ワークシートの内容（25%） 到達目標（5）の評価 : ワークシートの提出（15%） による総合評価とする。なお、それぞれの評価基準については、最初の講義の時に説明する。なお、出席が講義回数分の3分の2に満たない者は、レポートと試験の評価の対象外です。
----	--

学びの継続	次のステージ・関連科目 社会文化学科専門科目の1年次対象の基礎教育科目は、他に5科目あります。これらの科目を履修して、それぞれの専門分野の学問体系の基礎を学んだ上で、2年次の領域演習や、3年次以降の演習Ⅰ・Ⅱを選択するようにしてください。
-------	--